C8
4
1
+2万-22
テナナR-48

朕帝國政府ト佛蘭西國政府トノ間ニ締結セル裁判管轄權ニ關スル議定書ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十二年六月三十日（官報 七月一日）

40.5.28
内閣書記官室

内閣總理大臣侯爵山縣有朋
外務大臣子爵青木周藏

議定書

日本國皇帝陛下ノ政府及佛蘭西共和國政府ハ明治二十九年八月四日締結日佛通商航海條約實施ノ時ニ方リ日本國ニ於ケル佛蘭西國裁判所ニ於テ未決ニ係ル事件ニ對スル裁判管轄權ノ執行ニ關シ規定ヲ設クルヲ以テ司法處分上便益ナリト認メ左ノ通約定セリ

前記通商航海條約實施ノ時ニ方リ日本國ニ於ケル佛蘭西國裁判所ニ於テ現ニ未決ニ係ル民刑事ノ事件及手續ニ關スル佛蘭西國裁判所ノ管轄權ハ終局ノ判決ニ至ル迄繼續スヘキモノトス

右證據トシテ下記日本國皇帝陛下ノ外務大臣及日本國ニ駐箚スル佛蘭西共和國特命全權公使ハ之カ爲各其ノ政府ヨリ正當ノ委任ヲ受ケ之ニ記名調印スルモノナリ

明治三十二年六月十九日東京ニ於テ本書二通ヲ作ル

子爵 青木周藏 印

シュール、アルマン 印

○

朕帝國政府ト白耳義國政府トノ間ニ締結セル裁判管轄權ニ關スル議定書ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十二年六月三十日（官報　七月一日）

内閣總理大臣侯爵山縣有朋
外務大臣子爵青木周藏

議定書

日本國皇帝陛下ノ政府及白耳義國皇帝陛下ノ政府ハ明治二十九年六月二十二日締結日白通商航海條約實施ノ時ニ方リ日本國ニ於ケル白耳義國裁判所ニ於テ未決ニ係ル事件ニ對スル裁判管轄權ノ執行ニ關シ規定ヲ設クルヲ以テ司法處分上便益ナリト認メ左ノ通約定セリ

前記通商航海條約實施ノ時ニ方リ日本國ニ於ケル白耳義國裁判所ニ於テ現ニ未決ニ係ル民刑事ノ事件及手續ニ關スル白耳義國裁判所ノ管轄權ハ終局ノ判決ニ至ル迄繼續スヘキモノトス

右證據トシテ下記日本國皇帝陛下ノ外務大臣及日本國ニ駐箚スル白耳義國皇帝陛下ノ特命全權公使ハ之カ爲各其ノ政府ヨリ正當ノ委任ヲ受ケ之ニ記名調印スルモノナリ

明治三十二年六月十九日東京ニ於テ本書二通ヲ作ル

子爵　青木周藏　印
男爵アルベール、ダヌタン　印

○

朕京都帝國大學法科大學及醫科大學講座ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十二年七月三日

文部大臣伯爵樺山資紀

勅令第三百二十一號（官報　七月四日）

第一條　京都帝國大學法科大學及醫科大學ニ置クヘキ講座ノ種類及其ノ數左ノ如シ

法科大學

憲法　一講座
國法學　一講座
民法　三講座
商法、破產法　二講座
民事訴訟法　一講座
刑法、刑事訴訟法　一講座
經濟學　二講座
財政學　一講座
統計學　一講座
政治學、政治史　一講座
行政法　一講座

國際公法　一講座
國際私法　一講座
法制史比較法制史　一講座
羅馬法　一講座
英吉利法　一講座
佛蘭西法　一講座
獨逸法　一講座
法理學　一講座

醫科大學

解剖學　二講座
胎生學　一講座
生理學　一講座
醫化學　一講座
病理學　一講座
病理解剖學　一講座
藥物學　二講座
內科學　三講座
產科學　一講座
婦人科學　一講座

小兒科學　一講座
外科學　三講座
眼科學　一講座
皮膚病學、黴毒學　一講座
精神病學　一講座
衞生學　二講座
法醫學　二講座
耳鼻咽喉科學　一講座
齒科學　一講座

第二條　明治三十二年九月ヨリ開始スヘキ講座ノ種類及其ノ數左ノ如シ

法科大學

憲法　一講座
國法學　一講座
民法　二講座
商法　一講座
民事訴訟法　一講座
刑法、刑事訴訟法　一講座
行政法　一講座
國際私法　一講座

羅馬法　一講座

醫科大學

解剖學　一講座

生理學　一講座

醫化學　一講座

衛生學　一講座

內科學　二講座

外科學　二講座

○

朕臺灣ニ登錄稅法ヲ施行スルノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十二年七月四日

內閣總理大臣侯爵山縣有朋

內務大臣侯爵西鄕從道

勅令第三百二十二號（官報七月五日）

登錄稅法中土地ノ登記ニ關スルモノ及第四條第五條第八條第九條第十四條ヲ除クノ外之ヲ臺灣ニ施行ス

○

朕臺灣總督府ニ於テ鐵道事業ニ要スル鐵道用品ノ賣買貸借ニ關スル隨意契約ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十二年七月四日

大藏大臣伯爵松方正義

內務大臣侯爵西鄕從道

勅令第三百二十三號（官報七月五日）

臺灣總督府ニ於テ鐵道事業ニ要スル車輛器具機械其ノ他鐵道用品ヲ官廳若ハ私設鐵道會社ヨリ買入借入又ハ官廳若ハ私設鐵道會社ニ賣渡貸渡ストキハ隨意契約ニ依ルコトヲ得

○

朕臺灣總督府法院判官檢察官及書記ノ服制ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十二年七月四日

內務大臣侯爵西鄕從道

勅令第三百二十四號（官報七月五日）

第一條　臺灣總督府法院判官檢察官及書記ハ公開シタル法廷ニ於テハ一定ノ制服ヲ著ス

第二條　判官檢察官及書記ノ服制ハ明治二十三年勅令第二百六十號ニ依ル但シ覆審法院判官及檢察官ハ控訴院判事及檢事ノ制服ヲ著スベシ

附則

本令ノ施行期日ハ臺灣總督之ヲ定ム

○

朕陸軍所屬特別文官俸給令改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十二年七月四日

陸軍大臣子爵桂太郎

勅令第三百二十五號（官報　七月五日）

陸軍所屬特別文官俸給令改正ス

陸軍所屬特別文官俸給令

第一條　勅任官及奏任官ノ年俸ハ第一表判任官以下ノ月俸ハ第二表ニ依リ之ヲ給ス

理事試補ハ軍法會議ノ構成員ヲ命セラレタル者ニ限リ五百圓以内ノ年俸ヲ給ス

第二條　臺灣衞戍監獄附陸軍監獄看守ニハ特ニ三級俸以上ヲ給ス

第三條　陸軍教授及陸地測量師ニハ第一表定ムル所ノ年俸最低額以下ヲ給スルコトヲ得

附則

現任判任官ニシテ本令施行ノ際別ニ辭令書ヲ交付セラレサル者ハ現ニ受クル所ノ俸給額相當ノ俸給ヲ受クルモノトス、

第一表

官名	年俸等級												
	一級俸	二級俸	三級俸	四級俸	五級俸	六級俸	七級俸	八級俸	九級俸	十級俸	十一級俸	十二級俸
理事	三千圓	二千四百圓	二千二百圓	二千圓	千八百圓	千六百圓	千四百圓	千二百圓	千圓	九百圓	八百圓	七百圓	六百圓

第二表

官名	月俸等級												
	一級俸	二級俸	三級俸	四級俸	五級俸	六級俸	七級俸	八級俸	九級俸	十級俸			
陸軍教授	二千五百圓	二千二百圓	二千圓	千八百圓	千六百圓	千四百圓	千二百圓	千圓	九百圓	八百圓	七百圓	六百圓	
陸軍編修官	千八百圓	千六百圓	千四百圓	千二百圓	千圓	九百圓	八百圓	七百圓	六百圓	五百圓			
陸地測量師	千八百圓	千六百圓	千四百圓	千二百圓	千圓	九百圓	八百圓	七百圓	六百圓	五百圓			
陸軍監獄長	八百圓	七百圓	六百圓										
千住製絨所長	二千圓												
陸軍教授	七十五圓	六十圓	五十圓	四十五圓	四十圓	三十五圓	三十圓	二十五圓	二十圓	十五圓			
陸軍編修官	四十圓	三十五圓	三十圓	二十五圓	二十圓	十五圓							
陸軍通譯官	三十圓	二十五圓	二十圓	十五圓									
陸軍地測量師	二十圓	十五圓	十圓	九圓									
陸軍通譯生	十五圓	十圓	九圓										
陸軍監獄書記	四十圓	三十五圓	三十圓	二十五圓	二十圓	十五圓							
陸軍監獄看守長	十五圓	十圓	九圓										
陸軍監獄看守	十圓	九圓											

○

朕海港檢疫法施行ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十二年七月五日

勅令第三百二十六號（官報　七月六日）

內務大臣侯爵西鄕從道

海港檢疫法ヲ明治三十二年八月四日ヨリ施行ス

○

朕明治三十二年法律第五十號施行ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十二年七月五日

司法大臣清浦奎吾

勅令第三百二十七號（官報　七月六日）

明治三十二年法律第五十號ヲ明治三十二年七月十七日ヨリ施行ス

〔參照〕

明治三十二年三月十日官報法律第五十號ハ外國人ノ署名捺印及無資力證明ニ關スル件ナリ

○

陸要港部條例中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十二年七月五日

海軍大臣山本權兵衛

勅令第三百二十八號（官報　七月六日）

要港部條例中左ノ通改正ス

第二條中「要港ノ守備」ノ下ニ「及其ノ附近ノ海岸海面ノ警備」ヲ加フ

第四條　司令官ハ鎮守府司令長官ニ隷シ部下艦船隊ヲ統率シ軍紀風紀ヲ維持シ要港ノ防禦及其ノ附近ノ海岸海面ノ警備ニ任シ部務ヲ總理ス但シ戰時ニ在テハ獨立指揮權ヲ有スルコトアルヘシ

第六條ノ次ニ左ノ一條ヲ加フ

第六條ノ二　司令官缺員中若ハ事故アリテ其ノ職務ヲ執ルコト能ハサルトキハ部下ノ首席將校其ノ職務ヲ代理ス

附則

本令ハ明治三十二年七月十一日ヨリ施行ス

〔參照〕

勅令第四號要港部條例（明治二十九年一月二十一日官報）抄錄

第二條　要港部ハ鎮守府ニ屬シ要港ノ守備ヲ掌リ兼テ軍需品ノ配給、艦船兵器ノ小修理ヲ爲ス所トス

第四條　司令官ハ鎮守府司令長官ニ隷シ部下艦船隊ヲ統率シ軍紀風紀ヲ維持シ要港ノ靜謐ヲ保チ專ラ其ノ防禦ニ任シ部務ヲ總理ス但戰時ニ在テハ獨立指揮權ヲ有スルコトアルヘシ

○

朕外國人又ハ外國法人ノ權利ノ目的タル不動產ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十二年七月六日

外務大臣子爵青木周藏

司法大臣　清浦奎吾

勅令第三百二十九號（官報　七月七日）

第一條　外國人又ハ外國法人カ不動產ニ關シ明治三十二年勅令第二百五十一號ヲ以テ定メタル期日前ニ適法ニ取得シタル權利カ第三者ニ對抗シ得ヘキモノナル場合ニ於テ右ノ期日前ニ其登記アラサリシトキハ其期日ヨリ一年內ニ登記ヲ爲スニ非サレハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第二條　前條ノ不動産ニ關シテハ別ニ登記簿ヲ設ケ其不動産ノ所在地ヲ管轄スル登記所ニ之ヲ備ヘ置クコトヲ要ス

第三條　前條ノ登記簿ハ其一用紙ヲ登記番號欄、表題部及ヒ甲乙丙丁ノ四區ニ分チ尚ホ表題部ニ表示欄、表示番號欄ヲ設ケ各區ニ事項欄、順位番號欄ヲ設ク

登記番號欄ニハ各土地又ハ各建物ニ付キ登記簿ニ始メテ登記ヲ爲シタル順序ヲ記載ス

表示欄ニハ土地又ハ建物竝ニ附屬建物ノ表示ヲ爲シ及ヒ其變更ニ關スル事項ヲ記載シ表示番號欄ニハ表示欄ニ登記事項ヲ記載シタル順序ヲ記載ス

甲區事項欄ニハ土地登記簿ニ在リテハ地上權、建物登記簿ニ在リテハ所有權ニ關スル事項ヲ記載ス

乙區事項欄ニハ先取特權、質權及ヒ抵當權ニ關スル事項ヲ記載ス

丙區事項欄ニハ賃借權ニ關スル事項ヲ記載ス

丁區事項欄ニハ前三項ニ掲ケサル權利ニ關スル事項ヲ記載ス

順位番號欄ニハ事項欄ニ登記事項ヲ記載シタル順序ヲ記載ス

第四條　登記ヲ申請スルニハ第三者ニ對抗スヘキ事項ヲ申請書ニ記載シ且必要ナル證明書類ヲ添附スルコトヲ要ス

第五條　第一條ノ不動産ニ關スル外國領事廳ノ登記簿ノ謄本ハ登記簿ト同一ノ效力ヲ有ス

不動産登記法第百六十三條ノ規定ハ外國領事廳ニ於テ登記シタル不動産ニ付キ此勅令施行ノ後登記ノ申請アリタル場合ニ之ヲ準用ス

司法大臣ハ前二項ニ定メタル事項ニ關シ必要ナル省令ヲ發スルコトヲ得

第六條　此勅令ニ規定セサル事項ニ付テハ不動産登記法ノ規定ヲ準用ス

附　則

此勅令ハ明治三十二年七月十七日ヨリ之ヲ施行ス

○

朕海軍砲術練習所條例中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十二年七月六日

海軍大臣山本權兵衛

勅令第三百三十號（官報　七月七日）

海軍砲術練習所條例中左ノ通改正ス

第十七條　掌砲兵ト爲スヘキ者ハ海軍一等兵曹以下二等水兵以上ノ者ニシテ左ノ諸項ニ適合スル者ノ中ヨリ之ヲ選拔ス

一　身體强健視力完全品行方正ナル者

二　掌砲兵タルヘキ技能學力ヲ有スト認メタル者

三　射擊及距離目測ニ長シ又ハ長スヘキ見込アル者

四　掌砲兵タランコトヲ志願シ卒業後一回以上再服役ヲ爲スヘキコトヲ誓約スル者

第十八條　砲術教員ト爲スヘキ者ハ一等掌砲證狀ヲ有スル一等兵曹以下一等水兵以上ニシテ卒業後三箇年以上現役ニ服スヘキコトヲ誓約スル者ノ中ヨリ所長之ヲ選拔ス

第十九條中第二號ノ次ニ左ノ一號ヲ加フ

三　射撃及距離目測ノ成績優等ナル者

第二十一條　削除

〔參照〕

勅令第三百二十八號海軍砲術練習所條例（明治三十年九月二十四日官報）抄錄

第十七條　掌砲兵ト爲スヘキ者ハ其ノ志願者ニ就キ左ノ諸項ニ適合スル者ヨリ選拔スヘシ

一　海軍一等兵曹以下三等水兵以上ノ者

二　身體强健、氣力アツテ掌砲兵タルニ適スル者

三　氣力アツテ掌砲兵タルニ適スル者

四　卒業後五箇年以上現役ニ服スヘキ者

五　入學試驗ニ合格シタル者

第十八條　砲術教員ト爲スヘキ者ハ一等掌砲證狀ヲ有スル海軍兵曹若ハ一等水兵ニシテ卒業後三箇年間現役ニ服スヘキ者ノ中ヨリ所長之ヲ選拔ス

第十九條　砲術ノ復習ヲ爲ス者ハ既ニ修得シタルモノヲ復習セシコトヲ志願シ左ノ諸項ニ適合スル者ヨリ選拔スヘシ

一　身體强健、氣力完全、品行方正ナル者

二　卒業後三箇年以上現役ニ服スヘキ者

第二十一條　入學試驗ノ規格ハ所長之ヲ定ム

○

陸海軍水雷術練習所條例中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十二年七月六日

海軍大臣山本權兵衛

勅令第三百三十一號（官報七月七日）

海軍水雷術練習所條例中左ノ通改正ス

第十八條　掌水雷兵ト爲スヘキ者ハ海軍一等兵曹以下二等水兵以上ノ者、水雷工ト爲スヘキ者ハ海軍一等機關兵曹以下二等機關兵以上ノ者ニシテ左ノ諸項ニ適合スル者ノ中ヨリ之ヲ選拔ス

一　身體强健、品行方正ナル者

二　掌水雷兵若ハ水雷工タルヘキ技能學力ヲ有スト認メタル者

三　掌水雷兵若ハ水雷工タランコトヲ志願シ卒業後一回以上再服役ヲ爲スヘキコトヲ誓約スル者

第十九條　水雷術教員ト爲スヘキ者ハ一等掌水雷證狀ヲ有スル海軍一等兵曹以下一等水兵以上ニシテ卒業後三箇年以上現役ニ服スヘキコトヲ誓約スル者ノ中ヨリ所長之ヲ選拔ス

第二十二條　削除

〔參照〕

勅令第三百二十九號海軍水雷術練習所條例（明治三十年九月二十四日官報）抄錄

第十八條　掌水雷兵若ハ水雷工ト爲スヘキ者ハ各其ノ志願者ニ就キ左ノ諸項ニ適合スル者ヨリ選拔スヘシ　但シ當分ノ內海軍一等兵曹ヲ選拔シテ之ニ練習生ヲ命スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ第四ノ規程ヲ適用セス

一　掌水雷兵ト爲スヘキ者ハ、海軍一等兵曹以下三等水兵以上水雷工ト爲スヘキ者ハ海軍一等機關兵曹以下三等機關兵以上及海軍一等段冶手以下三等段冶以上ノ者

二　身體强健品行方正ナル者

三　氣力アツテ掌水雷兵タルニ適スル者

四　卒業後五箇年以上現役ニ服スヘキ者

五　入學試驗ニ合格シタル者

第十九條　水雷術教員ト爲スヘキ者ハ一等掌水雷證狀ヲ有スル海軍兵曹若ハ一等水兵ニシテ卒業後三箇年間現役ニ服スヘキ者ノ中ヨリ所長之ヲ選拔ス

第二十二條　入學試驗ノ規格ハ所長之ヲ定ム

○

朕海軍機關術練習所條例中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十二年七月六日

海軍大臣山本權兵衛

勅令第三百三十二號（官報　七月七日）

海軍機關術練習所條例中左ノ通改正ス

第二條　海軍機關術練習所ハ横須賀鎮守府ニ屬シ機關術ノ教授ヲ掌リ且機關ニ關スル工業ノ改良進歩ヲ圖ル所トス

第五條第一項中「擔任シ」ヲ「擔任ス」ニ改メ「又機關術ノ研究調査ニ關スル事ヲ掌ル」ヲ削ル

第十三條　海軍機關術練習所ニ於テ教授スル下士卒ヲ左ノ四種ニ區別ス

一　機關術教員ト爲スヘキ者

二　機關工ト爲スヘキ者

三　船匠工ト爲スヘキ者

四　兵器工ト爲スヘキ者

第十四條　海軍機關術練習所ニ於テ教授スル機關術教員ト爲スヘキ者ヲ機關術練習生ト稱シ機關工ト爲スヘキ者ヲ機關工練習生ト稱シ船匠工ト爲スヘキ者ヲ船匠工練習生ト稱シ兵器工ト爲スヘキ者ヲ兵器工練習生ト稱ス

第十五條　機關術教員ト爲スヘキ者ハ一等機關工證狀ヲ有スル海軍一等機關兵曹以下一等機關兵以上ニシテ卒業後三箇年以上現役ニ服スヘキコトヲ誓約スル者ノ中ヨリ所長之ヲ選拔ス

第十六條　機關工練習生ハ海軍一等機關兵曹以下二等機關兵以上及海軍一等鍛冶手以下二等鍛冶以上ノ者ニシテ左ノ諸項ニ適合スル者ノ中ヨリ之ヲ選拔ス

一　身體强健、品行方正ナル者

二　仕上工業、製罐工業、銅鉛工業、鍛冶工業ノ中一業ヲ修得セシムルニ適當ト認ムヘキ技能學力アル者

三　機關工タランコトヲ志願シ卒業後一回以上再服役ヲ爲スヘキコトヲ誓約スル者

第十七條　船匠工練習生ハ海軍一等船匠手以下二等木工以上ノ者ニシテ左ノ諸項ニ適合スル者ノ中ヨリ之ヲ選拔ス

一　身體强健、品行方正ナル者

二　船舟工業ヲ修得セシムルニ適當ト認ムヘキ技能學力アル者

三　船匠工タランコトヲ志願シ卒業後一回以上再服役ヲ爲スヘキコトヲ誓約スル者

第十八條　兵器工練習生ハ海軍一等鍛冶手以下二等鍛冶以上ノ者ニシテ左ノ諸項ニ適合スル者ノ中ヨリ之ヲ選拔ス

一　身體强健、品行方正ナル者

二　銃砲工業ヲ修得セシムルニ適當ト認ムヘキ技能學力アル者

三　兵器工タランコトヲ志願シ卒業後一回以上再服役ヲ爲スヘキコトヲ誓約スル者

第十九條　海軍機關術練習所ニ於テ教授スル上等機關兵曹及船匠師ハ海軍大臣之ヲ命ス

第二十條　機關術練習生卒業シタルトキハ之ニ機關術教員適任證書ヲ授與ス

第二十一條　機關工練習生卒業シタルトキハ機關工證狀船匠工練習生卒業シタルトキハ船匠工證狀兵器工練習生卒業シタルトキハ兵器工證狀ヲ授與ス

各證狀ハ試驗ノ成績ニ依リ各二等ニ分ツ

第二十二條　機關工證狀ヲ有スル下士卒ヲ機關工ト稱シ船匠工證狀ヲ有スル下士卒ヲ船匠工ト稱シ兵器工證狀ヲ有スル下士卒ヲ兵器工ト稱ス

第二十三條　機關工證狀船匠工證狀兵器工證狀若ハ機關術教員適任證書ヲ授與シタル者ニハ醫章ヲ附與ス

第二十四條乃至第二十六條ヲ削除ス

別表定員表中一等木工「一」ヲ「二」ニ一等機關兵「一」ヲ「三」ニ二等機關兵「一」ヲ「二」ニ小計「六十二人」ヲ「六十六人」ニ合計「七十五人」ヲ「七十九人」ニ改ム

附則

從來ノ掌機工及掌艦工ハ本令施行ノ日ヨリ機關工トス

〔參照〕

勅令第三百二十四號海軍機關術練習所條例（明治三十年九月二十四日官報）抄錄

第二條　海軍機關術練習所ハ機械製鐵守府ニ屬シ機關術ノ教授ヲ掌リ且機關術ノ改良進歩ヲ圖ル所トス

教官ハ所長ノ命ヲ承ケ教授ヲ擔任シ又機關術ノ研究調査ニ關スル事ヲ掌ル

第五條第一項

第十三條　海軍機關術練習所ニ於テ教授スル海軍機關兵曹及機關兵ヲ機關術練習生ト稱シ海軍船匠手及木工ヲ船匠術練習生ト稱シ海軍鍛冶手及鍛冶術練習生ト稱ス

第十四條　機關術練習生ヲ左ノ四種ニ區別ス

一　機關術ヲ練磨セシムル者

二　掌機工ト爲スヘキ者

三　掌艦工ト爲スヘキ者

四　機關術ノ教員ト爲スヘキ者

第十五條　船匠術練習生ヲ左ノ二種ニ區別ス

一　船匠術ヲ練磨セシムル者

二　船匠工ト爲スヘキ者

第十六條　鍛冶術練習生ヲ左ノ二種ニ區別ス

一　鍛冶術ヲ練磨セシムル者

二　兵器工ト爲スヘキ者

第十七條　機關術船匠術若ハ鍛冶術ヲ練磨セシムル者ハ其ノ志願ニ就キ左ノ諸項ニ適合スル者ヨリ選拔スヘシ

一　海軍一等機關兵曹以下三等機關兵以上海軍一等船匠手以下三等木工以上及海軍一等鍛冶手以下三等鍛冶以上ノ者

二　身體强健品行方正ナル者

三　年齡三十五年未滿ノ者

四　卒業後五箇年以上現役ニ服スヘキ者

五　入學試驗ニ合格シタル者

第十八條　掌機工掌艦工船匠工若ハ兵器工ト爲スヘキ者ハ各其ノ志願者ニ就キ左ノ諸項ニ適合スル者ヨリ所長之ヲ選拔スヘシ

一　掌機工若ハ掌艦工ト爲スヘキ者ハ海軍一等機關兵曹以下三等機關兵以上船匠工ト爲スヘキ者ハ海軍一等船匠手以下三等木工以上兵器工ト爲スヘキ者ハ海軍一等鍛冶手以下三等鍛冶以上ノ者

二　掌機工若ハ掌艦工ト爲スヘキ者ハ第二十二條ニ規定スル機關術卒業證書、船匠工ト爲スヘキ者ハ船匠術卒業證書、兵器工ト爲スヘキ者ハ鍛冶術卒業證書ヲ有スル者

三　卒業後五箇年以上現役ニ服スヘキ者

第十九條　機關術教員ト爲スヘキ者ハ一等掌機工證狀若ハ一等掌艦工證狀ヲ有スル　海軍一等機關兵曹以下一等機關兵以上ニシテ卒業後三箇年以上現役ニ服スヘキ者ノ中ヨリ所長之ヲ選拔ス

第二十條　海軍機關術練習所ニ於テ教授スル上等機關兵曹及船匠師ハ海軍大臣之ヲ選定ス

第二十一條　入學試驗ノ規格ハ所長之ヲ定ム

第二十二條　機關術船匠術若ハ鍛冶術ヲ練磨セシムル練習生卒業シタルトキハ之ニ機關術卒業證書船匠術卒業證書若ハ鍛冶術卒業證書ヲ授與ス

第二十三條　掌機工ト爲スヘキ練習生卒業シタルトキハ之ニ掌機工證狀ヲ授與シ掌艦工ト爲スヘキ練習生卒業シタルトキハ之ニ船匠工證狀ヲ授與シ兵器工ト爲スヘキ練習生卒業シタルトキハ之ニ兵器工證狀ヲ授與ス

掌機工證狀掌艦工證狀船匠工證狀及兵器工證狀ハ試驗ノ成績ニ依リ各二等ニ分ツ

第二十四條　機關術教員ト爲スヘキ練習生卒業シタルトキハ之ニ機關術教員適任證書若ハ機關術教員教程卒業證書ヲ授與ス但シ機關術教員ノ資格ヲ有スルハ適任證書ヲ授與セシ者ニ限ル

第二十五條　掌機工證狀ヲ有スル下士卒ヲ掌機工、掌艦工證狀ヲ有スル下士卒ヲ掌艦工、船匠工證狀ヲ有スル下士卒ヲ船匠工、兵器工證狀ヲ有スル下士卒ヲ兵器工ト稱ス

第二十六條　掌機工證狀掌艦工證狀船匠工證狀兵器工證狀若ハ機關術教員適任證書ヲ有スル者ニハ賢章ヲ付與ス

○

朕帝國ノ臣民又ハ法人ニ於テ外國人又ハ外國法人ノ爲ニ永久存續ノ意思ヲ以テ設定シタル地上權又ハ賃借權ヲ取得シタル場合ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

内務大臣侯爵西鄕從道
司法大臣　清浦奎吾

御名御璽

明治三十二年七月七日

勅令第三百三十三號（官報　七月八日）

第一條　帝國ノ臣民又ハ法人ニシテ外國人又ハ外國法人ノ爲ニ永久存續ノ意思ヲ以テ設定シタル地上權又ハ賃借權ヲ取得シタル場合ニ於テ其土地國有ニ屬スルトキハ其所有權ヲ取得ス

第二條　前條ノ場合ニ於テ其土地國有ニ屬セサルトキハ地上權者又ハ賃借人ハ所有者ニ相當ノ償金ヲ拂ヒテ其土地ノ所有權ヲ取得スルコトヲ得

地上權者又ハ賃借人カ所有者ノ催告ヲ受ケタル場合ニ於テ前項ノ規定ニ依リ所有權ヲ取得スルノ意思ナキコトヲ表示シ又ハ催告ヲ受ケタルトキヨリ一年間ニ前項ノ手續ヲ爲ササルトキハ所有者ハ相當ノ償金ヲ拂ヒテ民法ノ規定ニ依リ地上權又ハ賃借權ノ存續期間ヲ定ムルコトヲ請求スルコトヲ得

第三條　前二條ノ規定ハ第三者カ其土地ニ關シテ有スル權利ヲ妨クルコトヲ得ス

附則

本令ハ明治三十二年七月十七日ヨリ施行ス

○

朕在臺灣陸軍軍人ノ日覆ニ白布ヲ垂下スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

陸軍大臣子爵桂太郎

御名御璽

明治三十二年七月七日

勅令第三百三十四號（官報　七月八日）

在臺灣陸軍軍人ハ夏季日覆ノ後方ニ白布三條ヲ垂下スルコトヲ得

但シ白布ハ長一尺幅上端ヲ四寸下端ヲ左右二條六寸中央一條八寸トシ其ノ上部一寸ヲ重ネ縫トシテ日覆ニ附著ス

○

朕海軍監獄官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名　御璽

明治三十二年七月七日

内閣總理大臣侯爵山縣有朋
海　軍　大　臣　山本權兵衛

勅令第三百三十五號（官報　七月八日）

海軍監獄官制

第一條　各軍港ニ海軍監獄ヲ置ク

第二條　海軍監獄ハ現役海軍軍人並生徒其ノ他海軍ニ從事スル者ニシテ輕罪以下ノ刑ニ處セラレタル者及刑事被告人ヲ拘禁留置スル所トス

第三條　各海軍監獄ヲ通シテ左ノ職員ヲ置ク

海軍監獄長　專任三人　奏任
海軍監獄書記　專任六人　判任
海軍監獄看守長　專任十人　判任

第四條　監獄長ハ鎭守府司令長官ニ隷シ部下ノ官吏ヲ指揮監督シ所部ノ事務ヲ掌理ス

第五條　監獄書記ハ監獄長ノ命ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第六條　監獄看守長ハ監獄長ノ命ヲ承ケ監獄ノ戒護ヲ掌リ部下ノ監獄看守ヲ指揮監督ス

第七條　各海軍監獄ヲ通シテ監獄看守三十五人ヲ置ク判任ノ待遇トス上官ノ命ヲ承ケ看守、護送及門衞等ノ事務ニ服ス

第八條　海軍監獄ノ醫務衞生ニ關スル事項ハ其ノ地所在ノ海軍病院附海軍軍醫ヲシテ管掌セシメ

之ニ該病院附海軍看護手及看護ヲ附ス

附　則

第九條　本令ハ明治三十二年七月十一日ヨリ施行ス

〇

朕高等官官等俸給令中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名　御璽

明治三十二年七月七日

内閣總理大臣侯爵山縣有朋

勅令第三百三十六號（官報　七月八日）

高等官官等俸給令中左ノ通改正ス

文武高等官官等表中海軍省ノ部海軍通譯官ノ次六等乃至八等ノ欄ニ左ノ一項ヲ加フ

海軍監獄長	同　上	同　上

高等文官官等相當俸給表中陸軍監獄長ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

海軍監獄長						一級俸	二級俸	三級俸

〇

朕海軍監獄官俸給ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名　御璽

明治三十二年七月七日

内閣總理大臣侯爵山縣有朋
海　軍　大　臣　山本權兵衛

勅令第三百三十七號（官報　七月八日）

海軍監獄官ノ俸給ハ別表ニ依ル

附　則

本令施行ノ際別ニ辭令書ヲ交付セサル者ハ現ニ受クル所ノ俸給額相當ノ俸給ヲ受クルモノトス

（別表）

官職＼俸給	年俸							月俸						
	一級俸	二級俸	三級俸	四級俸	五級俸	六級俸	七級俸	一級俸	二級俸	三級俸	四級俸	五級俸	六級俸	七級俸
海軍監獄長	八百圓	七百圓	六百圓					四十圓	三十五圓	三十圓	二十五圓	二十圓	十五圓	
海軍監獄書記														
海軍監獄看守長														
海軍監獄看守								十五圓	十四圓	十三圓	十二圓	十一圓	十圓	九圓

○朕海軍監獄官特別任用令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十二年七月七日

内閣總理大臣侯爵山縣有朋

海軍大臣　山本權兵衛

勅令第三百三十八號（官報　七月八日）

海軍監獄官特別任用令

第一條　海軍監獄長ハ左ノ資格ノ一ヲ有スル者ノ中ヨリ之ヲ任用スルコトヲ得但シ第三第四ニ該ル者ハ文官高等試驗委員ノ銓衡ヲ經ルヲ要ス

一　海軍將校若ハ海軍主計官

二　主理ノ職ニ在ル者

三　五年以上海軍監獄書記若ハ海軍監獄看守長ノ職ニ在リ現ニ一級俸ヲ受クル者

四　五年以上錄事ノ職ニ在リ現ニ判任官五級俸以上ノ俸給ヲ受クル者

第二條　海軍監獄書記看守長ハ左ノ資格ノ一ヲ有スル者ノ中ヨリ之ヲ任用スルコトヲ得但シ第五ニ該ル者ハ文官普通試驗委員ノ銓衡ヲ經ルヲ要ス

一　海軍准士官

二　錄事ノ職ニ在ル者

三　海軍下士及海軍下士タリシ者

四　五年以上海軍監獄看守ノ職ニ在リ現ニ二級俸以上ノ俸給ヲ受クル者

五　司法大臣ノ指定シタル學校ニ於テ法律又ハ政治ノ學科ヲ修メ卒業シタル者

第三條　海軍監獄看守採用ノ規程ハ海軍大臣之ヲ定ム

○朕臺灣總督府地方官官制中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十二年七月七日

内閣總理大臣侯爵山縣有朋

内務大臣侯爵西鄕從道

勅令第三百三十九號（官報　七月八日）

臺灣總督府地方官官制中左ノ通改正ス

第八條及第三十六條中「通シテ」ノ下ニ「專任」ヲ加フ

〔參照〕

勅令第百八號臺灣總督府地方官官制（明治三十一年六月二十日官報）抄錄

第八條　圖技手、警部、看守長、監獄書記及通譯ハ判任トス各縣各廳ノ定員ハ臺灣總督之ヲ定メ其ノ各官ノ定員ハ臺灣總督ノ認可ヲ經テ知事、廳長之ヲ定ム

第三十六條　主記、技手ハ判任トス各署ヲ通シテ五百五十人ヲ以テ定員トス其ノ各縣各廳下ノ定員ハ臺灣總督之ヲ定メ其ノ各官ノ定員並ニ各辦務署ノ定員ハ知事、廳長之ヲ定ム

○

朕帝國政府ト伊太利國政府トノ間ニ締結セル裁判管轄權ニ關スル議定書ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十二年七月七日（官報　七月八日）

內閣總理大臣侯爵山縣有朋
外務大臣子爵青木周藏

議定書

日本國皇帝陛下ノ政府及伊太利國皇帝陛下ノ政府ハ明治二十七年十二月一日締結日伊通商航海條約實施ノ時ニ方リ日本國ニ於ケル伊太利國裁判所ニ於テ未決ニ係ル事件ニ對スル裁判管轄權ノ執行ニ關シ規定ヲ設クルヲ以テ司法處分上便益ナリト認メ左ノ通約定セリ

前記通商航海條約實施ノ時ニ方リ日本國ニ於ケル伊太利國裁判所ニ於テ現ニ未決ニ係ル民刑事ノ事件及手續ニ關スル伊太利國裁判所ノ管轄權ハ終局ノ判決ニ至ル迄繼續スヘキモノトス

右證據トシテ下記日本國皇帝陛下ノ外務大臣及日本國ニ駐箚スル伊太利國皇帝陛下ノ特命全權公使ハ之カ爲各其ノ政府ヨリ正當ノ委任ヲ受ケ之ニ記名調印スルモノナリ

明治三十二年六月二十六日東京ニ於テ本書二通ヲ作ル

子爵　青木周藏　印
伯爵　オルフィニー　印

○

朕酒造組合規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十二年七月八日

大藏大臣伯爵松方正義

勅令第三百四十號（官報　七月十日）

酒造組合規則

第一條　酒類製造者酒造稅法第四十條ニ依リ設クヘキ酒造組合ニ關スル規定ハ本令ヲ以テ之ヲ定ム

第二條　酒造組合ハ組合員協同一致シテ營業上ノ弊害ヲ矯正シ信用ヲ保持スルヲ以テ目的ト爲スヘシ

第三條　酒類製造者酒造組合ヲ設置セムトスルトキハ組合契約書ヲ作成シ地方長官ノ認可ヲ受ケ

第四條　組合契約書ニハ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一　組合ノ名稱
二　組合設置ノ區域
三　組合事務所ノ所在地
四　組合ノ事業
五　組合役員ノ選任方法、任期及其ノ權限
六　組合總會召集ノ方法
七　組合ニ於ケル會議ノ方法
八　組合經費ノ負擔及其ノ取立方法
九　組合契約違反者處分ノ方法
十　契約書ノ變更ニ關スル手續
十一　組合ニ於テ酒類製造者ノ造石稅納付ヲ擔保スル場合ニ於ケル決議方法
十二　酒造稅法施行規則第三十一條第一項ノ通知ヲ受ケタルトキノ處分方法

第五條　酒造組合ハ諸般ノ事務ヲ處理スル爲左ノ役員ヲ置クヘシ

一　組合長　一名
二　組合評議員　若干名

組合員多數ナルトキハ便宜組合副長又ハ組合支部長ヲ置クコトヲ得

役員ハ組合總會ニ於テ組合員中ヨリ之ヲ選任ス

組合契約書ニハ前各號ニ掲クルモノノ外組合ニ於テ必要トスル事項ヲ記載スルコトヲ得

第六條　組合長ハ組合員ヲ代表ス

組合長ノ代理者ハ組合契約書ノ定ムル所ニ依ル

第七條　組合役員ノ選任及解任アリタルトキハ酒造組合ヨリ其ノ氏名ヲ地方長官及稅務管理局長ニ報告スヘシ

第八條　酒造組合ハ毎年少クトモ一回其ノ經費ノ決算ヲ爲シ各組合員ニ報告スヘシ

第九條　酒造組合ハ營利ノ事業ヲ爲スコトヲ得ス

第十條　地方長官ハ酒造組合ノ決議又ハ其ノ役員ノ行爲ニシテ法令ニ違背シ又ハ公益ヲ害スト認ムルトキハ其ノ決議ヲ取消シ又ハ役員ノ改選ヲ命スルコトヲ得

○

朕明治三十二年法律第七十四號施行ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十二年七月十一日

大藏大臣伯爵松方正義

勅令第三百四十一號（官報七月十二日）

明治三十二年法律第七十四號ヲ明治三十二年八月一日ヨリ施行ス

明治三十二年法律第七十四號第一條ノ製造煙草輸出交付金ハ輸出煙草ノ價格ノ百分ノ二十トス

○

朕開港及開港ニ於テ輸出スヘキ貨物ノ指定ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十二年七月十二日

大藏大臣伯爵松方正義

勅令第三百四十二號（官報・七月十三日）

第一條　從來ノ開港ノ外左ノ諸港ヲ開港トス

駿河國清水
尾張國武豐
伊勢國四日市
長門國下ノ關
豐前國門司
筑前國博多
肥前國唐津
肥前國口ノ津
肥後國三角
對馬國嚴原
對馬國佐須奈
對馬國鹿見
琉球國那覇
石見國濱田
伯耆國境
丹後國宮津
越前國敦賀
能登國七尾
越中國伏木
後志國小樽
釧路國釧路
膽振國室蘭

第二條　室蘭港ニ於テハ麥、石炭、硫黃其ノ他大藏大臣ノ指定シタル物品ノ輸出ニ限リ之ヲ爲スコトヲ得

第三條　第一條ノ各港ニ於テ滿二年每ノ輸出入貨物ノ價格五萬圓ニ達セサルトキハ之ヲ閉鎖スヘシ

前項閉鎖ノ時期ハ三箇月前大藏大臣之ヲ公告スヘシ

附則

本令ハ關稅法施行ノ日ヨリ施行ス

○

朕千八百八十三年三月二十日佛蘭西國巴里ニ於テ調印セラレタル工業所有權保護ニ關スル同盟條約及千八百九十一年四月十五日西班牙國「マドリッド」ニ於テ調印セラレタル工業所有權保護同盟事務局維持ニ關スル議定書ニ加入シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十二年七月十二日（官報・七月十三日）

內閣總理大臣侯爵山縣有朋
外務大臣子爵青木周藏
農商務大臣　曾禰荒助

萬國工業所有權保護同盟條約

白耳義國皇帝陛下、伯剌西爾國皇帝陛下、西班牙國皇帝陛下、佛蘭西共和國大統領、瓜地馬拉共和國大統領、伊太利國皇帝陛下、和蘭國皇帝陛下、葡萄牙國皇帝陛下、三薩瓦共和國大統領、塞爾維亞國皇帝陛下、及瑞西聯邦政府ハ均シク共同一致シテ各內國人ノ工業及商業ニ對シ完全ニシテ有效ナル保護ヲ保證シ且ツ發明者ノ權利及誠實ナル商業ノ取引ニ擔保ヲ與ヘムコトヲ欲シ之カ爲ニ一ノ條約ヲ締結スルコトニ決定シ左ノ者ヲ各其ノ全權委員ニ任命セリ（全權委員ノ名ハ之ヲ略ス）

因テ各全權委員ハ互ニ其ノ委任狀ヲ示シ其ノ良好妥當ナルヲ認メ以テ左ノ條條ヲ協定セリ

第一條　白耳義、伯剌西爾、西班牙、佛蘭西、瓜地馬拉、伊太利、和蘭、葡萄牙、三薩瓦、塞爾維亞及瑞西國ノ諸政府ハ工業所有權保護ノ爲メ茲ニ同盟ヲ組織ス

第二條　各締盟國ノ臣民或ハ人民ハ他ノ同盟國內ニ於テ發明特許、工業的意匠或ハ雛形若ハ製造標或ハ商標及商號ニ關シ其ノ國ノ法律カ內國人ニ對シ現ニ許與シ或ハ將來許與スヘキ一切ノ利益ヲ享有スヘシ故ニ該臣民或ハ人民ハ各國ノ法律カ內國人ヲシテ遵由セシムル所ノ手續及條件ヲ遵守スルニ於テハ內國人ト同一ノ保護ヲ受ケ其ノ權利ノ侵害ニ對シテモ亦同一ナル訴權ヲ有スヘシ

第三條　同盟ニ加入セサル國ノ臣民或ハ人民ニシテ同盟中ノ一國ノ版圖內ニ住居シ或ハ工業若ハ商業ノ營業所ヲ有スル者ハ締盟國ノ臣民或ハ人民ニ準スヘキモノトス

第四條　締盟國中ノ一國ニ於テ合式ニ發明ノ特許出願又ハ工業的意匠或ハ雛形若ハ製造標或ハ商標ノ登錄出願ヲ爲シタル者ハ他ノ締盟國ニ於テ出願ヲ爲スニ方リ第三者ノ權利ヲ保留シテ下ニ定メタル期限間ハ優先權ヲ有スヘシ

故ニ右期限滿了前ニ他ノ締盟國ニ於テ出願シタルモノハ其ノ中間ニ於テ遂行セラレタル事實殊ニ他ノ出願、第三者カ其ノ發明ヲ公ニシ或ハ實施シタルコト意匠或ハ雛形ノ模本ヲ發賣シタルコト若ハ標章（製造標或ハ商標）ヲ使用シタルコトニ依リ無效トナルコトナシ

上ニ記載セル優先權ノ期限ハ特許ニ在リテハ六箇月、工業的意匠或ハ雛形若ハ製造標或ハ商標ニ在リテハ三箇月トス但海外ノ諸國ニ對シテハ各一箇月ヲ加フ

第五條　特許證主カ他ノ同盟國ニ於テ製造シタル物品ヲ特許ヲ得タル國ニ輸入スルモ之カ爲ニ特許ノ效力ヲ失フコトナシ

然レトモ特許證主ハ其ノ特許品ヲ輸入スル國ノ法律ニ從ヒテ其ノ特許ヲ實施スヘキ義務アルモノトス

第六條　總テ本國ニ於テ合式ニ出願ヲ爲シタル製造標或ハ商標ハ他ノ同盟國ニ於テモ其ノ儘出願ヲ許容シ且ツ保護ヲ與フヘシ

出願人ノ主タル營業所ノ所在國ヲ以テ其ノ本國ト看做スヘシ

右ノ主タル營業所カ同盟國內ニ存在セサルトキハ出願人ノ屬スル國ヲ以テ本國ト看做スヘシ

製造標或ハ商標ノ登錄ヲ出願シタル物件ニシテ風俗若ハ公安ニ害アルモノト認メラレタルトキハ其ノ出願ヲ拒絕スルコトヲ得ヘシ

第七條　製造標或ハ商標ヲ附スヘキ製產物ノ性質如何ハ如何ナル場合ニ於テモ標章出願ノ妨害トナルコトナシ

第八條　商號ハ製造標或ハ商標ノ一部ヲ爲スト否トニ拘ハラス出願ヲ要スルコトナクシテ各同盟國內ニ於テ保護セラルヘシ

第九條　不正ナル製造標或ハ商標或ハ商號ヲ附ケタル製產物ハ其ノ標章或ハ商號カ法律上ノ保護ヲ受クヘキ同盟國內ニ輸入ノ際之ヲ差押フルコトヲ得ヘシ

右ノ差押ハ檢事若ハ利害關係人ノ請求ニ因リ各同盟國ノ法律ニ從ヒ之ヲ執行スヘシ

第十條　前條ノ規定ハ製產地ノ表示トシテ虛僞ニ一定ノ地名ヲ附セシ總テノ製產物ニ適用スヘシ

但此表示ニ虛構ノ商號ヲ附シ若ハ詐欺ノ意思ヲ以テ僭用シタル商號ヲ附加シタルトキニ限ル

右製產物ノ製造或ハ商業ニ從事スル製造者或ハ商人ニシテ產地トシテ詐稱セラレタル地方ニ住居スル者ハ總テ之ヲ利害關係人ト看做ス

第十一條　締盟國ハ互ニ官設或ハ公許シタル萬國博覽會ニ出品スル製產物ニ對シ假ニ特許的發明、工業的意匠或ハ雛形若ハ製造標或ハ商標ニ關スル保護ヲ與フルコトヲ約諾ス

第十二條　各締盟國ハ互ニ工業所有權ニ關スル特別ナル事務所ヲ開設シ又發明特許、工業的意匠或ハ雛形若ハ製造標或ハ商標ヲ公衆ニ知ラシムル爲メ中央陳列所ヲ設置スルコトヲ約諾ス

第十三條　「萬國工業所有權保護同盟事務局」ナル名稱ヲ附シテ一ノ萬國事務局ヲ設立スヘシ

右事務局ハ瑞西聯邦中央政府ノ下ニ置カレ其ノ監督ヲ受ケテ事務ヲ處理スヘシ而シテ之ニ要スル費用ハ各締盟國政府ニ於テ之ヲ分擔スヘシ又右事務局ノ職制ハ同盟國協議ノ上之ヲ定ムヘシ

第十四條　本條約ハ同盟制度ヲ完全ナラシムヘキ改良ヲ加ヘムカ爲メ時時改正ヲ施スヘシ

右ノ目的ヲ達スル爲メ前記締盟國ノ委員ハ逐次締盟國ノ一ニ會シテ會議ヲ開クヘシ

次回ノ會議ハ千八百八十五年羅馬ニ於テ之ヲ開クヘシ

第十五條　各締盟國ハ本條約ノ規定ニ牴觸セサル限ハ各國間互ニ工業所有權ノ保護ニ關スル特殊ノ取極ヲ爲スノ權利ヲ保留スルモノトス

第十六條　本條約ニ加入セサル國ト雖モ其ノ請求ニ因リ加入スルコトヲ許スヘシ

右ノ加入ハ外交上ノ手續ニ由リ瑞西聯邦政府ニ申込ムヘシ而シテ該政府ヨリ之ヲ他ノ締盟國ニ報告スヘシ

新ニ加入スル國ハ當然本條約ノ全部ニ贊同シタルモノトシ本條約ニ規定スル一切ノ利益ヲ享受スヘシ

第十七條　本條約ニ掲クル所ノ相互的契約ノ履行ハ之ヲ要スル限ハ締盟國ノ中ニ就キ自國ノ憲法所定ノ手續及規定ヲ履行スルノ必要アルモノハ之ニ遵由スヘシ且ツ可成速ニ其ノ手續ヲ爲スノ義務アルモノトス

第十八條　本條約ハ批准交換後一箇月ヲ經テ實施セラルヘキモノトス而シテ本條約ハ無期限ニ有效タルヘク若シ之ヲ拋棄スルトキハ拋棄ノ日ヨリ一箇年ヲ經テ效力ヲ失フモノトス

右ノ拋棄ハ加入申込ヲ受理スルノ權アル政府ニ通知スヘシ拋棄ハ其ノ之ヲ爲シタル國ニ對シテノミ有效ナルモノニシテ他ノ締盟國間ニ於テハ依然本條約ヲ繼續スルモノトス

第十九條　本條約ハ之ヲ批准シ其ノ批准ハ遲クモ一箇年以內ニ巴里ニ於テ交換スヘシ

右證據トシテ各全權委員ハ之ニ記名調印スルモノナリ

千八百八十三年三月二十日巴里ニ於テ之ヲ作ル

白耳義國　ベイアン
伯剌西爾國　ヴ井ルヌーヴ
西班牙國　公爵デ、フエルナン、ヌニエス
佛蘭西國　ペー、シヤルメル、ラクール

瓜地馬拉國　シヤルル、エリツツシ
伊太利國　シヤルル、エーゲルシニミツト
和蘭國　クリサント、メヂーナ
葡萄牙國　レズマン
　　男爵デ、ゾイレン、デ、ニエヴエルト
　　ジヨセー、ダ、シルヴア、メンデス、レアール
三薩瓦國　エフ、デ、アゼヴエード
塞爾維亞國　ホタ、エム、トーレス、カイセード
瑞西國　シマ、マリノヴイツチ
　　ラルヂー
　　ヨツト、ヴアイベル

議定書

工業所有權保護ノ目的ヲ以テ本日白耳義、伯剌西爾、西班牙、佛蘭西、瓜地馬拉、伊太利、和蘭、葡萄牙、三薩瓦、塞爾維亞及瑞西國ノ各政府間ニ締結シタル條約ニ調印スルニ方リ下ニ記名セル各全權委員ハ左ノ事項ヲ協定セリ

第一　「工業所有權」ナル語ハ其ノ最モ廣キ意味ニ解スヘシ即チ純粹ナル工業的製産物ノミナラス農業的製産物（各種ノ葡萄酒穀類菓物畜類等）及商業上取引セラルル鑛産物（鑛泉等）ニモ亦之ヲ適用スルモノトス

第二　「發明特許」ナル名稱ノ中ニハ締盟國ノ國法ニ依リ許與サレタル諸種ノ工業的特許即チ輸入特許、改良特許等ヲ包含ス

第三　本條約第三條末段ノ規定ハ何等ノ點ニ於テモ各締盟國ニ於ケル訴訟手續及裁判所ノ權限ニ關スル法律ヲ侵害セサルモノトス

第四　本條約第六條第二項ハ如何ナル製造標或ハ商標ト雖モ之ヲ組成スル所ノ徽章カ其ノ本國ノ法律ニ照シテ適法ニシテ且ツ本國ニ於テ合式ニ出願ヲ爲シタルモノニ係ルトキハ他ノ締盟國ニ於テハ假令其ノ徽章カ該國ノ法律ニ照シテ適法ナラサルモ之ヲ理由トシテ其ノ保護ヲ拒ムコトヲ得スト云フ意味ニ解釋スヘキモノトス但各締盟國ノ法律ハ標章ノ形ニノミ關スル此例外ヲ除キ及本條約中他ノ條項ノ規定ヲ保留シテ之ヲ適用スヘキモノトス

尙誤解ヲ避ケムカ爲メ公共ノ紋章及勳章ノ使用ハ本條約第六條末段ノ意味ニ隨ヒ公ノ秩序ニ背反スルモノト看做ヲ得ルコトヲ茲ニ約諾ス

第五　第十二條ニ記載シタル工業所有權ニ關スル特別事務所ノ構成中ニハ可成各國ニ於テ定期刊行ノ公報ヲ刊行スヘキコトヲモ包含ス

第六　本條約第十三條ニ依リ設置サレタル萬國事務局ノ共同經費ハ如何ナル場合ニ於テモ每年各締盟國ノ平均負擔額ヲシテ貳千法ニ當ル總領ヲ超過セシムルコトヲ得ス

右ノ費用總額ニ對シ各國ノ醵出割合ヲ定ムル爲メ締盟國竝ニ將來同盟ニ加入スヘキ國ヲ六等ニ區分シ各等ノ醵出スヘキ部數ノ比例ヲ定ムルコト左ノ如シ

第一等　二十五部
第二等　二十部
第三等　十五部
第四等　十部

第五等　五部
第六等　三部

右ノ系數ニ各等ノ國數ヲ乘シテ得タル積ノ和ハ部ノ總數ヲ示シ之ヲ以テ費用總額ヲ除スレハ費用ノ部數ヲ得ルナリ

費用分擔ノ爲メ締盟國ヲ類別スルコト左ノ如シ

第一等　佛蘭西國　伊太利國
第二等　西班牙國
第三等　白耳義國　伯剌西爾國　葡萄牙國　瑞西國
第四等　和蘭國
第五等　塞爾維亞國
第六等　瓜地馬拉國　三薩瓦國

瑞西聯邦政府ハ萬國事務局ノ支出ヲ監督シ必要ナル立替ヲ爲シ且ツ毎年出納ヲ計算シテ他ノ締盟國政府ニ報告スヘシ

萬國事務局ハ工業所有權ノ保護ニ關スル一切ノ報告ヲ蒐集シテ一般ノ統計ヲ調製シ之ヲ各國政府ニ配付スヘシ萬國事務局ハ同盟公共ノ利益ニ關スル事項ヲ講究スヘシ而シテ又諸政府ヨリ受領シタル書類ヲ參照シテ同盟ノ目的ニ關スル諸問題ヲ佛蘭西語ニテ記載シタル定期刊行ノ雜誌ヲ編纂スヘシ

右雜誌竝ニ萬國事務局ニ於テ刊行スル他ノ一切ノ書類ハ前ニ記載セル費用分擔額ニ比例セル部數ヲ同盟國政府ニ分配スヘシ

右部數外ニ雜誌若ハ書類ヲ請求スルトキハ其ノ前記政府タルト會社或ハ個人タルトヲ問ハス別ニ代價ヲ支拂フヘキモノトス

萬國事務局ハ常ニ工業所有權ニ關スル萬國事務問題ニ付同盟國ノ爲ニ其ノ要スル所ノ特殊報告ヲ供スルコトヲ怠ラサルヘシ

次回ノ會議ヲ開クヘキ國ノ政府ハ萬國事務局ノ協力ヲ得テ該會議ノ準備ヲ爲スヘシ

萬國事務局長ハ會議ニ列席シテ討論ニ加入スト雖モ議決ノ數ニ入ラス又同局長ハ其ノ所管事務ニ付毎年報告書ヲ作リ之ヲ同盟國ニ報告スヘシ

佛蘭西語ヲ以テ萬國事務局ノ公用語トス

第七　本議定書ハ本日締結セル本條約ト同時ニ批准セラルヘキモノニシテ右條約ノ一部ヲ爲スモノトシ且ツ之ト同一ノ效力及期限ヲ有スルモノトス

右證據トシテ下ニ記名セル全權委員ハ本議定書ヲ調製スルモノナリ

千八百八十三年三月二十日巴里ニ於テ之ヲ作ル

白耳義國　ベイアン
伯剌西爾國　ヴ井ルヌーヴ
西班牙國　公爵デ、プエルナン、ヌニエス
佛蘭西國　ペー、シャルメル、ラクール

瓜地馬拉國　シヤルル、エリツソン
伊太利國　シヤルル、エーゲルシユミツト
和蘭國　クリサント、メヂーナ
葡萄牙國　レスマン
　　男爵デ、ゾイレン、デ、ニエヴエルト
三薩瓦國　ジヨセーダ、シルヴア、メンデス、レアール
塞爾維亞國　エフ、デ、アゼヴエード
瑞西國　ホタ、エメドーレス、カイセード
　　シマ、マリノヴイツチ
　　ラルヂー
　　ヨツト、ヴアイベル

萬國工業所有權保護同盟事務局維持ニ關スル議定書

白耳義、伯剌西爾、西班牙、北米合衆國、佛蘭西、大不列顛、瓜地馬拉、伊太利、諾威、和蘭、葡萄牙、瑞典、瑞西及突尼斯國ノ各政府全權委員ハ千八百八十三年三月十二日巴里ニ開キタル萬國工業所有權保護同盟會議ノ宣言ニ據リ批准保留ノ上共同一致シテ左ノ議定書ヲ作レリ

第一條　萬國工業所有權保護ニ關スル千八百八十三年三月二十日ノ同盟條約附屬議定書第六項第一節ハ之ヲ廢止シ左ノ規定ヲ以テ之ニ代フ

本條約第十三條ニ依リ設置サレタル萬國事務局ノ經費ハ締盟國共同シテ之ヲ負擔スヘシ而シテ其ノ費額ハ如何ナル場合ニ於テモ一箇年六萬法ヲ超過スルコトヲ得ス

第二條　本議定書ハ之ヲ批准シ而シテ其ノ批准ハ遅クモ六箇月以內ニ「マドリツド」ニ於テ交換スヘシ

本議定書ハ批准交換後二箇月ヲ經テ效力ヲ生スルモノトス而シテ千八百八十三年三月二十日ノ條約ノ一部ヲ爲スモノトシ且ツ之ト同一ノ效力及期限ヲ有スルモノトス

右證據トシテ下ニ列記セル各國全權委員ハ千八百九十一年四月十五日「マドリツド」ニ於テ本議定書ニ記名スルモノナリ

白耳義國　テオドール、ド、ブンデル、ド、メルスブルツク
伯剌西爾國　ルイス、エフ、ダブルー
西班牙國　エス、モレ
　　侯爵デ、アグイラル
北米合衆國　エンリーケ、カリーハ
佛蘭西國　ルイス、マリアーノ、デラーラ
突尼斯國　イー、バード、グラツプ
大不列顛國　ペー、ガンポン
瓜地馬拉國　フランシス、クレア、プオード
伊太利國　ホタ、カレーラ
諾威國　マツフエイ
　　アリルド、ヒユイトフエルト

和蘭國　グリツク
葡萄牙國　伯爵デ、カーザル、リベイーロ
瑞典國　アリルド、ヒユイトフエルト
瑞西國　シヤルル、エ、ラルデ
　　モレル

○

朕千八百八十六年九月九日瑞西國「ベルヌ」ニ於テ調印セラレタル文學的及美術的著作物保護萬國同盟創設ニ關スル條約及千八百九十六年五月四日佛蘭西國巴里ニ於テ調印セラレタル追加規定竝解釋宣言書ニ加入シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十二年七月十二日（官報　七月十三日）

内閣總理大臣侯爵山縣有朋
内務大臣侯爵西鄕從道
外務大臣子爵青木周藏

文學的及美術的著作物保護萬國同盟創設ニ關スル條約

瑞西聯邦政府、獨逸國皇帝普魯西國皇帝陛下、白耳義國皇帝陛下、西班牙國皇帝陛下ノ名ヲ以テ政ヲ攝スル皇太后陛下、佛蘭西共和國大統領、大不列顛愛蘭聯合王國兼印度國皇帝陛下「ハイチ」共和國大統領、伊太利國皇帝陛下「リベリヤ」共和國大統領、突尼斯國主殿下ハ共ニ文學的及美術的著作物ニ關シ著作者ノ權利ヲ有效ニ且ツ及フ限リ均等ノ方法ヲ以テ保護セムコトヲ希望シ之カ爲メ條約ヲ締結スルニ決定シ各其ノ全權委員ヲ任命セリ（委員氏名省略）

因テ各全權委員ハ互ニ其ノ全權委任狀ヲ示シ其ノ良好妥當ナルヲ認メ以テ左ノ諸條ヲ協定セリ

第一條　締盟諸國ハ文學的及美術的著作物ニ關シ著作者ノ權利ヲ保護セムカ爲メ同盟ヲ組織ス

第二條　同盟國ノ一ニ屬スル著作者又ハ其ノ承繼人ハ同盟國ノ一ニ於テ公ニシ若ハ未タ公ニセサル著作物ニ關シ他ノ同盟國ニ於テ其ノ國法カ內國人ニ現ニ許與シ若ハ將來許與スヘキ權利ヲ享有ス

右ノ權利ヲ享有スルニハ著作物ノ本國ノ法律ニ規定セル條件及諸手續ヲ履行スルコトヲ要ス他國ニ於ル右權利ノ享有ハ其ノ本國ニ於テ許與スル保護ノ期限ヲ超過スルコトヲ得ス

著作物ヲ始メテ公ニシタル國ヲ以テ其ノ本國トス若シ數箇ノ同盟國內ニ於テ同時ニ公ニシタルトキハ右諸國ノ中ニ就キ其ノ國法ノ許與スル保護ノ期限最モ短キ國ヲ以テ其ノ本國ト看做ス

發行セサル著作物ニ關シテハ其ノ著作者ノ屬スル國ヲ以テ其ノ本國ト看做ス

第三條　本條約ノ規定ハ同盟國ニアラサル一國ニ屬スル著作者ノ文學的若ハ美術的著作物ヲ同盟國ノ一ニ於テ發行シタル場合ニ於テ其ノ發行者ニ對シテモ亦均シク之ヲ適用ス

第四條　「文學的及美術的著作物」ナル名稱ハ書籍、小册子其ノ他各種ノ文書、演劇脚本、樂譜入演劇脚本、文句入リ又ハ文句ナシノ樂譜、圖畫、油畫、彫刻、銅版畫ニ關スル著作物、石版圖解、地圖及地理學、地文學、建築學其ノ他一般學術ニ關スル圖、畫、摸型若ハ何等印刷又ハ複製ノ方法ヲ以テ公ニスルコトヲ得ヘキ文藝學術ノ範圍ニ屬スル一切ノ著作物ヲ包含ス

第五條　同盟國ノ一ニ屬スル著作者及其ノ承繼人ハ同盟國ノ一ニ於テ原著作物ヲ公ニシタル時ヨリ十箇年間其ノ著作物ヲ翻譯シ又ハ其ノ翻譯ヲ許可スルノ特權ヲ他ノ同盟國ニ於テ享有ス

一部ツツヲ漸次ニ公ニスル著作物ニ關スル十箇年ノ期限ハ原著作物ノ最終部分ヲ公ニシタル日ヨリ起算ス

數度ニ公ニスル數卷ヨリ成ル著作物竝ニ文學上ノ協會、學士會若ハ一私人ノ公ニスル報告書類又ハ雜誌ニ關シ十箇年ノ期限ヲ計算スルニハ各卷各册子ヲ各自特別ノ著作物ト看做ス

本條ニ規定セル各場合ニ於テ保護ノ期限ヲ計算スル爲メニハ著作物ヲ公ニシタル年ノ十二月三十一日ヲ以テ其ノ發行ノ日ト看做ス

第六條　適法ノ翻譯ニハ原著作物ト同一ノ保護ヲ許與ス故ニ同盟國ニ於テ其ノ許可ヲ得サル複製ニ關シテハ第二條及第三條ニ規定セル保護ヲ享有ス

翻譯ノ權利既ニ公有ニ屬シタル著作物ニ關シテハ翻譯者ハ他人ニ於テ原著作物ヲ翻譯スルコトヲ妨クルヲ得サルモノトス

第七條　同盟國ノ一ニ於テ公ニシタル新聞紙若ハ定期刊行物ハ著作者若ハ發行者ニ於テ明ニ之レヲ禁止スルニ非サレハ他ノ同盟國ニ於テ原文ノ儘若ハ翻譯シテ之ヲ轉載スルコトヲ得ヘシ但定期刊行物ニアリテハ轉載禁止ノ旨ヲ每號ノ冒頭ニ揭示スルヲ以テ足レリトス

右ノ禁止ハ如何ナル場合ニ於テモ政事上ノ論說若ハ時事ノ記事及雜報ノ轉載ニハ之ヲ適用セサルモノトス

第八條　教科用ニ供シ又ハ理學的ノ性質ヲ有スル著作物發行ノ爲メ若ハ節用編輯ノ爲メニ文學的若ハ美術的著作物ヲ適法ニ拔萃スルノ權能ニ關シテハ同盟各國ノ法律及各同盟國間ニ現存シ若ハ將來締結スヘキ特別ノ取極ニ遵據スヘシ

第九條　第二條ノ規定ハ公ニシタルモノト否トヲ問ハス演劇脚本若ハ樂譜入演劇脚本ノ興行ニ之ヲ適用ス

演劇脚本又ハ樂譜入演劇脚本ノ著作者若ハ其ノ承繼人ハ其ノ翻譯特權ノ繼續スル期限內ハ其ノ翻譯ノ許可ナキ興行ニ對シテモ亦同一ニ保護セラルルモノトス

第二條ノ規定ハ公ニセサル樂譜又ハ表紙若ハ冒頭ニ於テ其ノ演奏ヲ禁止スル旨ヲ明示シテ公ニシタル樂譜ノ演奏ニモ亦均シク之ヲ適用ス

第十條　翻案、變曲等ノ如キ種々ノ名稱ヲ以テスル文學的若ハ美術的著作物ノ許可ナキ間接ノ剽竊ハ同一ノ形體若ハ其ノ他ノ形體ニ於テ單ニ主要ナラサル變更增補又ハ節約ヲ加ヘタル複製ニ過キスシテ特ニ新著作物タル性質ヲ具備セサル場合ニ於テハ本條約ヲ適用スヘキ不法複製ノ中ニ包含セラルヘキモノトス

本條ヲ適用スルニ方リ必要アルトキハ各同盟國ノ裁判所ハ各其ノ國法ノ規定ヲ保留スヘキモノトス

第十一條　本條約ニ依リテ保護セラルル著作者ハ反對ノ證據ナキ限リ眞正ノ著作者ト看做サレ從テ同盟國ノ裁判所ニ於テ僞作ニ對シテ訴訟ノ提起ヲ許容セラレンカ爲メニハ自己ノ氏名ヲ普通ノ方法ニ依リ其ノ著作物ニ記載スルヲ以テ足レリトス

無名又ハ變名著作物ニ關シテハ其ノ著作物ニ記名シタル發行者ニ於テ著作者ニ屬スル權利ヲ防護スルノ權能ヲ有ス發行者ハ別ニ證據ヲ要セスシテ無名又ハ變名著作者ノ承繼人ト看做サルヘキモノトス

然レトモ裁判所ハ必要アル場合ニ於テハ第二條ノ意義ニ基キ著作物ノ本國ノ法律ニ規定セル手續ヲ履行シタルコトヲ證明スル所ノ當該官廳ノ證明書ヲ提出セシムルコトヲ得ルモノトス

第十二條　總テノ僞作物ハ原著作物カ法律上ノ被保護權ヲ有スル所ノ同盟國內ニ輸入ノ際差押フルコトヲ得

右ノ差押ハ各同盟國ノ國法ニ從テ之ヲ行フモノトス

第十三條　本條約ノ規定ハ同盟各國ノ政府カ法律ノ規定若ハ警察處分ニ依リ當該官廳ヲシテ著作物ノ發賣頒布、興行、公示ヲ許可シ監督シ禁止セシムルノ權利ニ何等ノ影響ヲモ及ホササルモノトス

第十四條　本條約ハ共同合意ヲ以テ別ニ定ムヘキ保留及條件ニテ本條約實施ノ際其ノ本國ニ於テ求タ公有ニ屬セサル一切ノ著作物ニ適用ス

第十五條　各同盟國ノ政府ハ同盟ニ依テ附與セラレタル權利ヨリ廣大ナル權利ヲ著作者又ハ其ノ承繼人ニ附與スルコトニ付若ハ本條約ニ牴觸セサル限リハ他ニ規定ヲ設ケテ各國相互間ニ特別ノ取極ヲ締結スルノ權ヲ保留スルモノトス

第十六條　「文學的及美術的著作物保護萬國同盟事務局」ナル名稱ヲ附シテ一ノ萬國事務局ヲ設立スヘシ

右事務局ハ瑞西聯邦中央政府ノ下ニ置カレ其ノ監督ヲ受ケテ事務ヲ處理スヘシ而シテ之ニ要スル費用ハ各同盟國政府ニ於テ之ヲ分擔スヘシ又右事務局ノ職制ハ同盟國協議ノ上之ヲ定ムヘシ

第十七條　本條約ハ同盟制度ヲ完全ナラシムヘキ改良ヲ加ヘムカ爲メ修正ヲ加フルコトヲ得

右ノ如キ問題其ノ他同盟ノ發達ヲ裨益スヘキ問題ハ各同盟國ニ於テ順次開設スヘキ萬國會議ニ於テ各國委員之ヲ審議スヘシ

本條約ノ變更ハ同盟ヲ組成スル各國一致ノ合意ヲ得ルニ非サレハ同盟ニ對シテ其ノ效力ヲ有セサルモノトス

第十八條　本條約ニ加盟セサリシ國ト雖モ其ノ國ノ法律ニ依リ其ノ國內ニ於テ本條約ノ目的トセル權利ノ保護ヲ擔保スルトキハ其ノ請求ニ依リ加盟スルコトヲ許スヘシ

右ノ加盟ハ書面ヲ以テ瑞西聯邦政府ニ申込ムヘシ而シテ該政府ヨリ之ヲ他ノ同盟國ニ報告スヘシ

新ニ加盟スル國ハ當然本條約ニ規定セル一切ノ條款ニ贊同シタルモノトシ本條約ニ規定スル一切ノ利益ヲ享受スヘシ

第十九條　本條約ニ加盟シタル諸國ハ何時ニテモ其ノ殖民地若ハ在外領地ノ爲メニ加盟スルノ權利ヲ有ス

右ノ加盟ハ全殖民地若ハ在外領地ヲ加盟セシムヘキ一般ノ宣言又ハ特ニ加盟スヘキ部分ノ列擧若ハ單ニ其ノ加盟セサル部分ノ指摘ニ依リテ之ヲ爲スコトヲ得ヘシ

第二十條　本條約ハ批准交換後三箇月ヲ經テ實施セラルヘシ而シテ其ノ有效期限ヲ定メス同盟ヲ脫スルノ通知ヲ爲シタル後一箇年ヲ經過スルマテ有效ナルヘキモノトス

右ノ脫盟ハ加盟申込ヲ受理スルノ權アル政府ニ通知スヘシ右脫盟ハ其ノ之ヲ爲シタル國ニ對シテノミ有效ナルモノニシテ他ノ同盟國間ニ於テハ依然本條約ヲ繼續スルモノトス

第二十一條　本條約ハ之ヲ批准シ其ノ批准ハ遲クモ一箇年以內ニ「ベルヌ」ニ於テ交換スヘシ

右證據トシテ各全權委員ハ之ニ記名調印スルモノナリ

千八百八十六年九月九日「ベルヌ」ニ於テ之ヲ作ル

瑞西國　ドロッツ

獨逸國	エル、リユシヨンネ
白耳義國	ア、ドレツリ
西班牙國	オツトー、フオン、ビユーロー
	モーリース、デルフオツス
佛蘭西國	伯爵デ、ラ、アルミナ
大不列顛國	ホセ、ヴイラ、アミル、井、カストロ
	エマニユエル、アラゴ
	エフ、オー、アダムス
「ハイチ」國	ゼー、エツチ、ジー、ベルギユ
伊太利國	ルーイ、ジヨーゼフ、ジヤンヴ井エー
「リベリヤ」國	エ、ヂ、ペツカリア
突尼斯國	ケンツエル
	エル、ルノール

追加條款

文學的及美術的著作物保護萬國同盟創設ニ關スル條約ニ記名スル爲メ會同シタル各全權委員ハ左ノ追加條款ヲ協定セリ而シテ此ノ條款ハ其ノ所屬條約ト同時ニ批准スヘシ

本日締結シタル條約ハ本同盟ニ依リ附與セル權利ヨリ廣大ナル權利ヲ著作者又ハ其ノ承繼人ニ附與スルカ若ハ該條約ノ規定ニ抵觸セサル限リ同盟各國相互間ニ現存スル諸條約ノ繼續ニ何等ノ影響ヲ及ササルモノトス

右證據トシテ各全權委員ハ本追加條款ニ記名スルモノナリ

千八百八十六年九月九日「ベルヌ」ニ於テ之ヲ作ル

瑞西國	ドロツツ
獨逸國	エル、リユレヨンネ
白耳義國	ア、ドレツリ
西班牙國	オツトー、フオン、ビユーロー
	モーリース、デルフオツス
佛蘭西國	伯爵デ、ラ、アルミナ
大不列顛國	ホセ、ヴイラ、アミル、井、カストロ
	エマニユエル、アラゴ
	エフ、オー、アダムス
「ハイチ」國	ゼー、エツチ、シー、ベルギユ
伊太利國	ルーイ、ジヨーゼフ、ジヤンヴ井エー
「リベリヤ」國	エ、ヂ、ペツカリア
突尼斯國	ケンツエル
	エル、ルノール

終局議定書

本日締結シタル條約ニ記名スルニ際シ下名ノ全權委員ハ左ノ事項ヲ宣言シテ之ヲ約定セリ

第一　第四條ニ付

寫眞的著作物ニ美術的著作物ノ性質ヲ附スルコトヲ拒マサル同盟諸國ニ於テハ本日締結シタル條約ノ實施期日ヨリ寫眞的著作物ニモ亦本條約ノ利益ヲ許與スヘキコトヲ約定ス然レトモ右諸國ハ相互間ニ現存シ若ハ將來締結スヘキ萬國取極ニ依ルモノノ外ハ唯其ノ自國ノ法律カ許ス範圍內ニ於テノミ著作物ノ著者ヲ保護スヘキモノトス

保護セラレタル美術的著作物ヲ許可ヲ得テ複製シタル寫眞ハ原著作物ノ主タル複製權ト同一ノ期限間權利者間ノ契約ノ範圍內ニ於テ本條約ノ意義ニ於ケル法律上ノ保護ヲ各同盟國ニ於テ享有スヘシ

第二　第九條ニ付

同盟國ニシテ其ノ法律ニ樂譜入演劇脚本中舞譜ヲモ包含セシムルモノハ該著作物ヲシテ特ニ本日締結シタル條約ニ規定セル利益ヲ享受セシムルコトヲ約定ス

右規定ノ適用ニ際シ生スルコトアルヘキ爭議ハ當該裁判所ノ決スル所ニ從フ

第三　私有ニ屬スル樂曲ノ調子ヲ機械的ニ複製スルノ用ニ供スル機器ノ製作及販賣ハ樂曲僞作ノ事實ヲ構成スルモノト看做ササルヘシ

第四　條約第十四條ニ掲クル共同合意ハ之ヲ左ノ如ク定ム

條約實施ノ時ニ方リ未タ公有ニ屬セサル著作物ニ對スル本條約ノ適用ハ之ニ關シ各國相互間ニ現存シ若ハ將來締結スヘキ特別條約ノ規定ニ從フヘキモノトス

同盟國間ニ如此規定存在セサル時ハ各國其ノ關スル所ニ從ヒ各自ノ法律ヲ以テ第十四條ノ原則適用ニ關スル方法ヲ定ムヘシ

第五　條約第十六條ニ掲クル萬國事務局ノ組織ハ瑞西聯邦政府ノ制定スル規則ニ從ヒ之ヲ定ムヘキモノトス

佛蘭西語ヲ以テ萬國事務局ノ公用語トス

萬國事務局ハ文學的及美術的著作物ノ著作權保護ニ關スル各種ノ報告ヲ蒐集編纂シテ之ヲ發行スヘキモノトス萬國事務局ハ同盟公共ノ利益ニ關スル事項ヲ講究スヘシ而シテ又諸政府ヨリ受領シタル書類ヲ參照シテ同盟ノ目的ニ關スル諸問題ヲ佛蘭西語ニテ記載シタル定期刊行ノ雜誌ヲ編纂スヘシ

同盟國政府ハ經驗上必要ト認ムル場合ニ於テハ各國共同ノ合意ヲ以テ萬國事務局ヲシテ他ノ一箇若ハ數箇ノ國語ヲ以テ雜誌ヲ發行セシムルノ權利ヲ保留ス

萬國事務局ハ常ニ文學的及美術的著作物ノ保護ニ關シ同盟國ノ必要ナリトスル事項ニ付キ其ノ請求ニ應シテ特殊報告ヲ與フヘキモノトス

萬國會議ヲ開設ス可キ同盟國ノ政府ハ萬國事務局ノ協力ヲ得テ該會議ノ準備ヲ爲スヘシ

萬國事務局長ハ會議ニ列席シテ討論ニ加入スト雖モ議決ノ數ニ入ラス又同局長ハ其ノ所管事務ニ付每年報告書ヲ作リ之ヲ同盟各國ニ報告スヘシ

萬國事務局ノ經費ハ各締盟國共同シテ之ヲ負擔ス其ノ經費總額ハ更ニ議決スル迄ハ一箇年六萬「フラン」ヲ超過スルコトヲ得ス此ノ年額ハ必要ナル場合ニ於テハ單ニ第十七條ニ掲クル萬國會議ノ決議ヲ以テ增額スルヲ得ルモノトス

右ノ經費總額ニ對シ各國醵出割合ヲ定ムル爲メニ締盟國竝ニ將來同盟ニ加入スヘキ國ヲ六等ニ區分シ各等ノ醵出スヘキ部數ノ比例ヲ定ムルコト左ノ如シ

第一等　二十五部

第二等　二十部
第三等　十五部
第四等　十部
第五等　五部
第六等　三部

右ノ系數ニ各等ノ國數ヲ乘シテ得タル積ノ和ハ部ノ總數ヲ示シ之ヲ以テ費用總額ヲ除スレハ費用ノ部數ヲ得ルナリ

各國ハ加入ノ際前記等級中其ノ屬セント欲スルモノヲ言明スヘシ

瑞西聯邦政府ハ萬國事務局ノ豫算ヲ調製シ其ノ支出ヲ監督シ必要ナル立換ヲ爲シ且ツ毎年出納ヲ計算シテ他ノ同盟國政府ニ報告スヘシ

第六　次回ノ萬國會議ハ本條約實施ノ日ヨリ四箇年乃至六箇年以内ニ巴里ニ於テ之ヲ開設スヘシ

佛蘭西國政府ハ萬國事務局ト協議ノ上右期限内ニ於テ開設ノ日ヲ定ムヘシ

第七　第二十一條ニ掲クル批准交換ノ爲メニハ各同盟國ヨリ批准書各一通ヲ差出シ他ノ締盟國ヨリ提出セルモノト共ニ瑞西聯邦政府ノ記錄中ニ之ヲ保管スルモノトス各同盟國ハ其ノ代リトシテ之ニ關與セシ各全權委員ノ記名シタル批准交換證書一通ツヽヲ受領スヘシ

本議定書ハ本日締結セル條約ト同時ニ批准セラルヘキモノニシテ右條約ノ一部ヲ爲スモノトシ且ツ之ト同一ノ效力及期限ヲ有スルモノトス

右證據トシテ各全權委員ハ本終局議定書ニ記名スルモノナリ

千八百八十六年九月九日「ベルヌ」ニ於テ之ヲ作ル

瑞西國　ドロツツ
獨逸國　エル、リユシヨンネ
白耳義國　ア、ドレツリ
西班牙國　オツトー、ブオン、ビユーロー
　　モーリース、デルフオツス
佛蘭西國　伯爵デ、ラ、アルミナ
　　ホセ、ヴイラ、アミル、井、カストロ
太不列顛國　エマニユエル、アラゴ
　　エフ、オー、アダムス
「ハイチ」國　ゼー、エツチ、ジー、ベルギユ
伊太利國　ルーイ、ジヨーゼフ、ジヤンヴ井エー
「リベリヤ」國　エ、ヂ、ベ、ヴカリア
突尼斯國　ケンツエル
　　エル、ルノール

條約記名覺書

文學的及美術的著作物保護萬國同盟創設ニ關スル條約ニ記名スル爲メ本日會同シタル下名ノ全權委員ハ左ノ宣言書ヲ交換セリ

第一　條約第十九條ニ掲クル殖民地若ハ在外領地ノ加入ニ付

西班牙國皇帝陛下ノ全權委員ハ該國政府ノ爲メニ批准交換ノ時ニ於テ其ノ決定ヲ通告スルノ權利ヲ保留ス

佛蘭西共和國ノ全權委員ハ本國ノ加入ト共ニ佛蘭西國各殖民地モ加入シタルコトヲ宣言ス

大不列顛國皇帝陛下ノ全權委員ハ文學的及美術的著作物保護條約ニ大不列顛國ノ加入ハ大不列顛愛蘭聯合王國竝ニ大不列顛國皇帝陛下ノ各殖民地及在外領地ヲ包含スルコトヲ宣言ス但シ大不列顛國皇帝陛下ノ全權委員ハ該國政府ノ爲メニ條約第二十條ニ掲クル方法ニ從ヒ左記ノ殖民地若ハ在外領地ニ關シテハ一箇若ハ數箇ニ對シ何時ニテモ單獨ニ其ノ脫盟ヲ通知スルノ權利ヲ保留ス

印度、加奈太領地「ニユー、フワウンドランド」、喜望峰殖民地「ナタル」、「ニユー、サウス、ウエールス」、「ヴヰクトリヤ」、「クヰンスランド」、「タスマニヤ」、南濠太利、西濠太利及「ニユー、ジーランド」

第二　萬國事務局ノ經費分擔ノ件ニ關スル（終局議定書第五）同盟國ノ等級ニ付

同盟國ノ全權委員ハ各其ノ國ヲ左ノ等級ニ列セシムルコトヲ宣言ス

獨逸國	一等
白耳義國	三等
西班牙國	二等
佛蘭西國	一等
大不列顛國	一等
「ハイチ」國	五等
伊太利國	一等
瑞西國	三等
突尼斯國	六等

「リベリヤ」共和國ノ全權委員ハ其ノ政府ヨリ條約ニ記名スルノ全權ヲ委任セラレタルモ萬國事務局ノ經費分擔ノ爲メニ其ノ國ノ列スヘキ等級ニ關シテハ何等ノ訓令ヲモ受領セス因テ此ノ問題ニ付テハ該全權委員ハ其ノ政府ノ決定ヲ待チ批准交換ノ時ニ之ヲ通告スヘシト宣言セリ

右證據トシテ各全權委員ハ本覺書ニ記名スルモノナリ

千八百八十六年九月九日「ベルヌ」ニ於テ之ヲ作ル

瑞西國	ドロツツ
獨逸國	エル、リユシヨンネ
白耳義國	ア、ドレツリ
西班牙國	オツトー、フオン、ビユーロー モーリース、デルフオツス
佛蘭西國	伯爵デ、ラ、アルミナ ホセ、ヴイラ、アミル、井、カストロ
大不列顛國	エマニユエル、アラゴ エフ、オー、アダムス セー、エツチ、ジー、ベルギユ

「ハイチ」國　ルーイ、ジョーゼフ、ジャンヴ井エー
伊太利國　エ、デ、ベッカリア
「リベリヤ」國　ケンツエル
突尼斯國　エル、ルノール

批准交附證書

文學的及美術的著作物保護萬國同盟創設ニ關スル千八百八十六年九月九日附條約ノ各同盟國ヨリ交附セラレタル批准書ノ保管ヲ證明スル覺書ニ記名スルニ際シ西班牙國特命全權公使閣下ハ其ノ政府ノ名ヲ以テ千八百八十六年九月九日ノ條約記名覺書中ニ掲ケタル宣言ニ基キ西班牙國ノ該條約ニ加盟ハ西班牙國皇帝陛下ニ隷屬スル各領地ノ加盟ヲ包含スルモノタルコトヲ茲ニ宣言シ各國ノ記名者ニ於テ此ノ宣言ヲ承認セリ

右證據トシテ各全權委員ハ千八百八十七年九月五日「ベルヌ」ニ於テ本書九通ヲ作リ各之ニ記名スルモノナリ

瑞西國　ドロッツ
獨逸國　アルフレッド、フオン、ビューロウ
白耳義國　アンリー、ルーミエー
西班牙國　伯爵デ、ラ、アルミナ
佛蘭西國　エマニユエル、アラゴ
大不列顛國　エフ、オー、アダムス

「ハイチ」國　ルーイ、ジョーゼフ、ジャンヴ井エー
伊太利國　フエ
突尼斯國　アシユ、マルシヤン

保管覺書

千八百八十六年九月九日「ベルヌ」ニ於テ締結シタル文學的及美術的著作物保護萬國同盟創設ニ關スル條約第二十一條第一項ノ規定ニ準據シ且ツ其ノ爲メ瑞西聯邦政府ヨリ各締盟國ノ政府ニ宛テタル照會ニ基キ下名ハ追加條款及終局議定書ヲ添付シタル萬國條約ニ關スル

瑞西聯邦政府
獨逸國皇帝普魯西國皇帝陛下
白耳義國皇帝陛下
西班牙國皇帝陛下ノ名ヲ以テ政ヲ攝スル皇太后陛下
佛蘭西共和國大統領
大不列顛愛蘭聯合王國兼印度國皇帝陛下
「ハイチ」共和國大統領
伊太利國皇帝陛下
突尼斯國主殿下

ノ批准書ヲ檢閲シ且其ノ保管手續ヲ爲ス爲メ本日「ベルヌ」ニ於ケル瑞西聯邦政廳ニ會同セリ

各全權委員ハ右批准書ヲ示シ其ノ良好妥當ナルヲ認メタルニ依リ萬國條約附屬終局議定書第七項ニ基キ瑞西聯邦政府ノ記錄中ニ保管セラルル爲メ之ヲ瑞西聯邦大統領ニ交付セリ

右謄寫トシテ下名ハ本覺書ヲ調製シテ之ニ記名調印スルモノナリ

千八百八十七年九月五日「ベルヌ」ニ於テ本書九通ヲ作リ其ノ一通ハ批准書ト共ニ瑞西聯邦政府ノ記錄中ニ保管スルモノトス

瑞西國	ドロツツ
獨逸國	アルフレッド、プオン、ビューロウ
白耳義國	アンリー、ルーミエー
西班牙國	伯爵デ、ラ、アルミナ
佛蘭西國	エマニユエル、アラゴ
大不列顛國	エフ、オー、アダムス
「ハイチ」國	ルーイ、ジョーゼフ、ジヤンヴヰエー
伊太利國	フエ
突尼斯國	アシユ、マルシヤン

千八百八十六年九月九日ノ條約第二條、第三條、第五條、第七條、第十二條及第二十條竝ニ附屬終局議定書第一項及第四項ヲ修正スル追加規定

獨逸帝國ノ名ヲ以テスル獨逸國皇帝普魯西國皇帝陛下、白耳義國皇帝陛下、西班牙國皇帝陛下ノ名ヲ以テ政ヲ攝スル皇太后陛下、佛蘭西共和國大統領、大不列顛愛蘭聯合王國兼印度國皇帝陛下、伊太利國皇帝陛下、盧森堡國大公殿下「モナコ」國公殿下「モンテネグロ」國公殿下、瑞西聯邦政府、突尼斯國主殿下ハ共ニ文學的及美術的著作物ニ附其ノ著作者ノ權利ヲ常ニ最モ有效ニ且ツ最モ均等ナル方法ヲ以テ保護セムコトヲ希望シ右著作物保護ノ爲メ萬國同盟創設ニ關シ千八百八十六年九月九日「ベルヌ」ニ於テ調印シタル條約ノ追加規定ヲ締結スルコトニ決定シ各其ノ全權委員ヲ任命セリ（委員ノ姓命ハ省略）

因テ各全權委員ハ互ニ其ノ委任狀ヲ示シ其ノ良好妥當ナルヲ認メ以テ左ノ諸條ヲ協定セリ

第一條

千八百八十六年九月九日ノ萬國條約ヲ左ノ如ク修正ス

第一　第二條第一項ヲ左ノ通改正ス

同盟國ノ一ニ屬スル著作者又ハ其ノ承繼人ハ公ニセサル著作物若ハ同盟國ノ一ニ於テ始メテ公ニシタル著作物ニ關シ他國ニ於テ其ノ國法カ內國人ニ現ニ許與シ若ハ將來許與スヘキ權利ヲ享有ス

次ニ左ノ如キ第五項ヲ追加ス

著作者ノ死後ニ公ニシタル著作物モ亦保護セラルヘキ著作物中ニ包含ス

第二　第三條ヲ左ノ通改正ス

同盟國ノ何レニモ屬セサル著作者ニシテ其ノ文學的又ハ美術的著作物ヲ同盟國ノ一ニ於テ始メテ公ニシ若ハ公ニセシメタルトキハ右著作物ハ「ベルヌ」條約竝ニ本追加規定ニ依リ許與セラルル所ノ保護ヲ享有スヘシ

第三　第五條第一項ヲ左ノ通改正ス

同盟國ノ一ニ屬スル著作者又ハ其ノ承繼人ハ他ノ同盟國ニ於テ原著作物ニ關スル權利ノ繼續期限間其ノ著作物ヲ翻譯シ若ハ其ノ翻譯ヲ許可スル特權ヲ享有ス、然レトモ原著作物最初發

行ノ日ヨリ起算シ十箇年內ニ同盟國ノ一ニ於テ其ノ保護ヲ請求セムトスル國語ニ翻譯シタルモノヲ公ニシ若ハ公ニセシメテ以テ其ノ權利ヲ使用セサリシトキハ翻譯ノ特權消滅スルモノトス

第四　第七條ヲ左ノ通改正ス

同盟國ノ一ニ於ル新聞紙又ハ定期刊行物中ニ掲ケタル「ロマン、プオイユトン」(小說續キ物、諸記事ヲ包含ス)ハ著作者又ハ其ノ承繼人ノ許諾ナクシテ他國ニ於テ原文ノ儘若ハ翻譯シテ之ヲ轉載スルコトヲ得ス

其ノ他ノ記事ニ付テハ著作者又ハ發行者カ其ノ記事ノ掲ケアル新聞紙又ハ定期刊行物中ニ其ノ轉載ヲ禁スル旨ヲ明記シタルトキ亦同シ、定期刊行物ニアリテハ一般ニ轉載禁止ノ旨ヲ每號ノ冒頭ニ掲示スルヲ以テ足レリトス

右ノ禁止ナキ記事ハ其ノ出所ヲ明記シテ之ヲ轉載スルコトヲ得

右ノ禁止ハ如何ナル場合ニ於テモ政事上ノ論說、時事ノ記事及雜報ニ之ヲ適用スルヲ得サルモノトス

第五　第十二條ヲ左ノ通改正ス

總テノ僞作物ハ原著作カ法律上ノ被保護權ヲ有スル所ノ同盟國ノ當該官廳ニ於テ之ヲ差押フルコトヲ得

右ノ差押ハ各國ノ法律ニ從テ之ヲ行フモノトス

第六　第二十條第二項ヲ左ノ通改正ス

右脫盟ハ瑞西聯邦政府ニ通知スヘシ右脫盟ハ其ノ之ヲ爲シタル國ニ對シテノミ有效ナルモノニシテ他ノ同盟國間ニ於テハ依然本條約ヲ繼續スルモノトス

第二條

千八百八十六年九月九日ノ條約附屬終局議定書ヲ左ノ如ク修正ス

一　第二項ヲ左ノ通改正ス

第一　第四條ニ付

(イ)建築圖ノミナラス建造物其ノモノニ對シテモ亦保護ヲ與フル同盟國ニ於テハ右建造物ハ「ベルヌ」條約並ニ本追加規定ノ利益ヲ享有スルモノトス

(ロ)寫眞的著作物及之ニ類似ノ方法ヲ以テ作リ得タル著作物ハ各國ノ法律カ許ス範圍內ニ於テ其ノ法律カ同種ノ內國著作物ニ許與スル保護ト同一ノ程度ニ於テ此ノ條約及規定ノ利益ヲ享有スルモノトス

保護セラレタル美術的著作物ヲ許可ヲ得テ複製シタル寫眞ハ原著作物ノ主タル複製權ト同一ノ期限間權利者間ノ契約ノ範圍內ニ於テ「ベルヌ」條約及本追加規定ノ意義ニ於ケル法律上ノ保護ヲ各同盟國ニ於テ享有スヘシ

二　第四項ヲ左ノ通改正ス

第四　條約第十四條ニ掲クル共同合意ハ之ヲ左ノ如ク定ム

「ベルヌ」條約及本追加規定實施ノ時ニ方リ本國ニ於テ未タ公有ニ屬セサル著作物ニ對スル右條約及本規定ノ適用ハ之ニ關シ各國相互間ニ現存シ若ハ將來締結スヘキ特別條約ノ規定ニ從フヘキモノトス

同盟國間ニ如此規定存在セサル時ハ各國其ノ關スル所ニ從ヒ各自ノ法律ヲ以テ第十四條ノ

原則適用ニ關スル方法ヲ定ムヘシ

「ベルヌ」條約第十四條及終局議定書本項ノ規定ハ本追加規定ニ依リ擔保セラレタル翻譯ノ特權ニモ亦均シク之ヲ適用ス

前記ノ假設規定ハ新ニ同盟ニ加入セル國ニモ猶之ヲ適用ス

第三條

同盟國ニシテ本追加規定ニ關與セサリシモノト雖モ何時ニテモ其ノ請求ニ依リ加盟スルコトヲ得

又今後千八百八十六年九月九日ノ條約ニ加盟スル國ニ對シテモ亦同シ本追加規定ニ加盟セント欲スルモノハ書面ニテ其ノ旨瑞西聯邦政府ニ告知スルヲ以テ足レリトス然ルトキハ該政府ハ其ノ加盟ノ旨ヲ同盟諸國政府ニ報告スヘシ

第四條

本追加規定ハ千八百八十六年九月九日ノ條約ト同一ノ效力及期限ヲ有スヘシ

本追加規定ハ之ヲ批准シ其ノ批准ハ條約ト同一ノ手續ニ依リ一箇年以內ニ成ルヘク速ニ巴里ニ於テ交換スヘシ

本追加規定ハ批准交換後三箇月ニシテ批准ヲ爲シタル各國間ニ其ノ效力ヲ生スルモノトス

右證據トシテ各全權委員ハ之ニ記名調印スルモノナリ

千八百九十六年五月四日巴里ニ於テ本書一通ヲ作ル

獨逸國　ライヒアルト
オットー、ダンパック
フランツ、ベルマン、ドウングス

白耳義國　フオン、ミューレル
男爵ダヌタン
ジュール、ド、ボルクグラーヴ
シュヴアリエー、デカン
侯爵デ、ノヴアラス
セ、ド、プレシネ

西班牙國　アシユ、マルセル
シヤルル、リヨンカーン

佛蘭西國　ウージエーヌ、ブ井イエ
エル、ルノール
ヘンリー、ハワード
エツチ、ジー、ベルギユ
ルイジ、ルー
ジエー、ポラツコ

大不列顛國　ヴアンネリユス
アシユ、ド、ローラン

伊太利國　ルーイ、マイエル
アシユ、マルセル
ラルヂー

蘆森堡國

「モナコ」國

「モンテネグロ」國

瑞西國

突尼斯國

エ、ル、ノール

千八百八十六年九月九日ノ「ベルヌ」條約及千八百九十六年五月四日巴里ニ於テ調印セラレタル追加規定中ノ或ル條項ニ關スル解釋宣言書

下ニ記名スル獨逸、白耳義、西班牙、佛蘭西、伊太利、蘭森堡「モナコ」「モンテネグロ」諾威、瑞西及突尼斯國ノ各全權委員ハ之カ爲メ各其ノ政府ヨリ正式ノ委任ヲ受ケ千八百八十六年九月九日ノ「ベルヌ」條約及本日ノ追加規定ノ解釋ニ關シ左ノ條項ヲ協定セリ

第一　條約第二條第二項ノ規定ニ基キ條約及規定ニ依テ擔保セラレタル保護ヲ享クルニハ單ニ著作物ノ本國ニ於テ該國法律ノ規定セル條件及手續ヲ履行スルヲ以テ足レリトス又修正ヲ加ヘタル終局議定書第一項(ロ)號ニ規定セル寫眞的著作物ノ保護モ亦之ニ同シ

第二　公ニシタル著作物トハ同盟國ノ一ニ於テ刊行シタル著作物ヲ云フ故ニ演劇脚本若ハ樂譜入演劇脚本ノ興行、音樂的著作物ノ演奏、美術的著作物ノ展覽ハ該條約及規定ノ意義ニ於テ公ニスルノ意味ニ非サルモノトス

第三　小說ヲ演劇脚本ニ若ハ演劇脚本ヲ小說ニ變作スルハ第十條ノ規定中ニ包含セラルルモノトス

同盟國ニシテ本宣言書ニ加盟セサリシ諸國ト雖トモ何時ニテモ其ノ請求ニ依リ加盟スルコトヲ得又千八百八十六年九月九日ノ條約ニ加盟スルカ若ハ該條約及千八百九十六年五月四日ノ追加條約ニ加盟スル國ニ對シテモ亦同シ蓋シ加盟セント欲スルモノハ書面ニテ其ノ旨瑞西聯邦政府ニ告知スルヲ以テ足レリトス然ルトキハ該政府ハ其ノ加盟ノ旨ヲ同盟諸國政府ニ報告スベシ

本宣言書ハ其ノ所屬條約及規定ト同一ノ效力及期限ヲ有スベシ

本宣言書ハ之ヲ批准シ其ノ批准ハ所屬條約及規定ト同一ノ手續ニ依リ一箇年以內ニ成ルヘク速ニ巴里ニ於テ交換スベシ

右證據トシテ各全權委員ハ之ニ記名調印スルモノナリ

千八百九十六年五月四日巴里ニ於テ本書一通ヲ作ル

獨逸國　ライヒアルト
オットー、ダンバック
フランツ、ヘルマン、ドウングス
フオン、ミユーレル
男爵ダヌタン

白耳義國　シユール、ド、ボルクグラーヴ
シユヴアリエー、デカン
侯爵デ、ノヴアラス

西班牙國　セ、ド、フレシネ
アシエ、マルゼル

佛蘭西國　シヤル、リヨンカーン
ウージエーヌ、ブ井イエ
エル、ル、ノール
ルイジ、ルー

伊太利國

蘆森堡國　ジエー、ボラッコ
「モナコ」國　ヴアンネリュス
　　アシュ、ド、ローラン
　　ルーイ、マイエル
「モンテネグロ」國　アシュ、マルセル
諾威國　エフ、ベーツマン
瑞西國　ラルヂー
突尼斯國　エル、ルノール

○

朕臺灣總督府評議會章程中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

内閣總理大臣侯爵山縣有朋
内務大臣侯爵西鄕從道

御名御璽

明治三十二年七月十三日

勅令第三百四十三號（官報七月十四日）

臺灣總督府評議會章程中左ノ通改正ス

第一條第一項中事務官ノ下「五人」ヲ「六人」ニ參事官ノ下「兼任ヲ除ク」ヲ「兼任ハ二人ヲ限ル」ニ改メ第三項中事務官ノ下ニ「及兼任參事官」ヲ加フ

〔參照〕
勅令第八十九號臺灣總督府評議會章程（明治二十九年三月三十一日官報抄錄）

第一條第一項　臺灣總督府ニ評議會ヲ置キ左ノ職員ヲ以テ之ヲ組織ス（略）
同第三項　事務官ニシテ評議員タルヘキ者ハ臺灣總督定ムル所ノ規定ニ依ル

○

朕監獄則中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

内務大臣侯爵西鄕從道

御名御璽

明治三十二年七月十七日

勅令第三百四十四號（官報七月十八日）

監獄則中左ノ通改正ス

第六條　新ニ入監スル者アルトキハ令狀宣告書執行指揮書其ノ他適法ノ文書ヲ査閲シタル後入監セシムヘシ

第七條　在監ノ婦女其ノ子ヲ乳養セント請フトキハ其ノ齡滿一歲ニ至ル迄之ヲ許スコトヲ得

第八條中「典獄」ヲ削リ左ノ但書ヲ加フ

但シ監獄則施行細則ニ依リ處分スルハ此ノ限ニアラス

第十七條　定役囚ノ作業ハ刑名罪質年齡技能將來ノ生計等ヲ斟酌シ各自ノ體力ニ應シテ之ヲ課ス

第十八條ニ左ノ二項ヲ加フ

前二項ノ外内務大臣ノ認可ヲ得テ臨時服役ヲ免スルコトヲ得

炊事洒掃其ノ他監獄ノ必要ニ因リ使役スル者ハ免役セシメサルコトヲ得

第二十二條　定役囚現役二百日ヲ經タルトキハ重罪囚ニハ其ノ工錢ノ十分ノ一乃至五輕罪囚ニハ十分ノ二乃至六ヲ給ス

無定役囚懲治人及刑事被告人ニシテ作業スル者ニハ其ノ工錢ノ十分ノ七ヲ給ス

定役囚ニシテ科程外ノ作業ヲ爲ス時ノ工錢モ亦前項ニ準ス

第二十三條中「典獄」ヲ削ル

第二十六條　囚人ニハ一定ノ衣類臥具ヲ著用セシム但シ拘留囚ハ自衣ヲ著スルコトヲ得

第二十七條　懲治人刑事被告人ノ衣類臥具ハ總テ自辨トシ其ノ種類品數等ハ典獄之ヲ指定ス但シ自辨スルコト能ハサル者ニハ之ヲ貸與ス

第二十八條　囚人懲治人及刑事被告人ニハ各自ノ身體作業等ヲ斟酌シ左ノ糧食ヲ給スヘシ

一　下白米十分ノ四、麥十分ノ六　一人一回三合以下

一　菜　一人一日三錢以下

地方ノ狀況又ハ在監人ノ體質等ニ依リ內務大臣ノ認可ヲ得テ前項ノ糧食ヲ變更スルコトヲ得

懲治人刑事被告人ニシテ糧食ヲ自辨セント請フトキハ之ヲ許ス

第二十九條　囚人懲治人及刑事被告人ノ頭髮鬚髯ハ必要ト認ムル場合ニ於テハ之ヲ短薙剃除セシム

第三十條　囚人及懲治人ニハ教誨ヲ施スヘシ

刑事被告人ニシテ教誨ヲ請フ者アルトキハ之ヲ許ス

第三十一條中算術ノ下「等」ヲ加フ

第三十二條中第二項ヲ左ノ如ク改メ第四項ヲ削ル

囚人及懲治人中書籍ノ看讀ヲ請フ者アルトキハ感化若ハ紀律ニ妨ケナシト認メタルモノニ限リ之ヲ許ス

第三十三條　囚人ノ發スル信書ハ一箇月一通トス但シ典獄ノ許可ヲ得タルトキハ此ノ限ニアラス

第三十五條第二項ヲ左ノ如ク改ム

囚人懲治人及刑事被告人ニ接見セント請フ者アルトキハ監獄官吏ノ立會ヲ以テ之ヲ許ス但シ形跡ノ疑フヘキコトアリト認ムルトキハ之ヲ許ササルコトヲ得

第三十七條　囚人懲治人及刑事被告人死亡シタルトキハ典獄ハ看守長醫師ノ立會ヲ以テ之ヲ檢視スヘシ

刑死者ハ死相ヲ檢シタル後仍五分時ヲ過キサレハ其ノ遺骸ヲ絞架ヨリ解下スルコトヲ許サス

親屬若ハ故舊ニシテ遺骸ヲ請フ者アルトキハ之ヲ下付ス但シ死亡後二十四時以內ニ在テ其ノ下付ヲ請フ者ナキトキハ監署ニ於テ之ヲ假葬スヘシ

傳染病豫防上必要アルトキハ監署ニ於テ之ヲ火葬スルコトヲ得此ノ場合ニ於テ親屬若ハ故舊ニシテ遺骨ノ下付ヲ請フ者アルトキハ之ヲ許ス

第三十八條中「刑事被告人」ノ上ニ「懲治人及ヲ」ヲ加フ

第三十九條中「及懲治人」ヲ削ル

第四十三條第二項中第三號第三號ヲ左ノ如ク改ム

二　減食　一回ノ糧食ヲ二分ノ一乃至三分ノ一ニ減ス

三　閉室　閉室ニ入レ一回ノ糧食ヲ二分ノ一乃至三分ノ一ニ減シ仍臥具ヲ禁ス

第四十三條第一項中第三號ヲ左ノ如ク改ム

二　減食　一回ノ糧食ヲ二分ノ一乃至三分ノ一ニ減ス

第四十八條中「處罰中ト雖モ」ヲ削ル

〔參照〕

勅令第九十三號監獄則（明治二十二年七月十三日官報）抄錄

第六條　新ニ入監スル者アルトキハ典獄先ツ令狀又ハ宣告書ヲ査閲シテ之ヲ領シ其領收證ヲ引致シ來リタル者ニ交付シタル後入監セシムヘシ其文書ナクシテ引致セラレタル者ヲ入監セシムルコトヲ得ス

第七條　在監ノ婦女其子ヲ乳養セント請フトキハ其餘滿三歲ニ至ル迄之ヲ許ス

第八條　新ニ入監スル者ノ携有スル財貨物件ハ典獄悉ク點檢シテ之ヲ領置スヘシ

第十七條　定役ニ服スヘキ囚人ノ作業ハ每囚ノ體力ニ應シテ之ヲ酌シ一日ノ料程ヲ定メテ服役セシムヘシ但料程ノ標準ハ內務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第十八條　左ニ記載シタル日ハ服役ヲ免ス

一月一日二日　元始祭
孝明天皇祭　紀元節
春季皇靈祭　神武天皇祭
秋季皇靈祭　神嘗祭
天長節　新嘗祭
十二月三十一日

父母ノ喪ニ遭フ者ハ三日免役ス

第二十二條　定役ニ服スヘキ囚人現役一百日ヲ經レハ始メテ各自ノ工錢ヲ料定シ之ヲ十分シテ賞罰囚ニハ其二分懲罪囚ニハ其四分ヲ與ヘ餘分ハ監獄ノ費用ニ供ス

無定役囚懲治人及刑事被告人ニシテ作業スル者ノ工錢ハ之ヲ十分シテ其六ヲ與ヘ其餘分ハ監獄ノ費用ニ供ス　定役ニ服スル囚人ニシテ科程外ノ作業ヲ爲ス時ノ工錢モ亦之ニ準ス

第二十三條　前條ニ依リ作業者ニ與フヘキ工錢ハ典獄之ヲ領置スヘシ

第二十六條　囚人及懲治人ノ衣服臥具ハ之ヲ貸與ス但拘留囚ハ自衣ヲ著スルコトヲ得

第二十七條　刑事被告人ノ衣服ハ總テ自辨トシ臥具ハ之ヲ貸與ス若シ臥具ヲ自辨セント請フ者アルトキハ之ヲ許ス赤貧ニシテ衣類ヲ自辨スルコト能ハサル者ニハ之ヲ貸與ス

第二十八條　囚人及懲治人一人一日ノ食糧

一　白米十分ノ四　最モ強キ作業ニ服スル者
同　五合乃至八合　作業ニ服スル者
一　同　四合　作業ニ服セサル者
一　同　三合
一　粟　金壹錢以下　十歲未滿ノ幼者

地方ノ便宜ニ依リ粟稗黍等ノ類ヲ以テ麥ニ代用スルコトヲ得又麥粟稗黍等ニ乏シキ地方ニ於テハ內務大臣ノ認可ヲ得テ下白米ノミヲ給スルコトヲ得

刑事被告人モ亦前項ニ準ス但自費ヲ以テ食物ヲ購求セント請フトキハ之ヲ許ス

第二十九條　定役ニ服スル男囚ノ髮ハ常ニ之ヲ短雜シ髭鬚ハ常ニ剃除セシム

定役ニ服スル女囚ノ梳髮ハ齊ヲ用ヒテ裝飾スルコトヲ許サス

第三十條　囚人及懲治人ニハ教誨師ヲシテ悔過遷善ノ道ヲ講セシム

第三十一條　囚人十六歲未滿ノ者及懲治人ニハ每日四時以內讀書習字算術ヲ教フヘシ

第三十二條第二項第四項

囚人及懲治人書籍ヲ看ント請フトキハ修身宗教教育及營業ニ必要ナルモノニ限リ之ヲ許ス

新聞紙及時事ノ論說ヲ記スルモノハ前二項ノ例ニアラス

第三十三條　囚人其親屬故舊ニ信書ヲ贈ルハ一箇月ニ一次懲治人ハ一箇月ニ二次トシ共ニ一通ニ過クルコトヲ得ス但官司ノ訊問等ニ由テ書信ヲ要スルトキ又ハ親屬故舊ニ回答セント請ヒ典獄ニ於テ之ヲ必要ト認メタルトキハ此限ニ在ラス

第三十五條第一項

囚人懲治人及刑事被告人ニ接見セント請フ者アルトキハ典獄ノ立會ヲ以テ之ヲ許スヘシ但典獄ニ於テ形跡ノ疑フヘキコトアリト認ムルトキハ之ヲ許サヽルコトヲ得

第三十七條　囚人懲治人及刑事被告人死亡シタルトキハ典獄看守長醫師ノ立會ヲ以テ之ヲ檢視シ監署ニ於テ速ニ其本籍ニ通知スヘシ其遺骸ハ親屬若クハ故舊ノ之ヲ請フ者ニ下付ス但死亡後二十四時以內ニ在テ其下付ヲ請フ者無キトキハ監署ニ於テ之ヲ假葬シ其姓名ヲ記シタル木牌ヲ立ツヘシ

刑死者ハ死相ヲ驗シタル後仍ホ五分時ヲ過サレハ其遺骸ヲ棺架ヨリ解下シ之ヲ埋葬シ若クハ下付スルコトヲ許サス

第三十八條　刑事被告人ニ其親屬故舊ヨリ書類書籍用紙衣服臥具其他必要ノ物品又ハ飲食物ヲ贈ラント請フトキハ之ヲ許ス但書類書籍ハ當該裁判官ノ檢閲ヲ受クヘシ其營繕監禁者ニ係ルトキハ他物ニ於テモ亦同シ

新聞紙及時事ノ論說ヲ記スルモノハ前項ノ例ニアラス

第三十九條　囚人及懲治人ニハ現行ノ法律命令書並ニ書籍用紙印紙郵便切手貨幣及內務大臣ニ於テ許可シタルモノヲ除クノ外差入ヲ許サス但書籍ハ第三十二條ニ記載シタル制限ニ從フ

第四十二條　囚人獄則ヲ犯ストキハ其輕重ヲ量リ左ノ例ニ從テ處罰ス
一　減食　一日ノ食糧ヲ二合乃至三合ニ減シ鹽湯二品ノ外菜ヲ與ヘス
三　閉室　閉室ニ入レ一日ノ食糧ヲ二合乃至三合ニ減シ鹽湯二品ノ外菜ヲ與ヘス仍ホ臥具ヲ禁ス
第四十三條　囚人十六歲未滿ノ者及懲治人獄則ヲ犯ストキハ其輕重ヲ量リ左ノ例ニ從テ處罰ス
二　減食　一日ノ食糧ヲ二合乃至三合ニ減ス
第四十八條　獄則ヲ犯シ罰ニ處セラレタル者改悛ノ狀著シキトキハ處罰中ト雖モ之ヲ免スルヿトヲ得

○

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ産婆規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十二年七月十八日

内務大臣侯爵西鄕從道

勅令第三百四十五號（官報七月十九日）

産婆規則

第一條　産婆試驗ニ合格シ年齡滿二十歲以上ノ女子ニシテ産婆名簿ニ登錄ヲ受ケタル者ニ非サレハ産婆ノ業ヲ營ムコトヲ得ス

第二條　産婆試驗ハ地方長官之ヲ擧行ス

第三條　一箇年以上産婆ノ學術ヲ修業シタル者ニ非サレハ産婆試驗ヲ受クルコトヲ得ス

第四條　産婆名簿ハ地方長官之ヲ管理ス

産婆名簿ニ登錄ヲ受ケントスル者ハ産婆試驗合格證書ヲ添ヘ地方長官ニ願出ツヘシ

産婆名簿ノ登錄事項ニ異動ヲ生シタルトキハ二十日以内ニ産婆名簿ノ訂正ヲ願出ツヘシ

産婆名簿ノ登錄事項ハ内務大臣之ヲ定ム

第五條　産婆其ノ住所ヲ移シタル爲管轄地方廳ヲ異ニスルトキハ直ニ前ノ管轄地方廳ニ産婆名簿取消ノ登錄ヲ願出テ後ノ管轄地方廳ニ産婆名簿ノ登錄ヲ願出ツヘシ

前項ノ登錄換ヲ爲ササル者ハ産婆ノ業務ヲ爲スコトヲ得ス

第六條　産婆廢業シタルトキハ二十日以内ニ地方長官ニ産婆名簿取消ノ登錄ヲ願出ツヘシ

産婆失踪又ハ死亡シタルトキハ戶籍法ニ依ル屆出義務者ヨリ二十日以内ニ地方長官ニ産婆名簿取消ノ登錄ヲ願出ツヘシ

第七條　産婆ハ妊婦産婦褥婦又ハ胎兒生兒ニ異常アリト認ムルトキハ醫師ノ診療ヲ請ハシムヘシ

自ラ其ノ處置ヲ爲スコトヲ得ス但シ臨時救急ノ手當ハ此ノ限ニ在ラス

第八條　産婆ハ妊婦産婦褥婦又ハ胎兒生兒ニ對シ外科手術ヲ行ヒ産科器械ヲ用ヰ藥品ヲ投與シ又ハ之カ指示ヲ爲スコトヲ得ス但シ消毒ヲ行ヒ臍帶ヲ切リ灌腸ヲ施スノ類ハ此ノ限ニ在ラス

第九條　産婆ハ産婆名簿ニ登錄ヲ受ケサル者ニ妊婦産婦褥婦又ハ胎兒生兒ノ取扱ヲ專任スルコトヲ得ス

第十條　産婆ニシテ墮胎ノ罪其ノ他業務ニ關スル罪又ハ禁錮以上ノ刑ニ處セラルヘキ罪ヲ犯シタルトキハ地方長官ハ産婆ノ業ヲ禁止シ又ハ一年以内之ヲ停止スルコトヲ得産婆名簿登錄前ニ犯シタル罪ニ付テモ亦同シ

第十一條　試驗ニ關スル規程ニ違背シタル者アルトキハ其ノ試驗ヲ無效トスルコトヲ得若シ已ニ登錄ヲ受ケタルトキハ其ノ登錄ヲ取消スコトヲ得

第十二條　地方長官ハ産婆ノ業ヲ禁止シ又ハ停止シタル後本人ノ行狀ニ依リ其ノ禁止又ハ停止ヲ解除スルコトヲ得

第十三條　産婆試驗ヲ受ケントスル者又ハ産婆名簿ニ登錄ヲ願出ツル者ニシテ試驗又ハ登錄ノ以前墮胎ノ罪其ノ他業務ニ關スル罪禁錮以上ノ刑ニ處セラルヘキ罪ヲ犯シタル者又ハ試驗ニ關スル規程ニ違背シタル者ナルトキハ試驗又ハ登錄ヲ許可セサルコトヲ得

第十四條　産婆ニシテ三箇年間其ノ業ヲ營マサルトキ又ハ瘋癲白痴不具癈疾ト爲リ其ノ業ヲ營ムニ堪ヘスト認ムルトキハ地方長官ハ産婆名簿ノ登錄ヲ取消スコトヲ得

第十五條　産婆名簿ノ登錄登錄ノ取消、主要ナル登錄事項ノ訂正竝産婆業ノ禁止又ハ停止及其ノ解除ハ地方長官之ヲ告示スヘシ

第十六條　左ニ掲クル者ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

一　産婆名簿ニ登錄ヲ受ケスシテ産婆ノ業務ヲ爲シタル者

二　産婆名簿ノ登錄ヲ取消サレタル後産婆ノ業務ヲ爲シタル者

三　産婆ノ業ヲ禁止又ハ停止セラレタル後産婆ノ業務ヲ爲シタル者

四　第三條ニ關シ虚僞ノ證明又ハ陳述ヲ爲シタル者

五　第七條乃至第九條ニ違背シタル者

第十七條　第四條第三項第五條第二項及第六條ニ違背シタル者ハ科料ニ處ス

附　則

第十八條　本令施行以前内務省又ハ地方廳ヨリ産婆ノ免狀又ハ鑑札ヲ受ケ現ニ其ノ業ヲ營ム者ハ本令施行後六箇月以内ニ地方長官ニ願出テ産婆名簿ニ登錄ヲ受クルコトヲ得

第十九條　地方長官ハ産婆ニ乏シキ地ニ限リ當分ノ内出願者ノ履歷ニ依リ業務ノ地域及五箇年以内ノ期限ヲ定メ産婆ノ業ヲ免許スルコトヲ得

前項ノ免許ヲ受ケタル者ハ産婆ニ準シ本令ヲ適用ス但シ産婆名簿ニ登錄スル限ニ在ラス

第二十條　本令ハ明治三十二年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

○

朕東京ニ設置スル陸軍監獄ノ管理竝其ノ監獄長所屬ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

陸軍大臣子爵桂　太郎

御名御璽

明治三十二年七月十八日

勅令第三百四十六號（官報　七月十八日）

東京ニ設置スル陸軍監獄ハ第一師團長之ヲ管理シ其ノ監獄長ハ第一師團長ニ隸ス

○

朕明治二十三年勅令第二百二十七號廢止ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

内閣總理大臣侯爵山縣有朋

内務大臣侯爵西鄕從道

御名御璽

明治三十二年七月十九日

勅令第三百四十七號（官報　七月二十日）

明治二十三年勅令第二百二十七號ヲ廢止ス

〔參照〕

明治二十三年十月十一日官報　勅令第二百二十七號ハ府縣參事官典獄特別任用令ナリ

○

朕臺灣總督府官制中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十二年七月十九日

内閣總理大臣侯爵山縣有朋
内務大臣侯爵西鄕從道

勅令第三百四十八號（官報七月二十日）

臺灣總督府官制中左ノ通改正ス

第三十三條中「技師ハ」ノ下及第二十三條中「通シテ」ノ下ニ「專任」ヲ加フ

附則

本令ハ明治三十二年七月二十日ヨリ施行ス

〔參照〕

勅令第三百六十二號臺灣總督府官制（明治三十年十月二十一日官報）抄錄

第二十二條　技師ハ十五人奏任トス上官ノ命ヲ承ケ技術ニ關スル事ヲ掌ル

第二十三條　關技手及通譯ハ通シテ二百人判任トス上官ノ指揮ヲ承ケ庶務技術通譯等ニ從事ス

○

朕公立學校職員ノ懲戒ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十二年七月十九日

内閣總理大臣侯爵山縣有朋
文部大臣伯爵樺山資紀

勅令第三百四十九號（官報七月二十日）

小學校ニ非サル公立學校ノ職員ニシテ奏任文官ト同一ノ待遇ヲ受クル者ノ懲戒ニハ文官懲戒令中高等官ニ關スル規定ヲ準用シ判任文官ト同一ノ待遇ヲ受クル者ノ懲戒ニハ文官懲戒令中判任官ニ關スル規定ヲ準用ス

附則

本令ハ明治三十二年七月二十日ヨリ施行ス

○

朕海港檢疫官海港檢疫醫官海港檢疫官補海港檢疫醫官補海港檢疫員海港檢疫醫員服制ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十二年七月二十一日

内務大臣侯爵西鄕從道

勅令第三百五十號（官報七月二十二日）

海港檢疫官海港檢疫醫官海港檢疫官補海港檢疫醫官補海港檢疫員海港檢疫醫員ノ服制左ノ通定ム

海港檢疫所職員服制圖例

	海港檢疫官	海港檢疫醫官	海港檢疫官補	海港檢疫醫官補	檢疫員	檢疫醫員
地質	黑羅紗	同上	同上	同上	同上	同上
製式	圓形ニシテ黑色ノ前庇及支革ヲ附シ支革ノ兩端ハ帽ノ兩側ニ於テ各一箇ノ釦釦ヲ以テ留ム形狀圖ノ如シ	同上	同上	同上	同上	同上

帽			上衣				袴		
徽章	鈕釦	日覆	地質	製式	袖章	鈕釦	地質	製式	地質
前章ハ高サ一寸八分幅二寸金色ノ稲葉穂ニテ抱合中央ニ銀色錨ニ金ノ蛇二匹ノ搦ミタルヲ附シ帽ノ周圍ニ幅六分ノ金線二條ヲ纏フ各線間一分五厘形狀圖ノ如シ	金色形狀圖ノ如シ	白布形狀圖ノ如シ	黒若ハ紺羅紗	長「ジヤケツト」製胸二重形狀圖ノ如シ	幅一寸ノ金線一條幅五分ノ金線一條幅二分ノ金線一條ヲ附シ上部ノ一條ヲ三箇ノ環狀ニス各線間一分五厘環ノ内徑三分各環間四分形狀圖ノ如シ	胸五箇二行形狀圖ノ如シ	黒若ハ紺羅紗	普通	黒若ハ紺羅紗
前章ハ同上帽ノ周圍ニ幅六分ノ金線二條其ノ中間ニ幅一分ノ銀線一條ヲ纏フ各線間一分形狀圖ノ如シ	同上	同上	同上	同上	幅一寸ノ金線一條幅五分ノ金線一條幅一分ノ銀線一條幅二分ノ金線一條ヲ附シ其ノ他ハ同上	同上	同上	同上	同上
前章ハ同上帽ノ周圍ニ幅四分ノ金線二條ヲ纏フ各線間二分形狀圖ノ如シ	同上	同上	同上	同上	幅九分ノ金線一條幅四分ノ金線一條幅二分ノ金線一條ヲ附シ上部ノ一條ヲ二箇ノ環狀ニス各線間一分五厘環ノ内徑四分各環間八分形狀圖ノ如シ	同上	同上	同上	同上
前章ハ同上帽ノ周圍ニ幅四分ノ金線二條其ノ中間ニ幅一分ノ銀線一條ヲ纏フ各線間一分五厘形狀圖ノ如シ	同上	同上	同上	同上	幅九分ノ金線一條幅四分ノ金線一條幅一分ノ銀線一條幅二分ノ金線一條ヲ附シ其ノ他ハ同上	同上	同上	同上	同上
前章ハ同上帽ノ周圍ニ幅七分ノ金線一條ヲ纏フ形狀圖ノ如シ	同上	同上	同上	同上	幅八分ノ金線一條幅三分ノ金線一條ヲ附ス形狀圖ノ如シ	同上	同上	同上	同上
前章ハ同上帽ノ周圍ニ幅七分ノ金線其ノ下部ニ幅一分ノ銀線一條ヲ纏フ各線間二分形狀圖ノ如シ	同上	同上	同上	同上	幅八分ノ金線一條幅三分ノ金線一條幅一分ノ銀線一條ヲ附ス形狀圖ノ如シ	同上	同上	同上	同上

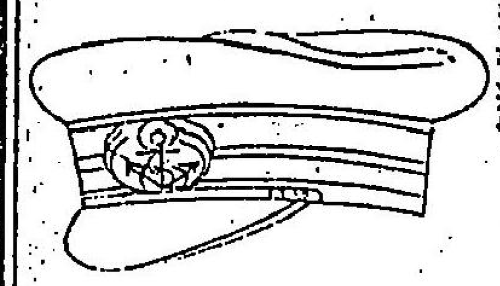
外套			
製式	袖章	鈕釦	雨覆
折襟胸二重後面ノ裾ヲ割キ又タ後面腰部ニ帶緒ヲ附シ裏黒色左右腰部ニ各一箇ノ物入ヲ附ス形狀圖ノ如シ	幅一分ノ金線一條ヲ附シ其ノ上部ニ幅一分ノ金線環狀三箇ヲ附ス環ノ内徑三分各環間五分形狀圖ノ如シ	胸六箇二行後面腰部ニ七箇ヲ附ス形狀圖ノ如シ	黒若ハ紺羅紗形狀圖ノ如シ
同上	幅一分ノ銀線一條ヲ附シ其ノ上部ニ幅一分ノ金線環狀三箇ヲ附ス其ノ他ハ同上	同上	同上
同上	幅一分ノ金線一條ヲ附シ其ノ上部ニ幅一分ノ金線環狀二箇ヲ附ス環ノ内徑四分各環間一寸形狀圖ノ如シ	同上	同上
同上	幅一分ノ銀線一條ヲ附シ其ノ上部ニ幅一分ノ金線環狀三箇ヲ附ス其ノ他ハ同上	同上	同上
同上	幅一分ノ金線一條ヲ附ス形狀圖ノ如シ	同上	同上
同上	幅一分ノ銀線一條ヲ附ス形狀圖ノ如シ	同上	同上

備考、夏季ニ於テハ上衣及袴ノ地質ハ白「リンネル」、黒若ハ紺「セルジ」製式上衣及袴ニ同シ夏衣袖章ハ金線ヲ白若ハ黒線ニ銀線ヲ萠黄若ハ黄線ニ換フルコトヲ得

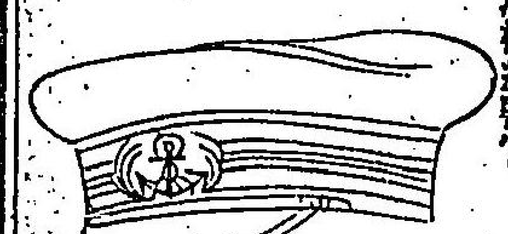
此ノ制服ハ通常禮服ニ代用ス

海港檢疫所職員服制圖

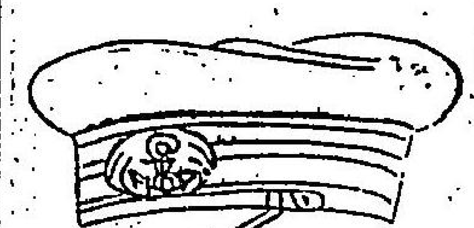
帽



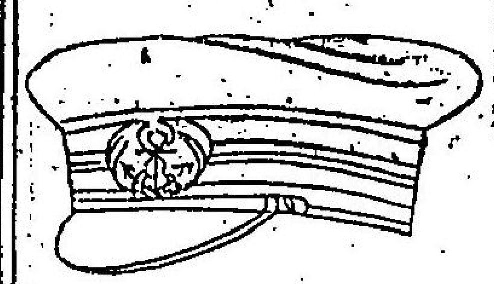
海港檢疫官



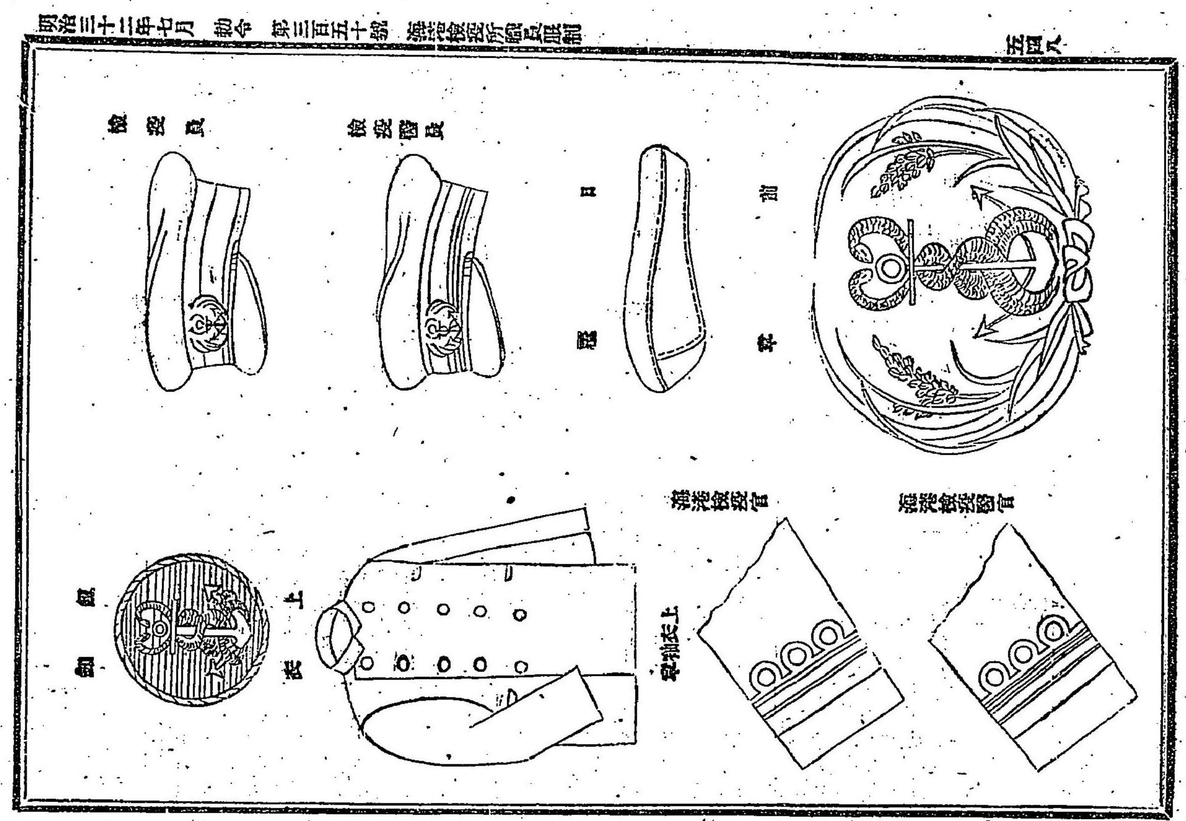
海港檢疫醫官

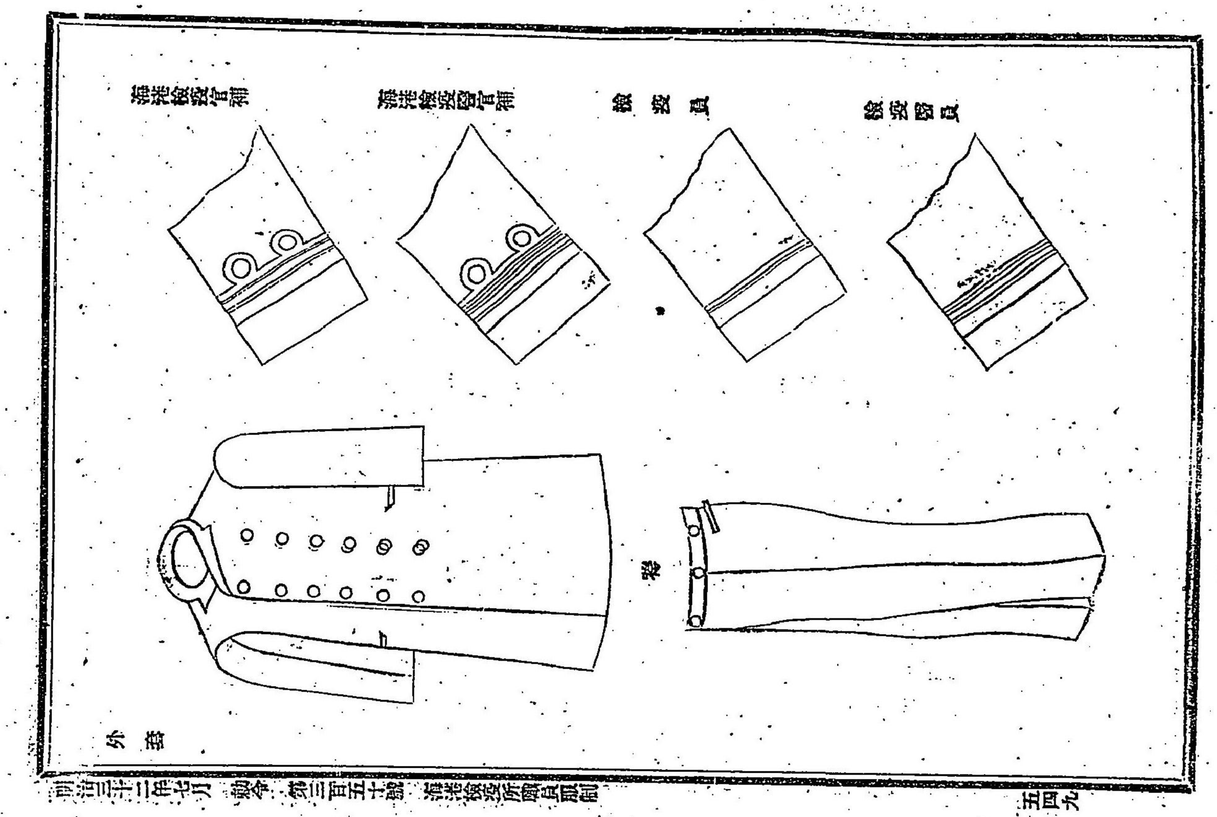


海港檢疫官補

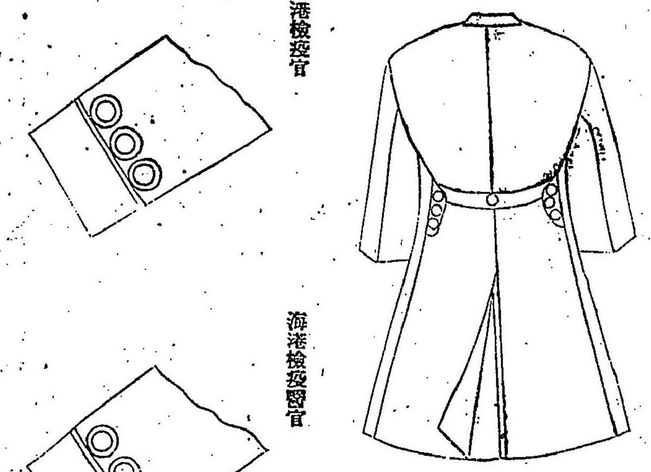


海港檢疫醫官補


檢疫員
檢疫醫員
腰
帽
帽章
表
上
海陸檢疫官
海陸檢疫醫官

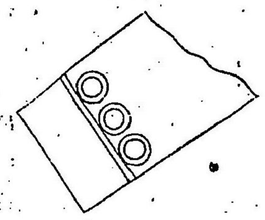

海陸檢疫官補
海陸檢疫醫官補
檢疫員
檢疫醫員
外套
襟

外套帽章

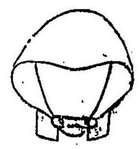


海港檢疫官

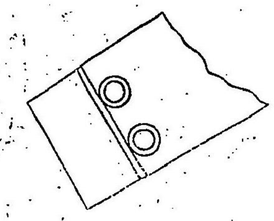
海港檢疫醫官



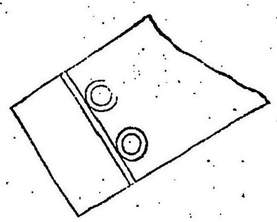
外套雨帽



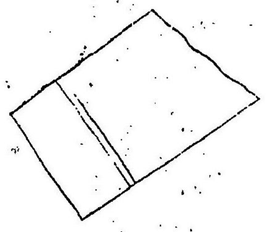
海港檢疫官補



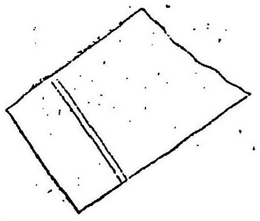
海港檢疫醫官補



檢疫員



檢疫醫員



○朕明治三十二年勅令第百六十九號中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十二年七月二十六日

大藏大臣伯爵松方正義

勅令第三百五十一號（官報　七月二十七日）

明治三十二年勅令第百六十九號別表中左ノ通改正ス

「清水」ノ次ニ左ノ一欄ヲ加ヘ「四日市」ノ管轄區域中「三河國尾張國」ヲ削ル

武豐	尾張國武豐	三河國尾張國

附則

本令ハ明治三十二年八月四日ヨリ施行ス

〔參照〕
明治三十二年二月二十日官報勅令第百六十九號ハ稅關支署名稱位置及管轄區域ノ件ナリ

○
朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ條約若ハ慣行ニ依リ居住ノ自由ヲ有セサル外國人ノ居住及營業等ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十二年七月二十七日

內閣總理大臣侯爵山縣有朋
內務大臣侯爵西鄕從道
外務大臣子爵青木周藏
司法大臣　清浦奎吾

勅令第三百五十二號（官報　七月二十八日）

第一條　外國人ハ條約若ハ慣行ニ依リ居住ノ自由ヲ有セサル者ト雖從前ノ居留地及雜居地以外ニ於テ居住、移轉、營業其ノ他ノ行爲ヲ爲スコトヲ得但シ勞働者ハ特ニ行政官廳ノ許可ヲ受クルニ非サレハ從前ノ居留地及雜居地以外ニ於テ居住シ又ハ其ノ業務ヲ行フコトヲ得ス

勞働者ノ種類及本令施行ニ關スル細則ハ內務大臣之ヲ定ム

第二條　前條第一項但書ニ違背シタル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

附則

第三條　本令ハ明治三十二年八月四日ヨリ施行ス

第四條　明治二十七年勅令第百三十七號ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

〔參照〕
明治二十七年八月五日官報勅令第百三十七號ハ帝國內ニ居住スル淸國臣民ニ關スル件ナリ

○
朕海軍軍人俸給令中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十二年七月二十七日

內閣總理大臣侯爵山縣有朋
海軍大臣　山本權兵衛

勅令第三百五十三號（官報　七月二十八日）

海軍軍人俸給令中左ノ如ク改ム

第二十二條　准士官以上ニシテ現役中海軍部內ノ文官ニ任セラレタル者ノ俸給ハ多額ニ就キ之ヲ給ス

第二十三條　准士官以上ノ年俸ハ十二分シ每月之ヲ支給ス

第二十三條ノ次ニ左ノ一條ヲ加フ

第二十三條ノ二　准士官以上候補生及下士卒ニシテ其ノ所在若ハ死生分明ナラサル者アルトキハ其ノ間本令ノ給與ヲ停止ス

第一表第二表第三表ヲ別表ノ如ク改ム

附則

本令ハ明治三十二年八月一日ヨリ施行ス

（別表）

第一表 高等武官俸給表

年俸			
大將	六千圓		
中將及相當官	四千圓		
少將及相當官	三千三百圓		
大佐及相當官	一級 二千四百九十六圓六十錢	二級 二千二百六十三圓	
中佐及相當官	一級 千八百九十八圓	二級 千六百六圓	
少佐及相當官	一級 千二百七十七圓五十錢	二級 千九十五圓	
大尉及相當官	一級 九百六十圓	二級 八百六十四圓	三級 七百八十圓
中尉及相當官	一級 六百圓	二級 五百四十圓	
少尉、少機關士、少軍醫、少藥劑士、少主計、造船少技士、造兵少技士、水路少技士	四百四十四圓		
兵曹長、軍樂兵、船匠兵、機關兵曹長、看護兵、縫帆兵	一級 七百八十圓	二級 七百二十圓	

兵曹長同相當官ニシテ一級俸ヲ受ケ五年以上勤續シ特ニ功勞アル者ハ年俸八百六十四圓ヲ給スルコトヲ得

第二表 准士官俸給表

	一級	二級	三級	四級
年俸	六百圓	五百四十圓	四百八十圓	四百二十圓

第三表 下士卒俸給表

		甲額 日當	乙額 日當
一等下士	一等級	八十四錢	五十八錢
	二等級	七十錢	四十九錢
	三等級	五十八錢	四十二錢
	四等級	四十四錢	三十一錢
二等下士	一等級	四十錢	二十八錢
	二等級	三十七錢	二十六錢
三等下士	一等級	三十二錢	二十三錢
	二等級	三十錢	二十二錢
卒	一等卒	二十一錢	十五錢
	二等卒	十八錢	十三錢
	三等卒	十五錢	十一錢
	四等卒	十二錢	八錢
	五等卒	七錢	五錢

（參照）

勅令第四百一號海軍軍人俸給令（明治三十年十一月五日官報）抄錄

第二十二條 准士官以上ノ俸給ハ三百六十五分シ其ノ月ノ日數ニ應シ給ス但シ太平洋ヲ渡航シ日數ニ一日ノ增減アルトキハ暦ノ日數ニ依ル又二月ハ閏年ト雖二十八日分ヲ給ス

第二十三條 俸給及加俸ハ毎月下旬ニ於テ之ヲ給ス

○

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ行政裁判所長官評定官懲戒令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治三十二年七月二十八日

内閣總理大臣侯爵山縣有朋

勅令第三百五十四號（官報 七月二十九日）

行政裁判所長官評定官懲戒令

第一章 總則

第一條 行政裁判所長官評定官左ニ記載シタル所爲アリタルトキハ懲戒裁判所ノ判決ニ依リ懲戒ノ處分ヲ受クヘシ

一 職務上ノ義務ニ違背シ又ハ職務ヲ怠リタルトキ

二 職務ノ内外ヲ問ハス官職上ノ威嚴又ハ信用ヲ失フヘキ所爲アリタルトキ

第二條 懲戒ノ處分ハ懲戒裁判所ノ判決ニ依リ之ヲ行フ

第三條 懲戒ハ左ノ如シ

一 譴責

二　減俸
三　免官

第四條　懲戒裁判所懲戒ノ適用ヲ定ムルニハ被告所犯ノ情狀ト平生ノ行狀ヲ斟酌スルコトヲ要ス

第五條　減俸ハ一月以上一年以下年俸月割額ノ三分ノ一以内ヲ減ス

第六條　免官ノ處分ヲ受ケタル者ハ其ノ官職ヲ失ヒタル日ヨリ二年間官職ニ就クコトヲ得ス

免官ノ處分ヲ受ケ其ノ情重キ者ハ位記ヲ返上セシム

第七條　刑事裁判手續中ハ同一事件ニ付被告ニ對シ懲戒裁判手續ヲ開始スルコトヲ得ス

懲戒裁判ノ言渡前同一事件ニ付被告ニ對シ刑事訴追ノ始リタルトキハ其ノ事件ノ判決確定ニ至ルマテ懲戒裁判手續ヲ停止スヘシ

第二章　懲戒裁判所

第八條　懲戒裁判所ニ裁判長一人裁判官六人豫備裁判官六人ヲ置ク

裁判長ハ文官高等懲戒委員長、裁判官ハ文官高等懲戒委員、豫備裁判官ハ文官高等懲戒豫備委員ヲ以テ之ニ充ツ

第九條　懲戒裁判所ニ檢察官一人ヲ置ク

檢察官ハ勅任檢事ノ中ヨリ内閣總理大臣ノ奏請ニ依リ之ヲ命ス

第十條　懲戒裁判所ニ書記五人ヲ置キ内三人ハ文官高等懲戒委員會書記ヲ以テ之ニ充テ二人ハ大審院書記ノ中ヨリ裁判長之ヲ命ス

第十一條　文官懲戒令第十二條及第十三條ノ規定ハ之ヲ本令ニ準用ス

第三章　裁判手續

第十二條　行政裁判所長官ハ行政裁判所評定官ニシテ懲戒ニ當ルヘキ所爲アリト思料スルトキハ證據ヲ具ヘ懲戒裁判所檢察官ニ通告スヘシ

檢察官ハ事件ノ通告ヲ受ケタルトキ又ハ職權ヲ以テ懲戒裁判開始ノ申立ヲ爲スヘシ

第十三條　懲戒裁判所ハ檢察官ノ申立ニ因リ又ハ其ノ職權ヲ以テ懲戒裁判ヲ開始スヘキヤ否ヲ決定ス但シ職權ヲ以テスル場合ニ於テハ檢察官ノ意見ヲ徵スヘシ

第十四條　懲戒裁判開始シタルトキハ被告ハ其ノ裁判終結ニ至ル迄職務ニ就クコトヲ得ス

第十五條　開始決定ニハ懲戒スヘキ所爲及證據ヲ開示スヘシ

第十六條　開始決定ハ檢察官及被告ニ送達スヘシ

第十七條　懲戒裁判所ハ直ニ口頭辯論ノ期日ヲ定メ又ハ下調ニ付スルノ決定ヲ爲スヘシ

下調ニ付スル決定ハ檢察官及被告ニ送達スヘシ

第十八條　懲戒裁判所下調ニ付スルノ決定ヲ爲シタルトキハ裁判長ハ裁判官ニ其ノ下調ヲ命ズヘシ

受命裁判官ハ必要ナル證據ヲ集取スヘシ

受命裁判官ハ證人訊問其ノ他證據集取ヲ通常裁判所ノ判事ニ囑託スルコトヲ得

受命裁判官證據ヲ集取スルニ付テハ刑事訴訟ニ於ケル豫審判事ト同一ノ權ヲ有ス但シ拘引狀又ハ拘留狀ヲ發スルコトヲ得ス

第十九條　被告下調ニ關スル呼出ヲ受ケタルトキハ代理人ヲシテ代理セシムルコトヲ得但シ受命裁判官若ハ受託判事ニ於テ本人ノ出頭ヲ必要トスルトキハ此ノ限ニ在ラス

第二十條　受命裁判官下調ヲ終リタルトキハ調書其ノ他一切ノ證據ヲ懲戒裁判所ニ差出スヘシ

受託判事ハ囑託ヲ受ケタル職務ヲ終リタルトキハ調書其ノ他一切ノ書類ヲ受命裁判官ニ送致スヘシ

懲戒裁判所ハ下調ノ補充ヲ命スルコトヲ得

第二十一條　懲戒裁判所下調ヲ充分ナリトスルトキハ檢察官ノ意見ヲ徵シ口頭辯論ノ期日ヲ定メ又ハ免訴ノ決定ヲ爲スヘシ

免訴ノ決定ハ檢察官及被告ニ送達スヘシ

第二十二條　懲戒裁判所口頭辯論ノ期日ヲ定メタルトキハ之ヲ檢察官ニ通知シ被告ヲ呼出スヘシ

第二十三條　口頭辯論ノ開始ハ裁判長之ヲ宣告ス

裁判長ハ先ツ被告ヲ審訊シ次テ證據調ヲ爲シ檢察官及被告ヲシテ辯論ヲ爲サシメ被告ニ最終ノ發言ヲ許スヘシ

第二十四條　被告ハ書面ヲ以テ辯論スルコトヲ得

第二十五條　懲戒裁判所ハ被告若ハ檢察官ノ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ更ニ證據ヲ提出セシムルコトヲ適當ナリトスルトキハ之カ爲必要ナル命令ヲ發シ且口頭辯論ヲ延期スルコトヲ得

第二十六條　懲戒裁判所ハ事件ノ辯論既ニ充分ナリトスルトキハ之ヲ終結シ直ニ判決シテ之ヲ言渡スヘシ

被告辯論期日ニ出頭セスト雖直ニ判決ヲ爲シ之ヲ言渡スコトヲ得

前二項ニ依リ直ニ判決スルコト能ハサルトキハ七日以內ニ判決ヲ爲シ之ヲ檢察官及被告ニ送達スヘシ

第二十七條　裁判官ノ忌避回避評議及證據ノ判斷ニ關シテハ裁判所構成法及刑事訴訟法ノ規定ヲ準用ス

第二十八條　懲戒裁判所判決ヲ爲シタルトキハ檢察官ヨリ直ニ其ノ旨ヲ內閣總理大臣及行政裁判所長官ニ報告スヘシ

第四章　罰則

第二十九條　懲戒裁判所又ハ受命裁判官若ハ受託判事ヨリ證人トシテ呼出サレタル者及鑑定又ハ通事ノ爲呼出サレタル者正當ノ理由ナクシテ呼出ニ應セス若ハ其ノ義務ヲ盡ササルトキハ四圓以上四十圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十條　證人トシテ懲戒裁判所又ハ受命裁判官若ハ受託判事ヨリ呼出サレタル者僞證ヲ爲シタルトキ及鑑定又ハ通事ノ爲懲戒裁判所又ハ受命裁判官若ハ受託判事ヨリ呼出サレタル者詐僞ノ陳述ヲ爲シタルトキハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

賄賂其ノ他ノ方法ヲ以テ人ニ囑託シテ僞證又ハ詐僞ノ鑑定通事ヲ爲サシメタル者亦同シ

前項ノ罪ヲ犯シタル者其ノ事件ノ判決ニ至ラサル前ニ自首シタルトキハ本刑ヲ免ス

第五章　附則

第三十一條　懲戒スヘキ所爲ハ本令施行前ニ關スルモノト雖本令ニ從ヒ之ヲ訴追ス

第三十二條　本令ハ明治三十二年八月一日ヨリ施行ス

○

朕明治二十三年勅令第百十一號中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十二年七月二十八日

内閣總理大臣侯爵山縣有朋

勅令第三百五十五號（官報　七月二十九日）

明治二十三年勅令第百十一號第一條中「行政裁判所評定官ノ定員ハ」ノ下ニ「專任」ヲ加フ

○

朕水先法施行ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十二年七月二十八日

遞信大臣子爵芳川顯正

勅令第三百五十六號（官報　七月二十九日）

水先法ハ明治三十二年八月四日ヨリ施行ス

○

朕水難救護法施行ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十二年七月二十八日

内務大臣侯爵西郷從道

遞信大臣子爵芳川顯正

勅令第三百五十七號（官報　七月二十九日）

水難救護法ハ明治三十二年八月四日ヨリ施行ス

○

朕要塞地帶法ニ規定スル要塞司令官ノ職務ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十二年七月三十一日

陸軍大臣子爵桂太郎

勅令第三百五十八號（官報　八月一日）

要塞地帶法ニ規定スル要塞司令官ノ職務ハ要塞司令部ヲ設ケサル地ニ在リテハ警備隊司令官、衛戍司令官若ハ築城部支部長之ヲ行フ

○

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ私立學校令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十二年八月二日

文部大臣伯爵樺山資紀

勅令第三百五十九號（官報　八月三日）

私立學校令

第一條　私立學校ハ別段ノ規定アル場合ヲ除ク外地方長官ノ監督ニ屬ス

第二條　私立學校ヲ設立セントスル者ハ監督官廳ノ認可ヲ受クヘシ

私立學校ノ廢止及設立者ノ變更ハ監督官廳ニ開申スヘシ

第三條　私立學校ニ於テハ校長若ハ學校ヲ代表シ校務ヲ掌理スル者ヲ定メ監督官廳ノ認可ヲ受ク

ヘシ

本令中校長ニ關スル規定ハ之ヲ學校ヲ代表シ校務ヲ掌理スル者ニ適用ス

第四條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ私立學校ノ校長又ハ教員ト爲ルコトヲ得ス

一　重罪ヲ犯シタル者但シ國事犯ニシテ復權シタル者ハ此ノ限ニ在ラス

二　定役ニ服スヘキ輕罪ヲ犯シタル者

三　破産若ハ家資分散ノ宣告ヲ受ケ復權セサル者又ハ身代限ノ處分ヲ受ケ債務ノ辨償ヲ終ヘサル者

四　懲戒ニ依リ免職ニ處セラレ二箇年ヲ經過セス又ハ懲戒ヲ免除セラレサル者

五　教員免許狀褫奪ノ處分ヲ受ケ二箇年ヲ經過セサル者

六　性行不良ト認ムヘキ者

第五條　私立學校ノ教員ハ相當學校ノ教員免許狀ヲ有スル者ヲ除ク外其ノ學力及國語ニ通達スルコトヲ證明シ小學校、盲啞學校及小學校ニ類スル各種學校ノ教員ニ在リテハ地方長官其ノ他ニ在リテハ文部大臣ノ認可ヲ受クヘシ但シ專ラ外國語、專門學科又ハ特種ノ技術ヲ教授スル教員及專ラ外國人ヲ入學セシムル爲ニ設立シタル學校ノ教員ハ國語ニ通達スルコトヲ證明スルコトヲ要セス

前項ノ認可ハ當該學校在職間有效ノモノトス

第六條　前條ノ證明ヲ不充分ト認メタルトキハ監督官廳ハ本人ノ志望ニ依リ試驗ヲ施スコトアルヘシ

第七條　私立學校ノ校長又ハ教員ニシテ不適當ナリト認メタルトキハ監督官廳ハ其ノ與ヘタル認可ヲ取消スコトヲ得

第八條　私立學校ニ於テハ公立學校ニ代用スル私立小學校ヲ除ク外學齡兒童ニシテ未タ就學ノ義務ヲ了ラサル者ヲ入學セシムルコトヲ得ス但シ小學校令第二十一條及第二十二條ニ依リ市町村長ノ許可ヲ受ケタル兒童ヲ入學セシムルハ此ノ限ニ在ラス

第九條　私立學校ノ設備授業及其ノ他ノ事項ニシテ教育上有害ナリト認メタルトキハ監督官廳ハ之カ變更ヲ命スルコトヲ得

第十條　左ノ場合ニ於テハ監督官廳ハ私立學校ノ閉鎖ヲ命スルコトヲ得

一　法令ノ規定ニ違反シタルトキ

二　安寧秩序ヲ紊亂シ又ハ風俗ヲ壞亂スルノ虞アルトキ

三　六箇月以上規定ノ授業ヲ爲ササルトキ

四　第九條ニ依リ監督官廳ノ爲セル命令ニ違反シタルトキ

第十一條　監督官廳ニ於テ學校ノ事業ヲ爲スモノト認メタルトキハ其ノ旨ヲ關係者ニ通告シ本令ノ規定ニ依ラシムヘシ

第十二條　第十條ニ依ル處分ニ對シテハ訴願法ニ依リ訴願スルコトヲ得

第十三條　第十一條ノ通告ヲ受ケ第二條第一項ノ手續ヲ爲ササル者及第二條第二項ノ規定ニ違反シタル者並第十條ニ依リ閉鎖ヲ命セラレタル後尙私立學校ヲ繼續スル者ハ五圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十四條　第三條又ハ第五條ノ認可ヲ得スシテ私立學校ノ校長又ハ教員タル者及第七條ニ依リ認可ヲ取消サレタル後尙私立學校ノ校長又ハ教員タル者ハ三十圓以下ノ罰金ニ處ス

情ヲ知リテ之ヲ使用シタル者亦同シ

第十五條　第八條ニ違反シタル者ハ二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第十六條　本令ノ規定ハ私立幼稚園ニ準用ス

第十七條　文部大臣ハ本令施行ノ爲必要ナル命令ヲ發スルコトヲ得

附　則

第十八條　本令ハ明治三十二年八月四日ヨリ施行ス

第十九條　既設ノ私立學校ニシテ未タ設立ノ認可ヲ受ケサルモノハ本令施行ノ日ヨリ三箇月以内ニ本令ノ規定ニ依リ認可ヲ受クヘシ

第二十條　本令施行ノ際現ニ私立學校ノ校長又ハ教員タル者ニシテ引續キ當該學校ノ校長又ハ教員タラント欲スル者ハ相當學校ノ教員免許狀ヲ有スル教員ヲ除ク外本令施行ノ日ヨリ三箇月以内ニ其ノ旨ヲ監督官廳ニ開申スヘシ此ノ場合ニ於テハ第三條又ハ第五條ノ認可ヲ受クルヲ要セス

○

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ開港港則中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十二年八月二日

大藏大臣伯爵松方正義
内務大臣侯爵西鄕從道
外務大臣子爵青木周藏
遞信大臣子爵芳川顯正

勅令第三百六十號（官報　八月三日）

開港港則第一條ニ左ノ如ク加フ

清水ノ港界ハ眞埼ヨリ正北ニ引キタル一線以内

武豐ノ港界ハ布土村ヨリ正東ニ引キタル一線以内

四日市ノ港界ハ燈臺ヲ中心トシテ二海里半ノ半徑ヲ有スル圓圈ノ一弧内

下ノ關ノ港界ハ彥島弟子待ノ鼻ヨリ巖流島ノ南東端マテ夫ヨリ北東微北ニ向ヒ引キタル一線及彥島海士浦ノ鼻ヨリ北東ニ引キタル一線以内

門司ノ港界ハ白木埼ヨリ北西四鏈ノ所ヨリ門司埼ニ引キタル一線ト正南ニ引キタル他ノ一線トノ二線ヲ經界トナシタル面積内

博多ノ港界ハ殘島ノ北端ヨリ滿切ニ引キタル一線及小戸鼻ヨリ殘島ノ南端ニ引キタル一線以内

唐津ノ港界ハ高島ノ北端ヨリ正東及正西ニ引キタル二線以内

口ノ津ノ港界ハ宮崎鼻ヨリ正南ニ引キタル一線ト白間埼ヨリ正東ニ引キタル他ノ一線トノ二線ヲ經界トナシタル面積内

三角ノ港界ハ瀨戸ノ鼻ヨリ大矢野島コンピラ鼻マテ際崎ノ鼻ヨリ戸馳島野埼マテ同島兎鼻ヨリ千束島六四郎鼻マテ夫ヨリ大矢野島塔ケ埼マテ引キタル四線以内

嚴原ノ港界ハ虎埼ヨリ耶良埼（一名寢釋迦鼻）ニ引キタル一線以内

佐須奈ノ港界ハ立場埼ヨリトロク埼ニ引キタル一線以内

鹿見ノ港界ハ長崎島ヨリ塔埼ニ引キタル一線以内

那覇ノ港界ハ先原埼ヨリ干ノ瀨ノ北端ニ引キタル一線及安里川口ヨリ干ノ瀨ノ北端ニ引キタル

一線以內

濱田ノ港界ハ黑埼ヨリ馬島ノ西端ニ引キタル一線ト馬島ノ北端（千疊敷鼻）ヨリアブミ埼ニ引キタル一線以內

境ノ港界ハ燈臺ヲ中心トシテ一海里半ノ半徑ヲ有スル圓圈ノ一弧內及外ノ江ノ西端ヨリ正北ニ引キタル一線以東

宮津ノ港界ハ片島鼻ヨリ日置埼ニ引キタル一線以內

敦賀ノ港界ハ赤埼ヨリ蛭子埼ニ引キタル一線以西及屏風埼峽以東

七尾南湾ノ港界ハ能登島松ケ埼ヨリ南東ニ引キタル一線以內

伏木ノ港界ハ燈臺ヲ中心トシテ一海里半ノ半徑ヲ有スル圓圈ノ一弧內

小樽ノ港界ハ平磯岬ヨリカヤシバ岬ニ引キタル一線以內

釧路ノ港界ハ燈臺ヨリ正西二海里ニ引キタル一線以北及該線ノ西端ヨリ正北ニ引キタル一線以東

室蘭ノ港界ハエンルム埼ヨリ大黑島ヲ經テホテイシ埼ニ引キタル一線以內

○

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ社寺保管林規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十二年八月二日

農商務大臣曾禰荒助

勅令第三百六十一號（官報　八月三日）

社寺保管林規則

第一條　社寺上地ノ森林保管ヲ其ノ社寺ノ願出ニ依リ許可スルハ本令ノ定ムル所ニ依ル

第二條　保管林ノ區域ハ農商務大臣之ヲ定ム

第三條　保管林ノ保管期間ハ十五年ヲ超ユルコトヲ得ス

前項ノ期間ハ之ヲ更新スルコトヲ得

第四條　社寺ニシテ保管林地ヲ使用セントスルトキハ大林區署長ノ許可ヲ受クヘシ但シ祭典又ハ法用ノ爲一時之ヲ使用スルトキハ此ノ限ニ在ラス

社寺ハ保管林地ノ使用ニ付林地ノ資質ヲ害シ又ハ風致ヲ損スルコトヲ得ス

第五條　社寺ハ保管林ニ關シ左ノ義務ヲ負フ

一　火災ノ豫防及消防

二　盜伐、誤伐、冒認、侵墾其ノ他ノ加害行爲ノ豫防及防止

三　有害動物ノ豫防及驅除

四　境界標其ノ他ノ標識ノ保存

五　稚樹ノ保育

六　大林區署長ノ命ニ依リ看守人ヲ配置スルコト

七　大林區署長ノ指定シタル方法ニ從ヒ保管林ノ植樹、補植、手入其ノ他造林ニ必要ナル行爲ヲ爲スコト

第六條　社寺ハ伐採量ノ二分ノ一ニ相當スル主產物ヲ採取スルコトヲ得

根株ハ大林區署長ノ許可ヲ得ルニ非サレハ之ヲ採取スルコトヲ得ス

第七條　社寺ハ林地ノ資質ヲ爲ササル副產物ヲ採取スルコトヲ得

第八條　社寺ハ夫林區署長ノ指定シタル期間內ニ其ノ採取產物ノ搬出ヲ終ルヘシ

前項ノ期間內ニ搬出ヲ終ラサルトキハ其ノ產物ヲ採取スル權利ヲ失フ

第九條　左ノ場合ニ於テハ農商務大臣ハ保管ヲ解除スルコトヲ得

一　社寺ノ管理者第四條ノ規定ニ違背シタルトキ

二　社寺ノ管理者第五條ノ義務ヲ怠リタルトキ

三　社寺ノ管理者其ノ保管林ニ關シ罪ヲ犯シタルトキ

四　保管林ヲ公用又ハ公益事業ニ供スル必要生シタルトキ

前項ノ規定ニ依リテ保管ヲ解除シタル場合ニ於テハ損害ヲ賠償セス

第十條　社寺ノ管理者許可ヲ得スシテ保管林地ヲ使用シタルトキハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス社寺ノ管理者保管林ヲ他人ニ貸付シ又ハ使用セシメタルトキ亦同シ

附則

第十一條　本令施行前ニ社寺ニ委託シタル上地官林ハ從前ノ例ニ依ル

第十二條　本令施行前ニ社寺ニ委託シタル上地官林ハ其ノ社寺ノ出願ニ依リ本令ニ定ムル保管林ト爲スコトヲ得

○

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ國有林野部分林規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十二年八月二日

農商務大臣曾禰荒助

勅令第三百六十二號（官報八月三日）

國有林野部分林規則

第一條　國有林野ニ部分林ヲ設定スルハ本令ノ定ムル所ニ依ル

第二條　部分林ノ收益分收ノ部合ハ地代及造林費ヲ參酌シテ農商務大臣之ヲ定ム

造林者ノ分收部合ハ十分ノ八ヲ超ユルコトヲ得ス

第三條　造林者ハ大林區署長ノ許可ヲ得ルニ非サレハ其ノ權利ヲ處分スルコトヲ得ス

第四條　造林者ハ部分林ノ植樹、補植、手入其ノ他造林ニ必要ナル行爲ヲ爲スヘシ

第五條　造林者ハ大林區署長ノ指定シタル期間內ニ植樹ヲ終ルヘシ

大林區署長ハ已ムヲ得サル事由アリト認ムル場合ニ限リ造林者ノ請求ニ依リ二年以內ニ於テ植樹期間ノ延長ヲ許可スルコトヲ得

第六條　造林者植樹準備又ハ手入ノ爲部分林ニ耕作ヲ爲サントスルトキハ大林區署長ノ許可ヲ受クヘシ

第七條　造林者ハ左ノ事項ニ關シ部分林ヲ保護スル義務ヲ負フ

一　火災ノ豫防及消防

二　盜伐、誤伐、冒認、侵墾其ノ他ノ加害行爲ノ豫防及防止

三　有害動物ノ豫防及驅除

四、境界標其ノ他ノ標識ノ保存

五、稚樹ノ保育

六　大林區署長ノ命ニ依リ看守人ヲ配置スルコト

第八條　造林者ハ左ノ產物ヲ採取スルコトヲ得

一　下草、落葉及落枝

二　樹實及菌蕈ノ類

三　部分林設定後天然ニ生育シタル雜木

四　植樹後二十年以內ニ於テ手入ノ爲伐採スル樹木

第九條　部分林設定後天然ニ生育シタル樹木ニシテ雜木ニ非サルモノハ之ヲ部分林ノ樹木ト看做ス

第十條　根株ハ特別ノ契約アル場合ヲ除ク外國ノ所有トス

第十一條　部分林ノ收益ハ其ノ樹木ノ賣拂代金ヲ以テ分收ス但シ國ノ分收スヘキ樹木ヲ保存スル必要アルトキハ材積ヲ以テ分收ヲ爲スコトヲ得

第十二條　代金ヲ以テ分收スルトキハ樹木ノ賣拂ハ當該官廳之ヲ行フ

材積ヲ以テ分收スルトキハ造林者ハ大林區署長ノ指定シタル期間內ニ其ノ分收樹木ノ搬出ヲ終ルヘシ

前項ノ搬出期間ハ三年ヲ超ユルコトヲ得ス

大林區署長ハ已ムヲ得サル事由アリト認ムル場合ニ於テハ二年以內ヲ限リ搬出期間ノ延長ヲ許可スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ延長期間ニ對スル地代ヲ前納セシムヘシ

第十三條　造林者搬出期間內ニ分收樹木ノ搬出ヲ終ラサルトキハ其ノ搬出セサル樹木ハ國ノ所有ニ歸ス

第十四條　大林區署長ハ森林經濟上利益ナリト認ムル場合ニ限リ造林者ノ請求ニ因リ十年以內ニ於テ部分林ノ存續期間又ハ伐期ヲ變更スルコトヲ得

第十五條　部分林ニ損害ヲ加ヘタル第三者ヨリ賠償トシテ得タル金額ハ分收部合ニ依リ之ヲ分收ス

第十六條　天災其ノ他避クヘカラサル事變ニ因リ契約無效ト爲リタル場合ニ於テハ現存ノ樹木ハ分收部合ニ依リ之ヲ分收ス已ムヲ得サル事由ニ因リ造林者契約ノ解除ヲ願出テ之ヲ許可シタル場合亦同シ

第十七條　造林者左ノ諸項ニ該當スルトキハ農商務大臣ハ部分林設定契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得但シ造林者ノ責ニ歸スヘカラサル事由アルトキハ此ノ限ニ在ラス

一　植樹期間ノ始期ヨリ一年ヲ經過スルモ植樹ニ著手セサルトキ

二　植樹期間內ニ植樹シタル面積カ總面積ノ二分ノ一ニ及ハサルトキ

三　植樹期間延長ノ許可ヲ得タル場合ニ於テ其ノ期間內ニ植樹ヲ終ラサルトキ

四　植樹ヲ終リタル後五年ヲ過クルモ成林ノ見込ナキトキ

五　造林者其ノ部分林ニ關シ罪ヲ犯シタルトキ

第十八條　前條ノ規定ニ依リ部分林設定契約ノ解除ヲ爲シタルトキハ部分林設定ノ日ニ遡リ地代ヲ徵收シ既植ノ樹木ハ國ノ所有ニ歸ス

第十九條　造林者部分林ヲ他ノ目的ニ使用シタルトキハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス部分林ヲ他人ニ貸付シ又ハ使用セシメタルトキ亦同シ

附　則

第二十條　明治十一年三月内務省甲第四號布達部分木仕付條例ハ之ヲ廢止ス

第二十一條　第二條ノ規定ハ國有林野法第十九條第二項ノ規定ニ依ル部分林ニハ之ヲ適用セス

第二十二條　國有林野法第十九條第二項ノ規定ニ依ル部分林ニシテ存續期間ノ定ナキモノ又ハ其ノ期間本令施行ノ日ヨリ起算シテ八十年ヲ超ユルモノニ付テハ其ノ部分林ノ存續期間及伐期ハ現存スル樹木ノ年齢ヲ參酌シテ農商務大臣之ヲ定ム

第二十三條　國有林野法第十九條第二項ノ規定ニ依ル部分林ニシテ天然ニ生育シタル雜木ノ分收ヲ目的トスルモノナルトキハ其ノ雜木ハ部分林ノ樹木ト看做ス

㊀

朕國有林野産物ノ隨意契約ニ依ル賣拂ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十二年八月二日

大蔵大臣伯爵松方正義
農商務大臣　曾禰荒助

勅令第三百六十三號（官報八月三日）

國有林野産物ハ左ノ場合ニ限リ隨意契約ヲ以テ賣拂フコトヲ得

一　公用又ハ公益事業ノ爲必要アルトキ

二　非常ノ災害アリタル場合ニ於テ其ノ罹災者ニ建築營繕又ハ薪炭ノ材料ヲ賣拂フトキ

三　從來ノ慣行ニ因リ薪炭材又ハ副産物ヲ地元人民ニ賣拂フトキ

四　委託林野ノ産物ヲ受託者ニ賣拂フトキ

五　部分林ノ産物ヲ造林者ニ賣拂フトキ

六　社寺ノ建築營繕ノ材料トシテ社寺上地ノ森林ノ産物ヲ其ノ社寺ニ賣拂フトキ

七　國有林野ノ事業請負人又ハ國有林野ノ産物買受人ニ其ノ事業ニ必要ナル産物ヲ賣拂フトキ

八　採取ノ季節アル副産物ヲ賣拂フトキ

九　鑛業ニ必要ナル産物ヲ鑛業人ニ賣拂フトキ

十　國有林野法第三條、第八條、第十一條及第十五條ニ依リ組換、賣拂、貸付又ハ讓與ヲ爲シタル林野ノ産物ヲ其ノ土地ノ管理者、買受人、借受人又ハ讓受人ニ賣拂フトキ

十一　民地官木林ノ産物ヲ其ノ土地ノ所有者ニ賣拂フトキ

十二　建築其ノ他ノ用ニ供ス可キ土石ヲ發見シタル場合ニ於テ之ヲ其ノ發見人ニ賣拂フトキ

十三　見積價格三百圓ヲ超エサル産物ヲ賣拂フトキ

附則

官有森林原野及産物特別處分規則ハ之ヲ廢止ス

㊀

朕國有林野委託規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十二年八月二日

勅令第三百六十四號（官報八月三日）

國有林野委託規則

農商務大臣曾禰荒助

第一條　市町村又ハ市町村内ノ一部ニ國有林野ノ保護ヲ委託スルハ本令ノ定ムル所ニ依ル

第二條　委託林野ノ區域ハ市町村ノ位置、緣故及其ノ地方ノ狀況ヲ參酌シテ農商務大臣之ヲ定ム

第三條　委託林野ノ委託期間ハ五年ヲ超ユルコトヲ得ス

前項ノ期間ハ之ヲ更新スルコトヲ得

第四條　受託者ハ委託林野ニ關シ左ノ義務ヲ負フ

一　火災ノ豫防及消防

二　盜伐、誤伐、冒認、侵墾其ノ他ノ加害行爲ノ豫防及防止

三　有害動物ノ豫防及驅除

四　境界標其ノ他ノ標識ノ保存

五　稚樹ノ保育

六　大林區署長ノ命ニ依リ手入ヲ爲シ又ハ看守人ヲ配置スルコト

第五條　左ノ委託林野産物ハ之ヲ受託者ニ讓與スルコトヲ得

一　末木、枝條及枯倒木

二　手入ノ爲伐採スル樹木

三　自家用薪炭材

四　土地ノ資質ヲ爲ササル副産物

第六條　左ノ場合ニ於テハ農商務大臣ハ委託ヲ解除スルコトヲ得

一　受託者第四條ノ義務ヲ怠リタルトキ

二　受託者其ノ委託林野ニ關シ罪ヲ犯シタルトキ

三　委託林野ヲ公用又ハ公益事業ニ供スル必要生シタルトキ

前項ノ規定ニ依リテ委託ヲ解除シタル場合ニ於テハ損害ヲ賠償セス

第七條　受託者タル市町村又ハ市町村ノ一部ノ住民委託林野ニ損害ヲ加ヘタルトキハ受託者ハ之ヲ賠償スルノ責ニ任ス

附　則

第八條　本令施行前ニ副産物ノ無料採取ヲ許可シタル森林ニ關シテハ從前ノ例ニ依ル

第九條　本令施行前ニ副産物ノ無料採取ヲ許可シタル森林ハ其ノ採取者ノ出願ニ依リ委託林野トシテ爲スコトヲ得

○

朕行旅病人及行旅死亡人取扱法ヲ臺灣ニ施行スルノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十二年八月二日

勅令第三百六十五號（官報八月三日）

内務大臣侯爵西鄕從道

行旅病人及行旅死亡人取扱法ヲ明治三十二年八月四日ヨリ臺灣ニ施行ス

○

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ銃砲火藥類取締法施行規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十二年八月三日

勅令第三百六十六號（官報　八月四日）

内務大臣侯爵西鄕從道

銃砲火藥類取締法施行規則

第一條　銃砲火藥類取締法第三條第一項ノ許可ヲ受ケントスル者ハ計畫説明書、圖案其ノ他必要ナル事項ヲ具シ製造地廳府縣長官ヲ經由シ主務省ニ願出ヘシ

試驗製造ニ關スル危害豫防ノ方法ニ付テハ廳府縣長官ノ指揮監督ヲ受クヘシ

試驗ノ爲製造シタル軍用銃砲及火藥類ハ主務省ノ檢査ヲ受クヘシ

第二條　銃砲火藥類取締法第六條ニ依リ火藥商ニ與フル許可ヲ分チテ甲乙ノ二種トス

甲種ノ許可ヲ受ケタル火藥商ハ火藥類ニ關スル各種ノ商行爲ヲ爲スコトヲ得

乙種ノ許可ヲ受ケタル火藥商ハ火藥類ヲ輸入シ之ヲ官廳又ハ火藥商ニ賣渡スノ外火藥類ニ關スル他ノ商行爲ヲ爲スコトヲ得

本令施行前火藥商ノ許可ヲ受ケタル者ハ甲種ノ許可ヲ受ケタル者ト看做ス但シ輸入及卸賣ノ營業ニ限リ許可ヲ受ケタル者ハ乙種ノ許可ヲ受ケタル者ト看做ス

第三條　銃砲製造營業者ニ非サル者非軍用銃砲ヲ製造シタルトキハ製造ヲ竣リタル日ヨリ十日以内ニ其ノ銃砲ノ説明書及圖案ヲ具シ製造シタル銃砲ノ數ヲ廳府縣長官ニ屆出其ノ檢査ヲ受クヘシ

第四條　銃砲商ニ非サル者ハ所轄警察官署ノ許可ヲ受クルニ非サレハ軍用銃砲ノ讓渡（賣渡交換贈與以下倣之）ヲ受クルコトヲ得ス

前項ニ依リテ與ヘタル許可證ハ一箇月間其ノ效力ヲ有ス

第五條　火藥商ニ非サル者ハ劇發火藥（綿火藥ナイトログリセリンダイナマイト雷汞其ノ他劇發質ノ物品）及左ノ數量ヲ超過スル他ノ火藥類ヲ所持スルコトヲ得ス但シ第六條若ハ第八條ノ許可ヲ受ケタル者ハ此ノ限ニ在ラス

一火藥	一貫目
一小銃實包	千發
一雷管信管類	千箇
一導火線	百間

第六條　火藥商ニ非サル者ハ第八條ノ許可ヲ受クル場合ト同一ノ條件ヲ有スルニ非サレハ火藥類輸入ノ許可ヲ受クルコトヲ得ス

火藥類輸入ノ許可ヲ受ケントスル者ハ種類數量及使用ノ目的ヲ具シ使用地廳府縣長官ニ願出ヘシ但シ使用地ノ定マラサル場合ニ於テハ所轄廳府縣長官ニ願出ヘシ

前項ノ許可ハ一箇年間其ノ效力ヲ有ス但シ廳府縣長官ハ何時ニテモ之ヲ取消スコトヲ得

第七條　火藥商ニ非サル者火藥類ヲ讓受ケントスルトキハ種類數量及使用ノ目的ヲ具シ所轄警察官署ノ許可ヲ受クヘシ但シ特獵免許若ハ火藥類ヲ要スル工業ノ許可ヲ受ケタル者ハ此ノ限ニ在ラス

前項ニ依リ與ヘタル許可證ハ一箇月間其ノ效力ヲ有ス

第八條　鑛業用土工用船内銃砲用漁業用煙火製造用及火藥類ヲ要スル工業用ノ爲劇發火藥若ハ第五條ニ掲ケタル數量ヲ超過スル他ノ火藥類ヲ讓受ケントスル者ハ種類數量及使用ノ目的ヲ具シ使用地廳府縣長官ノ許可ヲ受クヘシ但シ使用地ノ定マラサル場合ニ於テハ所轄廳府縣長官ノ許

廳府縣長官前項ニ掲ケタル使用ノ目的ヲ有セサル者ニ對シ劇發火藥若ハ第五條ニ掲ケタル數量ヲ超過スル他ノ火藥類ノ讓受ヲ許可スルノ必要アリト認ムルトキハ其ノ事由ヲ具シ内務大臣ノ指揮ヲ受クヘシ

本條ノ許可ハ廳府縣長官ニ於テ何時ニテモ之ヲ取消スコトヲ得

第九條　使用ノ目的ヲ具シテ輸入又ハ讓受ノ許可ヲ受ケタル火藥類ハ其ノ許可ヲ與ヘタル官廳ノ許可ヲ受クルニ非サレハ他ノ目的ニ使用スルコトヲ得ス

第十條　警察官憲兵ニ於テ必要ト認ムルトキハ銃砲製造營業者、銃砲商及火藥商ノ帳簿ヲ檢査スルコトヲ得

第十一條　火藥類ハ左ノ規定ニ從ヒ之ヲ貯藏スヘシ

一　火藥及導火線ハ木器、亞鉛器、銅器ニ收納スルヲ要ス但シ少量ノ火藥ニ限リ白鐵葉器ニ收納スルコトヲ得

二　雷管信管類及小銃實包ハ木器、亞鉛器、銅器、白鐵葉器、厚紙製罐ニ收納スルヲ要ス

三　劇發火藥ハ酸氣、鹽氣ヲ含有セサル紙又ハ布（防濕ノ爲パラピン類ヲ塗抹スルコトヲ得）ヲ以テ包ミ之ヲ木器、亞鉛器ニ收納スルヲ要ス

四　綿火藥及ダイナマイトノ類ハ青色試驗紙ト共ニ容器ニ收納シ時時之ヲ檢査スヘシ試驗紙赤色ニ變スルノ徵候アルトキハ卽時火藥ヲ水中ニ投棄スルコトヲ要ス

五　火藥類ハ容器ト火藥類ト直接ニ觸接セサル爲紙、澁紙若ハ布ヲ以テ隔絶スヘシ但シ少量ノ火藥ヲ白鐵葉器ニ收納スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

雷管信管類ハ火藥竝劇發火藥ト同所ニ置クコトヲ得ス

火藥及劇發火藥ハ各之ヲ離隔スヘシ

火藥類ハ普通ノ油紙ヲ以テ包被スルコトヲ得ス

第十二條　劇發火藥若ハ第五條ニ掲ケタル數量ヲ超過スル他ノ火藥類ハ警察官ノ檢査ヲ受ケタル倉庫ニ非サレハ貯藏スルコトヲ得ス但シ鑛業土工ニ要スル火藥類ハ其ノ事業中假貯藏所ニ貯藏スルコトヲ得

第十三條　火藥庫倉庫及假貯藏所ニ貯藏スル火藥類ハ左ノ數量ヲ超過スルコトヲ得ス

火藥類ノ種類 ＼ 庫ノ種類	火藥庫	假貯藏所	倉庫
火藥	一萬貫目	十貫目	百萬貫目
雷管信管類	五百貫目	一百貫目	百萬發
劇發火藥	五百貫目	一百貫目	千萬發
小銃實包	無制限	無制限	無制限
導火線	無制限	無制限	無制限

火藥類ハ左ノ區別ニ從ヒ各別庫ニ貯藏スヘシ

一　火藥、小銃實包及導火線

二　雷管信管類

三　劇發火藥

第十四條　火藥庫及假貯藏所ニハ他ノ物品ヲ貯藏スルコトヲ得ス

劇發火藥若ハ第五條ニ掲ケタル數量ヲ超過スル火藥類ヲ貯藏シタル倉庫ニハ發火ノ虞アル他ノ物品ヲ貯藏スルコトヲ得ス

第十五條　火藥庫又ハ假貯藏所ハ其ノ位置竝建設ノ方法ヲ具シ且假貯藏所ニ在テハ貯藏スヘキ火

藥類ノ種類數量ヲ記シ廳府縣長官ニ差出シ其ノ許可ヲ受クルニ非サレハ建設スルコトヲ得ス

火藥庫又ハ假貯藏所ノ建築修繕又ハ模樣替ノ工事ヲ竣リタルトキハ警察官ノ檢査ヲ受クヘシ

第十六條　火藥庫ハ土藏又ハ煉瓦造ニシテ屋根ハ輕量ノ不燃質物ヲ用ヰ內部ニハ鐵類石瓦ヲ露ハサヽ窓ニハ透明ノ硝子ヲ用ヰルコトヲ得ス

火藥庫ニハ避雷針ヲ設クヘシ避雷針ハ其ノ尖頭ヨリ屋端ノ最モ遠隔セル點ニ至ル想像的直線ト四十五度以內ノ角度ヲ有セシムヘシ

火藥庫ノ周圍ニハ二間以上ノ距離ニ於テ高八尺以上ノ土堤ヲ築キ其ノ境界ト爲スヘシ

第十七條　警察官憲兵ハ何時ニテモ火藥庫倉庫及假貯藏所ヲ檢査シ修繕ヲ命シ又ハ火藥類ノ貯藏ヲ禁止若ハ停止スルコトヲ得

第十八條　火藥庫及假貯藏所ノ境界ハ皇居離宮ノ區域ヨリ十町以上ノ距離ヲ保有スヘシ

火藥庫及假貯藏所ノ境界ハ皇陵、社寺境內、公園、火ヲ取扱フ場所、發火質物品ヲ蓄積スル場所、瓦斯ノ傳導管、宅地、公道、鐵道、電線、汽船ノ航路其ノ他內務大臣ノ指定シタル箇所ヨリ五十間以上又蓄積セル燃質物ヨリ十四間以上ノ距離ヲ保有スヘシ但シ火藥庫ト火藥庫ト其ノ境界ヲ接スルハ此ノ限ニ在ラス

假貯藏所ニ付テハ廳府縣長官必要ト認ムルトキハ前二項ノ距離以上ニ於テ特ニ其ノ距離ヲ指定スルコトアルヘシ

第十九條　第十三條第二項ニ依リ倉庫ニ貯藏シ得ル數量ヲ超過スル火藥類ヲ運搬セントスルトキハ其ノ種類、數量、運搬ノ日時、通路及運搬先ヲ記シ所轄警察官署ノ許可ヲ受ケ其ノ許可證ヲ携帶スヘシ

第二十條　劇發火藥若ハ第五條ニ掲ケタル數量ヲ超過スル他ノ火藥類ノ運搬ハ第十一條ニ準據スヘシ

第二十一條　劇發火藥若ハ第五條ニ掲ケタル數量ヲ超過スル他ノ火藥類ハ警察官署ノ許可ヲ受クルニ非サレハ日出前日沒後ニ於テ授受荷造等ヲ爲スコトヲ得ス

第二十二條　警察官憲兵ハ危害豫防ノ爲必要ト認ムルトキハ本令ニ規定スルモノノ外軍用銃砲及火藥類ノ貯藏運搬其ノ他ノ取扱ニ關シ相當ノ處分ヲ爲スコトヲ得

第二十三條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

一　第一條第二項廳府縣長官ノ指揮命令ニ違背シタル者

二　第二條第三項ニ違背シタル者

三　第八條ノ許可ヲ受ケサル者ニ劇發火藥若ハ第五條ニ掲ケタル數量ヲ超過スル他ノ火藥類ヲ讓渡シタル者

四　第九條ニ違背シタル者

五　第十條ニ依ル警察官憲兵ノ檢査ヲ拒ミタル者

六　第十二條乃至第十六條及第十八條第一項第二項ニ違背シ若ハ第十八條第三項ニ依ル命令ニ違背シテ火藥類ヲ貯藏シタル者

七　第十七條ノ檢査ヲ拒ミ又ハ命令ヲ受ケテ修繕ヲ爲サス又ハ貯藏ノ禁止若ハ停止ノ命令ニ從ハサル者

第二十四條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ二十圓以下ノ罰金ニ處ス

一　第四條ノ許可ヲ受ケサル者ニ軍用銃砲ヲ讓渡シタル者

二　第七條ノ許可ヲ受ケス又ハ其ノ但書ニ該當セサル者ニ火藥類ヲ讓渡シタル者

三　第八條ノ許可ヲ受ケスシテ劇發火藥若ハ第五條ニ揭ケタル數量ヲ超過スル他ノ火藥類ヲ讓受ケタル者

四　第十一條ニ違背シテ火藥類ヲ貯藏シタル者

五　第十九條第二十條及第二十一條ニ違背シタル者

第二十五條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ十圓以下ノ罰金ニ處ス

一　第一條第三項第三條ニ違背シタル者及第一條第三項若ハ第三條ノ檢査ヲ受ケサル火藥類若ハ銃砲ヲ使用若ハ讓渡シタル者

二　第七條ニ違背シテ火藥類ヲ讓受ケタル者

附　則

第二十六條　從來ノ火藥庫又ハ假貯藏所ニシテ其ノ位置若ハ構造本令ノ規定ニ牴觸スルモノハ廳府縣長官ノ指定シタル期間ニ於テ之ヲ改ムヘシ

第二十七條　汽車若ハ船舶ニ依ル火藥類ノ運搬、運搬ニ關スル一時ノ保管及船舶ニ於ケル火藥類ノ貯藏ニ關スル規程ハ遞信大臣之ヲ定ム

○

朕明治三十二年勅令第二百七十七號中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十二年八月三日

内務大臣侯爵西鄕從道

勅令第三百六十七號（官報　八月四日）

明治三十二年勅令第二百七十七號中左ノ通改正ス

第二條中「掌ルヘシ」ノ下ニ左ノ如ク加フ

臺灣ニ屬スルトキハ其ノ費用及引取ニ關シテハ臺灣總督ノ定ムル所ニ依ル

〔參照〕

明治三十二年六月十七日官報　勅令第二百七十七號ハ行旅病人死亡人等ノ引取及費用辨償ニ關スル件ナリ

○

朕憲兵練習所條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十二年八月三日

陸軍大臣子爵桂太郎

勅令第三百六十八號（官報　八月四日）

憲兵練習所條例

第一條　憲兵練習所ハ憲兵司令部ニ置キ學生ニ憲兵ノ執務ニ必要ナル學術ヲ習修練磨セシメ以テ其實務ノ改良進歩ヲ圖ル所トス

第二條　學生ハ各憲兵隊ヨリ士官下士及上等兵ヲ分遣セシメ之ニ充ツ

第三條　憲兵練習所ニ左ノ職員ヲ置ク

所長　憲兵中、少佐

副官　憲兵大、中尉

教官　少佐大中尉及高等文官

下士及判任文官

第四條　所長ハ憲兵司令官ニ隷シ所務ヲ總理シ學生教育ノ責ニ任ス

第五條　副官ハ所内一般ノ庶務ヲ掌ル

第六條　教官ハ學生ノ教授ヲ分擔ス

第七條　學生ノ修學期ハ概ネ六箇月トス

第八條　學生ノ人員及入學時期ハ憲兵司令官陸軍大臣ノ認可ヲ請ケ之ヲ各憲兵隊長ニ令達ス

第九條　學生分遣ノ令達アレハ各憲兵隊長ハ修學ニ適當ノ者ヲ選定シ入學期日十五日前ニ其考科表寫ヲ添ヘ憲兵司令官ニ報告スヘシ

第十條　學生ハ所外ニ居住セシメ通學セシム但シ時宜ニ依リ所内ニ宿泊セシムルコトヲ得

第十一條　學生修學ニ所要ノ書籍器具消耗品ノ一部ハ貸與又ハ支給スルコトアルヘシ但シ下士上等兵ノ武器被服裝具ハ分遣ノ際之ヲ携帶セシム

第十二條　學生中ノ諸願届ハ所長ノ管理ニ屬ス

第十三條　學生ハ情願ヲ以テ歸省又ハ退學スルヲ許サスト雖病氣其他ノ事故ニ依リ學術習得ノ目途ナキ者ハ退學歸隊セシム

第十四條　憲兵司令官ハ修學期末ニ於テ所長教官ヲ集メ會議ヲ開キ學生修學ノ成績ヲ調査シ士官ニ在テハ修得證明書ヲ作リ之ヲ本人所屬ノ隊長ニ交付シ下士上等兵ニ在テハ學術修業證書ヲ附與シ學生修學ノ成績ヲ陸軍大臣ニ報告スヘシ

附則

第十五條　第十三第十四及第十五憲兵隊ニ在テハ當分ノ内學生ヲ分遣セシメサルコトヲ得

第十六條　本條例ハ明治三十二年九月一日ヨリ施行ス

○

陸海軍服制中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十二年八月十日

海軍大臣山本權兵衛

勅令第三百六十九號（官報八月十一日）

海軍服制中左ノ通改正ス

將校飾緒表ヲ左ノ如ク改ム

將校飾緒表

	將官	參謀佐尉官	副官
飾緒 製式	丸打金線徑二分長サ二丈四尺五寸其ノ兩端ヲ鎖狀組トシ之ニ金具各一箇ヲ附ス圖ノ如シ但通常軍服及冥服ニハ白茶色ノ絹絲製ヲ用ユルコトヲ得	同上但徑一分八厘	同上但金線ヲ銀線トシ白茶色ヲ白色トス
飾緒 金具	石榴形金色長サ二寸六分圖ノ如シ	同上	同上但金色ヲ銀色トス

下士卒臂章表ヲ左ノ如ク改ム

下士卒臂章表

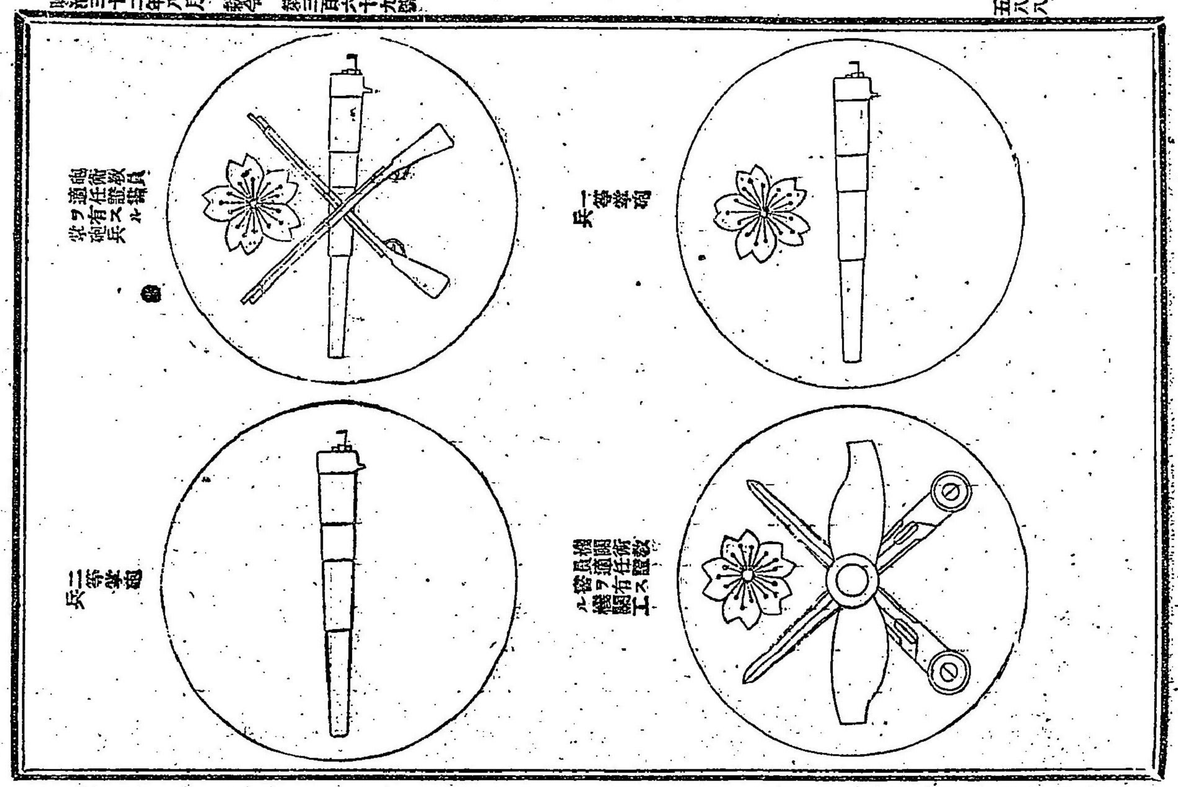
兵種	等級	一等	二等	三等
兵曹		櫻葉二箇ヲ以テ圓形ヲ造リ中ニ錨ヲ交叉シ其ノ直上ニ櫻花一箇ヲ附ス	錨ヲ交叉シ其ノ直上ニ櫻花ヲ附ス	錨及櫻花

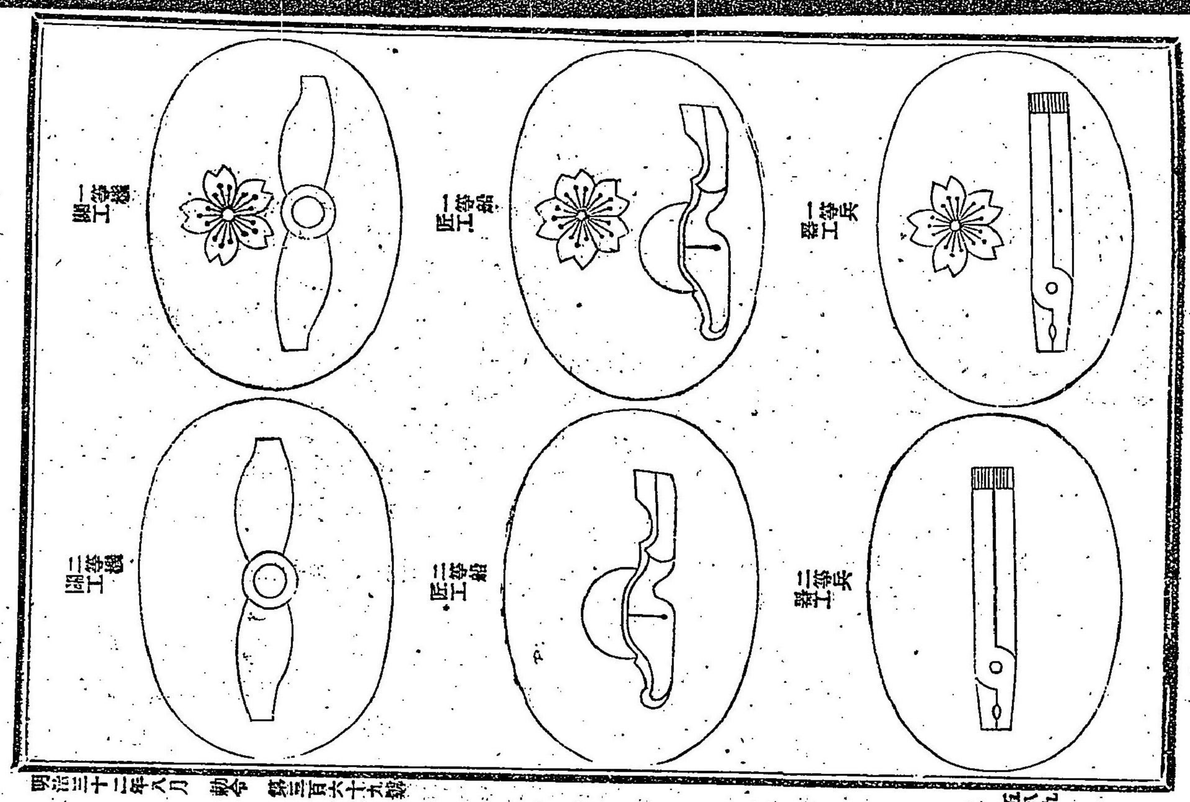
等	一等看護	一等機關兵	一等信號兵	一等主厨	一等鍛冶	一等水工	一等水兵	厨	鍛冶	機關兵	信號兵	船匠
外	櫻花											
袖	山形											
兵	砲術教員適任證書ヲ有スル者											
兵	花大砲ヲ附ス小銃ヲ交叉シ其ノ直上ニ櫻	螺旋間	旌	鑪	鎚	斧	鉦	交櫻交櫻ヲ交ヲ交シ其ノ直上ニ櫻形ヲ造リ中ニ鍋ヲ附ス	交櫻交櫻ヲ交ヲ交シ其ノ直上ニ櫻形ヲ造リ中ニ鎚ヲ附ス	同櫻交櫻ヲ交ヲ交シ其ノ直上ニ櫻形ヲ造リ中ニ螺旋ヲ附ス	交櫻交櫻ヲ交ヲ交シ其ノ直上ニ櫻形ヲ造リ中ニ族ヲ附ス	交櫻交櫻ヲ交ヲ交シ其ノ直上ニ櫻形ヲ造リ中ニ斧ヲ附ス
兵								鍋	鎚	螺旋	族	斧
兵	大砲	螺旋間	旌	鑪	鎚	斧	鉦	鍋及櫻花	鎚及櫻花	螺旋間及櫻花	族及櫻花	斧及櫻花

等	看護手	鍛冶手	機關兵曹	船匠手	信號兵曹	水雷兵曹	一等水雷兵	二等水雷兵	機關工曹	一等機關工	二等機關工	水雷工曹
外	櫻花											
袖	山形											
兵	砲術教員適任證書ヲ有スル者											
兵	螺旋間	鎚	斧	鉦	族	魚形水雷	魚形水雷	魚形水雷	螺旋推進機	螺旋推進機	螺旋推進機	螺旋推進機
兵	鍋及櫻花	鎚及櫻花	斧及櫻花	鉦及櫻花	族及櫻花	魚形水雷及櫻花	一等水雷兵	二等水雷兵	螺旋推進機及櫻花	一等機關工	二等機關工	螺旋推進機及櫻花

等	船匠工曹	兵器工曹	水雷工曹	看護手曹
外				
袖				
兵				
兵	一等船匠工	一等兵器工	一等水雷工	螺旋推進機及櫻花
兵	二等船匠工	二等兵器工	二等水雷工	螺旋推進機
兵	墨壺	墨壺	墨壺	墨壺及櫻花
兵	墨壺及櫻花	陸手欽	陸手欽	陸手欽及櫻花
兵	一等船匠工	一等兵器工	一等水雷工	螺旋推進機及櫻花
兵	二等船匠工	二等兵器工	二等水雷工	螺旋推進機

同服制圖襟章中砲術教員適任證書ヲ有スル掌砲兵、一等掌砲兵、二等掌砲兵ノ襟章ヲ左圖ノ如ク改メ二等掌水雷兵ノ次ニ機關術教員適任證書ヲ有スル機關工、一等機關工、二等機關工、一等船匠工、二等船匠工、一等兵器工、二等兵器工ノ襟章ヲ左圖ノ如ク加ヘ、一等掌機工、二等掌機工、一等掌舶工、二等掌舶工ノ圖ヲ削ル


兵二等銃
兵一等銃
兵二等銃
兵一等銃


機二工等
機一工等
匠二工等
匠一工等
銃二工等
銃一工等

○

朕臺灣總督府法院職員官等俸給及定員令改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十二年八月十二日

内閣總理大臣侯爵山縣有朋

内務大臣侯爵西鄕從道

勅令第三百七十號（官報　八月十四日）

臺灣總督府法院職員官等俸給及定員令

第一條　判官檢察官ノ官等ハ高等官一等乃至八等トシ其ノ年俸ハ別表ニ依ル

第二條　判官檢察官ノ各職ニ付其ノ專任定員及俸給ヲ定ムルコト左ノ如シ

覆審法院長一人　上級俸乃至下級俸

覆審法院部長一人　一級俸乃至七級俸

覆審法院判官六人　七級俸乃至十級俸

覆審法院檢察官長一人　中級俸乃至一級俸

覆審法院檢察官二人　七級俸乃至十級俸

地方法院長三人　一級俸乃至七級俸

地方法院判官二十一人　八級俸以下

地方法院檢察官長三人　二級俸乃至八級俸

地方法院檢察官八人　八級俸以下

第三條　書記ハ各院ヲ通シテ百人トス

第四條　通譯ハ各院ヲ通シテ五十人トス

奏任通譯ノ官等俸給ハ別ニ定ムル所ニ依ル

第五條　覆審法院判官ノ內二人ハ四級俸迄ヲ給スルコトヲ得

第六條　覆審法院檢察官ノ中一人ハ二級俸迄ヲ給スルコトヲ得

第七條　地方法院判官ノ中七人ハ七級俸ヲ給スルコトヲ得

第八條　地方法院檢察官ノ中三人ハ七級俸ヲ給スルコトヲ得

第九條　覆審法院長タル判官ノ官等ハ當分ノ內高等官三等ト爲スコトヲ得此ノ場合ノ俸給ハ下級俸トス

第十條　本令ニ規定セサルモノハ臺灣總督府職員官等俸給令ニ依ル

附則

第十一條　本令施行ノ際別ニ辭令ヲ交付セサル者ハ現ニ受クル俸給額相當ノ俸給ヲ給セラルルモノトス

（別表）

年俸	勅任 上級	勅任 中級	勅任 下級	奏任 一級	奏任 二級	奏任 三級	奏任 四級	奏任 五級	奏任 六級	奏任 七級	奏任 八級	奏任 九級	奏任 十級	奏任 十一級	奏任 十二級	奏任 十三級
四千圓	四千五百圓	三千圓	二千八百圓	二千六百圓	二千四百圓	二千二百圓	二千圓	千八百圓	千六百圓	千四百圓	千二百圓	千圓	九百圓	八百圓	七百圓	

○

朕臺灣總督府稅關官制改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十二年八月十二日

内閣總理大臣侯爵山縣有朋
内務大臣侯爵西鄕從道

勅令第三百七十一號（官報　八月十四日）

臺灣總督府稅關官制

第一條　臺灣總督府稅關ハ臺灣總督ノ管理ニ屬シ左ノ事務ヲ掌ル

一　關稅噸稅出港稅及稅關諸收入ニ關スル事項

二　保稅倉庫其ノ他ノ倉庫ニ關スル事項

三　船舶及貨物ノ取締ニ關スル事項

四　關稅規則及噸稅規則犯則者ノ處分ニ關スル事項

五　關稅通路ノ取締ニ關スル事項

第二條　左ノ四港ニ稅關ヲ置ク

淡水
安平
基隆
打狗

第三條　稅關ニ稅關長一人ヲ置ク奏任トス

淡水稅關長ハ基隆稅關長安平稅關長ハ打狗稅關長ヲ兼ヌ

第四條　稅關ヲ通シテ左ノ職員ヲ置ク

鑑定官	奏任	專任	二人
屬	判任	專任	四十八人
監視	判任	專任	二十四人
鑑定官補	判任	專任	十一人
監吏	判任	專任	百三十四人

第五條　稅關長ハ臺灣總督ノ指揮ヲ承ケ稅關ニ關スル一切ノ事務ヲ掌理ス

第六條　鑑定官ハ稅關長ノ指揮ヲ承ケ貨物ノ檢査鑑定ニ關スル事務ヲ掌理ス

第七條　屬ハ稅關出張所長タル者ノ外上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第八條　監視ハ稅關監視部長若ハ稅關監視署長タル者ノ外上官ノ指揮ヲ承ケ關稅警察及犯則處分ニ關スル事務ニ從事ス

第九條　鑑定官補ハ上官ノ指揮ヲ承ケ貨物ノ檢査鑑定ニ從事ス

第十條　監吏ハ稅關監視署長タル者ノ外上官ノ指揮ヲ承ケ關稅警察及犯則處分ニ關スル事務ニ從事ス

第十一條　稅關ニ稅關監視部ヲ置ク

監視部ニ部長一人ヲ置ク監視ヲ以テ之ニ充ツ

稅關監視部長ハ稅關長ノ指揮ヲ承ケ關稅警察及犯則處分ニ關スル事務ヲ掌理ス

第十二條　稅關管轄區域內必要ナル場所ニ稅關出張所及稅關監視署ヲ置クコトヲ得

稅關出張所ノ名稱位置及管轄區域竝稅關監視署ノ名稱位置ハ臺灣總督之ヲ定ム

第十三條　稅關出張所ニ所長一人ヲ置キ屬ヲ以テ之ニ充ツ

第十四條　稅關監視署ニ署長一人ヲ置ク監視若ハ監吏ヲ以テ之ニ充ツ

第十五條　稅關出張所長ハ稅關長ノ指揮ヲ承ケ其ノ管轄內ノ稅關事務ヲ掌理ス

第十六條　稅關監視署長ハ稅關長ノ指揮ヲ承ケ關稅警察及犯則處分ニ關スル事務ヲ掌理ス

附　則

第十七條　本令ハ發布ノ日ヨリ施行ス

第十八條　本令施行ノ際監吏監吏補ニシテ別ニ辭令書ヲ交付セラレサルトキハ監吏ハ監視ニ監吏補ハ監吏ニ任セラレタルモノトス

○

朕臺灣總督府稅關監吏俸給ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十二年八月十二日

內閣總理大臣侯爵山縣有朋

內務大臣侯爵西鄕從道

勅令第三百七十二號（官報八月十四日）

臺灣總督府稅關監吏ノ月俸ハ別表ニ依ル但シ一級俸ヲ受ケ事務練達ノ者ニハ漸次三十五圓迄ヲ給スルコトヲ得

附　則

本令ハ發布ノ日ヨリ施行ス

明治二十九年勅令第三百八十九號ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

（別表）

一級	三十圓	二級	二十七圓	三級	二十四圓	四級	二十一圓
五級	十八圓	六級	十五圓	七級	十二圓		

〔參照〕明治二十九年十二月十八日官報勅令第三百八十九號ハ臺灣總督府稅關監吏補ノ月俸ヲ二十五圓以下十二圓以上トセル件ナリ

○

朕明治三十年勅令第二十四號中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十二年八月十二日

內務大臣侯爵西鄕從道

勅令第三百七十三號（官報八月十四日）

明治三十年勅令第二十四號中左ノ通改正ス

稅關鑑定吏ヲ稅關鑑定官補ニ稅關監吏ヲ稅關監視ニ稅關監吏補ヲ稅關監吏ニ改ム

監吏補ノ欄中二十五圓以下ヲ自一級至四級ニ十五圓以下ヲ自五級至七級ニ改ム

〔參照〕明治三十年三月六日官報勅令第二十四號ハ臺灣總督府稅關職員服制ナリ

○

朕砂防法第十一條ノ地租其ノ他ノ公課減免ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十二年八月十五日

大藏大臣伯爵松方正義
內務大臣侯爵西鄕從道

勅令第三百七十四號（官報　八月十六日）

第一條　砂防法ニ依リ一定ノ行爲ヲ禁止又ハ制限シタル土地ニ對シテハ其ノ所有者ノ申請ニ依リ地租ヲ免除又ハ輕減スルコトヲ得

第二條　前條ニ依リ地租ヲ免除シタル土地ニ對シテハ地租以外ノ公課ヲ免除シ其ノ地租ヲ輕減シタル土地ニ對シテハ同一ノ割合ヲ以テ地租以外ノ公課ヲ輕減ス

第三條　本令ニ依ル地租其ノ他ノ公課ノ免除又ハ輕減ノ期間ハ一定ノ行爲ヲ禁止又ハ制限シタル月迄トス

第四條　本令ニ依リ地租ノ免除又ハ輕減ヲ受ケントスル者ハ一定ノ行爲ヲ禁止又ハ制限セラレタル日ヨリ三十日以內ニ稅務管理局長ニ申請スヘシ

第五條　本令施行前一定ノ行爲ヲ禁止又ハ制限シタル土地ニ付テハ第三條ノ期間ハ此ノ勅令施行ノ月、第四條ノ期間ハ本令施行ノ日ヨリ起算ス

○

朕政府ニ於テ直接ニ從事スル官設鐵道工事一部ノ請負ハ隨意契約ニ依ルコトヲ得ルノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十二年八月十五日

大藏大臣伯爵松方正義
遞信大臣子爵芳川顯正

勅令第三百七十五號（官報　八月十六日）

政府ニ於テ直接ニ從事スル官設鐵道工事一部ノ請負ハ隨意契約ニ依ルコトヲ得但シ之ヲ競爭ニ付スル爲關聯工事ヲ中止セサルヲ得サル場合ニ限ルモノトス

○

朕茲ニ緊急ノ必要アリト認メ樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ帝國憲法第八條ニ依リ明治三十二年勅令第二百七十八號廢止ノ件ヲ裁可シ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十二年八月十六日

內閣總理大臣侯爵山縣有朋
大藏大臣伯爵松方正義
內務大臣侯爵西鄕從道
陸軍大臣子爵桂太郎
文部大臣伯爵樺山資紀
外務大臣子爵青木周藏
遞信大臣子爵芳川顯正
海軍大臣山本權兵衞
司法大臣清浦奎吾
農商務大臣曾禰荒助

勅令第三百七十六號（官報　八月十七日）

明治三十二年勅令第二百七十八號ハ本令發布ノ日ヨリ廢止ス

〔參照〕

明治三十二年六月十日勅令第二百七十八號ハ韓國ニ渡航禁止ノ件ナリ

○

朕茲ニ緊急ノ必要アリト認メ樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ帝國憲法第八條ニ依リ府縣會議員及郡會議員選擧ニ關スル罰則ノ件ヲ裁可シ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十二年八月十六日

內閣總理大臣侯爵山縣有朋
大藏大臣伯爵松方正義
內務大臣侯爵西鄕從道
陸軍大臣子爵桂太郎
文部大臣伯爵樺山資紀
外務大臣子爵靑木周藏
逓信大臣子爵芳川顯正
海軍大臣山本權兵衛
司法大臣清浦奎吾
農商務大臣曾禰荒助

勅令第三百七十七號（官報　八月十七日）

府縣會議員及郡會議員選擧ニ關スル罰則

第一條　選擧ノ前後ヲ問ハス左ノ各號ニ該當スル所爲アル者ハ一月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處シ又ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

一　選擧ニ關シ直接又ハ間接ニ金錢物品手形其ノ他ノ利益若ハ公私ノ職務ヲ選擧人又ハ選擧運動者ニ供與シ又ハ供與センコトヲ申込ミタル者又ハ供與若ハ申込ヲ承諾センコトヲ周旋勸誘シタル者竝ニ供與ヲ受ケ若ハ申込ヲ承諾シタル者

二　選擧ニ關シ酒食遊覽等其ノ方法及名義ノ何タルヲ問ハス人ヲ饗應接待シ又ハ饗應接待ヲ受ケタル者又ハ選擧會場若ハ投票所ニ往復スル爲メ船車馬ノ類ヲ供給シ及其ノ供給ヲ受ケタル者又ハ旅費若ハ休泊料ノ類ヲ代辨シ及其ノ代辨ヲ受ケタル者竝ニ此等ノ約束ヲ爲シ又ハ約束ヲ受ケタル者

三　選擧ニ關シ選擧人又ハ其ノ關係アル社寺學校會社組合市町村等ニ對スル用水小作債權寄附等其ノ他利害ノ關係ヲ利用シ選擧人ヲ誘導シタル者及其ノ誘導ニ應シタル者

前項ノ場合ニ於テ其ノ收受シタル物件ハ之ヲ沒收シ既ニ費用シタルモノハ其ノ價ヲ追徵ス

第二條　左ノ各號ニ該當スル者ハ二月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ五圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

一　選擧ニ關シ選擧人ニ暴行脅迫ヲ加ヘ若ハ之ヲ拐引シタル者

二　選擧人ニ對シ往來ノ便ヲ妨ケタル者又ハ詐僞ノ手段ヲ以テ選擧權ノ行使ヲ妨害シ若ハ投票ヲ爲サシメタル者

三　選舉ニ關シ選舉人又ハ其ノ關係アル社寺學校會社組合市町村等ニ對スル用水小作債權其ノ他利害ノ關係ヲ利用シ選舉人ヲ威逼シタル者

第三條　選舉人議員候補者及選舉運動者ニシテ選舉ニ關シ銃砲槍戟刀劍竹槍棍棒其ノ他人ヲ殺傷スルニ足ルヘキ物件ヲ携帶シタル者ハ十一日以上二年以下ノ輕禁錮又ハ五圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處シ其ノ物件ヲ沒收ス

警察官吏又ハ憲兵ハ必要ト認ムル場合ニ於テ前項ノ物件ヲ領置スルコトヲ得

第四條　當選ヲ妨クルノ目的ヲ以テ演說又ハ新聞紙雜誌引札張札其ノ他何等ノ方法ヲ以テスルニ拘ラス議員候補者ニ關シ虛僞ノ事項ヲ公ニシタル者ハ十一日以上六月以下ノ輕禁錮ニ處シ二圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス但シ新聞紙雜誌ニ在テハ仍其ノ署名シタル編輯人ヲ處斷ス

第五條　當選人其ノ選舉ニ關スル犯罪ニ因リ處罰セラレタルトキハ其ノ當選ヲ無效トシ且ツ裁判所ノ宣告ヲ以テ刑期後尙二年以上八年以下選舉人及被選人タルコトヲ禁ス

第六條　本令ニ依リテ處罰スヘキ犯罪ハ六箇月ヲ以テ時效ニ罹ル

第七條　府縣會議員及郡會議員選舉ニ關スル現行ノ罰則ハ本令ニ規定スルモノヲ除クノ外其ノ效力ヲ妨ケラルルコトナシ

第八條　本令ハ發布ノ日ヨリ施行ス

○

朕北海道區制中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

内閣總理大臣侯爵山縣有朋

内務大臣侯爵西鄕從道

勅令第三百七十八號（官報八月十八日）

北海道區制中左ノ通改正ス

第六條ニ左ノ二項ヲ加フ

區公民ニ限リテ任スヘキ職務ニ在ル者ニシテ本條第二項乃至第三項ノ場合ニ當ルトキ又ハ第五條第四項ニ依リ公民權ヲ停止セラレタルトキハ自ラ解職スルモノトス職ニ就キタル爲公民權ヲ有スル職務ニ在ル者ニシテ本條第二項第三項ノ場合ニ當ルトキ亦同シ

前項ノ職務ニ在ル者ニシテ公權剝奪若ハ停止ヲ附加スヘキ重罪輕罪ノ爲豫審ニ付セラレタルトキハ監督官廳ハ其ノ職務ノ執行ヲ停止シ有給吏員ニ對シテハ併セテ給料ヲ支給セサルコトヲ得

第八條第九條ヲ左ノ如ク改ム

第八條　區ニ區長及助役各一名ヲ置ク但シ區條例ヲ以テ助役ノ定員ヲ增加スルコトヲ得

區長及助役ハ有給吏員トシ其ノ任期ハ六年トス

第九條　内務大臣ハ區會ヲシテ區長候補者三名ヲ推薦セシメ上奏裁可ヲ請フヘシ若其ノ裁可ヲ得サルトキハ再推薦ヲ爲サシムヘシ

區會ニ於テ區長候補者ヲ推薦セス又ハ其ノ再推薦ニシテ仍裁可ヲ得サルトキハ更ニ推薦セシメ裁可ヲ得ルニ至ルノ間内務大臣ハ臨時代理者ヲ選任シ又ハ區費ヲ以テ官吏ヲ派遣シ區長ノ職務ヲ管掌セシムヘシ

臨時代理者ニ給料額旅費額等ハ内務大臣之ヲ定ム

第九條ノ次ニ左ノ各條ヲ加フ

第十條　助役ハ區會之ヲ選舉シ北海道廳長官ノ認可ヲ受クヘシ若其ノ認可ヲ得サルトキハ再選舉ヲ爲サシムヘシ

區會ニ於テ助役ヲ選舉セス又ハ其ノ再選舉ニシテ仍認可ヲ得サルトキハ更ニ選舉ヲ行ハシメ認可ヲ得ルニ至ルノ間北海道廳長官ハ臨時代理者ヲ選任シ又ハ區費ヲ以テ官吏ヲ派遣シ助役ノ職務ヲ管掌セシムヘシ

臨時代理者ノ給料額旅費額等ハ北海道廳長官之ヲ定ム

第十一條　其ノ區公民ニ非サル者ト雖區長又ハ助役ニ選任セラルルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ在職ノ期間ヲ限リ其ノ區公民權ヲ有ス

第十二條　區長及助役ハ第四十三條第二項ニ掲載スル職ヲ兼ヌルコトヲ得ス

父子兄弟タルノ緣故アル者ハ同時ニ區長及助役ノ職ニ在ルコトヲ得ス若區長トノ間ニ其ノ緣故アル者助役ノ選舉ニ當ルトキハ其ノ當選ヲ無效トシ助役トノ間ニ其ノ緣故アル者區長ノ任ヲ受クルトキハ助役ハ其ノ職ヲ失フモノトス助役數名アル場合ハ第四十三條第四項ノ例ヲ適用ス

第十三條　區長ハ內務大臣助役ハ北海道廳長官ノ許可ヲ得ルニ非サレハ他ノ有給ノ職務ヲ兼任シ又ハ營業其ノ他報償アル業務ニ從事スルコトヲ得ス

第十四條　區長及助役ハ區會ノ同意ヲ得區長ハ內務大臣助役ハ北海道廳長官ニ申請シ其ノ認許ヲ受クルニ非サレハ任期中退職スルコトヲ得ス但シ任意ニ退職ノ申請ヲ爲シタル後三箇月ヲ經過シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十五條　區ニ收入役及收入役代理者各一名ヲ置ク但シ區條例ヲ以テ收入役代理者ノ定員ヲ增加スルコトヲ得

收入役及收入役代理者ハ區長ノ推薦ニ依リ區會之ヲ選定シ北海道廳長官ノ認可ヲ受クヘシ

收入役及收入役代理者ハ區長又ハ助役ヲ兼ヌルコトヲ得ス其ノ他第八條第二項及第十條乃至第十四條中助役ニ關スル例ヲ適用ス但シ助役ト收入役又ハ收入役代理者トノ關係ニ於テ亦第十二條ノ例ニ依ル

收入役及收入役代理者ノ身元保證金ニ付テハ區條例ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

第十六條　區長助役共ニ故障アルトキ又ハ收入役收入役代理者共ニ故障アルトキハ北海道廳長官ハ第十條第二項ノ例ヲ適用スルコトヲ得

第十七條　區ニ書記其ノ他必要ノ附屬員ヲ置キ有給吏員トス其ノ人員ハ區會ノ議決ヲ以テ之ヲ定メ區長之ヲ任免ス

「第十條」ヲ「第十八條」ニ改メ同條第三項中「區長之ヲ任免ス」ヲ「區會之ヲ選舉シ區長ノ認可ヲ受クヘシ」ニ改ム

「第十一條」ヲ「第十九條」ニ改メ同條第三項中「書記」ヲ「助役」ニ改メ第六項第七項ヲ削リ左ノ一條ヲ加フ

第二十條　區吏員ハ任期滿限ノ後再選セラルルコトヲ得

第二款標記中「區長及」ヲ削ル

「第十二條」ヲ「第二十一條」ニ改メ同條第二項第五號中「書記委員」ヲ除ク外其ノ他」ヲ「其ノ任免ニ係ル區吏員」ニ改メ左ノ一條ヲ加フ

第二十二條　區長ハ法律命令ノ定ムル所ニ依リ區ニ關スル國ノ行政事務ヲ掌ル

前項ノ事務ハ北海道廳長官ノ許可ヲ得テ之ヲ助役ニ分掌セシムルコトヲ得

本條ニ記載スル事務ヲ執行スル爲要スル費用ハ區ノ負擔トス

「第十三條」ヲ「第二十三條」ニ改メ以下第十五條迄順次繰下ク

「第十六條」ヲ「第二十六條」ニ改メ同條中「第五十四條」ヲ「第六十六條」ニ「第五十六條」ヲ「第六十八條」ニ改ム

第十七條第十八條ヲ削リ左ノ四條ヲ加フ

第二十七條　區長ハ區吏員ヲシテ其ノ事務ノ一部ヲ臨時代理セシムルコトヲ得

第二十八條　助役ハ區長ノ事務ヲ補助ス

區長ハ區會ノ同意ヲ得北海道廳長官ノ許可ヲ經テ助役ヲシテ區行政事務ノ一部ヲ分掌セシムルコトヲ得

助役ハ區長故障アルトキ之ヲ代理ス助役數名アルトキハ上席者之ヲ代理ス

第二十九條　收入役ハ法律命令中別段ノ規定アルモノノ外區ノ出納其ノ他會計事務竝第二十二條ニ依ル國ノ出納其ノ他會計事務ヲ掌ル

收入役代理者ハ收入役ノ事務ヲ補助ス

區長ハ收入役及區會ノ同意ヲ得テ收入役代理者ヲシテ收入役ノ事務ノ一部ヲ分掌セシムルコトヲ得

收入役代理者ハ收入役故障アルトキ之ヲ代理ス收入役代理者數名アルトキハ上席者之ヲ代理ス

第三十條　書記其ノ他ノ附屬員ハ區長ノ命ヲ承ケ庶務ニ從事ス

「第十九條」ヲ「第三十一條」ニ改メ以下第二十二條迄順次繰下ク

第二十三條ヲ左ノ如ク改ム

第三十五條　區長助役其ノ他有給吏員ノ給料額旅費額及其ノ支給方法ハ區會ノ議決ヲ以テ之ヲ定ム

區長ノ給料額ハ內務大臣ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス若之ヲ許可スヘカラスト認ムルトキハ內務大臣之ヲ定ム

區長ノ給料表給方法旅費額及其ノ支給方法助役其ノ他有給吏員ノ給料額旅費額及其ノ支給方法ハ北海道廳長官ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス若之ヲ許可スヘカラスト認ムルトキハ北海道廳長官之ヲ定ム

本條ノ給料額旅費額及其ノ支給方法ハ區條例ヲ以テ之ヲ定ムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ前二項ノ許可ヲ受クルコトヲ要セス

區條例ヲ以テ有給吏員ノ退隱料退職給與金及遺族扶助料ニ關スル規定ヲ設クルコトヲ得

「第二十四條」ヲ「第二十六條」ニ改メ同條中「第三十一條」ヲ「第三十四條」ニ改ム

「第二十五條」ヲ「第三十七條」ニ改メ以下第三十條迄順次繰下ク

「第三十二條」ヲ「第四十二條」ニ改メ同條第三項第三號ヲ「其ノ區ノ有給吏員」ニ第三號ヲ「檢事警察官吏及收稅官吏」ニ改メ同條第五項中「區長ト」ノ間」ヲ「區長又ハ助役トノ間」ニ改メ「區長」ノ下「ノ任命」ヲ「及ハ助役ノ任」ニ改ム

「第三十三條」ヲ「第四十四條」ニ改メ同條第四項中「第二十三條」ヲ「第三十四條」ニ「第二十四條第二十五條」ヲ「第三十六條第三十七條」ニ改ム

「第三十三條」ヲ「第四十五條」ニ改メ同條第三項中「區長若クハ區會」ヲ「區會區長若ハ北海道廳長官」ニ改ム

「第三十四條」ヲ「第四十六條」ニ改メ以下第三十七條迄順次繰下ク
「第三十八條」ヲ「第五十條」ニ改メ同條第二項中「第二十七條」ヲ「第三十九條」ニ改ム
「第三十九條」ヲ「第五十一條」ニ改メ以下第四十六條迄順次繰下ク
「第四十七條」ヲ「第五十九條」ニ改メ同條第五號ヲ「區有不動產ニ關スル權利ノ得喪ヲ目的トスル行爲ヲ爲ス事」ニ改ム
「第四十八條」ヲ「第六十條」ニ改メ以下第七十一條迄順次繰下ク
「第七十二條」ヲ「第八十四條」ニ改メ同條ニ左ノ一項ヲ加フ
數市區町村ニ涉リ營業所ヲ定メテ營業ヲ爲シ且其ノ本稅ヲ分別シテ納メサル者ニ對シ營業稅ノ附加稅ヲ賦課スルトキハ北海道廳長官ノ定ムル所ニ從ヒ本稅額ヲ各區町村ニ分割シテ其ノ一部ニノミ賦課スベシ
「第七十三條」ヲ「第八十五條」ニ改メ同條第一項中「第三條」ヲ「第五條」ニ第五項中「第百二條」ヲ「第百十六條」ニ改ム
「第七十四條」ヲ「第八十六條」ニ改メ以下第七十九條迄順次繰下ク
「第八十條」ヲ「第九十二條」ニ改メ同條第四項ヲ削ル
「第八十一條」ヲ「第九十三條」ニ改メ以下第九十四條迄順次繰下ク
「第九十五條」ヲ「第百七條」ニ改メ同條第一號中「第八十條」ヲ「第九十二條」ニ改ム
「第九十六條」ヲ「第百八條」ニ改メ同條第四號ヲ「學藝美術又ハ歷史上貴重ナル物件ヲ處分シ若ハ大ナル變更ヲナス事」ニ第五號ヲ「區有不動產ニ關スル權利ノ得喪ヲ目的トスル行爲ヲ爲ス事」ニ改メ第十號中「第七十四條第七十五條」ヲ「第八十六條第八十七條」ニ第十一號中「第七十七條」ヲ「第八十九條」ニ改ム
「第九十七條」ヲ「第百九條」ニ改メ同條第一項中「書記部長委員」ヲ「區長助役收入役收入役代理者部長委員」ニ改メ第二項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ
區長ノ解職ハ內務大臣勅裁ヲ經テ之ヲ行フ
第百九條ノ次ニ左ノ一條ヲ加フ
第百十條　區吏員其ノ職務ヲ盡サス又ハ權限ヲ越エタルコトアルカ爲區ニ對シテ賠償スヘキコトアルトキハ北海道廳長官之ヲ裁決ス其ノ裁決ニ不服アル者ハ裁決書ヲ交付シ又ハ之ヲ告知シタル日ヨリ七日以內ニ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得但シ出訴ヲ爲シタルトキハ北海道廳長官ハ假ニ其ノ財產ヲ差押フルコトヲ得
「第九十八條」ヲ「第百十一條」ニ「第九十九條」ヲ「第百十二條」ニ改ム
第百條ヲ左ノ如ク改ム
第百十三條　此ノ勅令ニ依リ初メテ議員ヲ選擧スルニ付區長及區會ノ職務竝區條例區規則ヲ以テ定ムヘキ事項ハ北海道廳長官又ハ其ノ指命スル官吏ニ於テ之ヲ施行スヘシ
「第百一條」ヲ「第百十四條」ニ改メ以下順次繰下ク
本令中「拓殖務大臣」ヲ「內務大臣」ニ改ム

〔參照〕
勅令第百五十八號北海道區制（明治三十年五月二十九日官報）抄錄
第八條　區ニ區長ノ外書記其ノ他必要ノ附屬員ヲ置キ有給吏員トス
書記ノ定員ハ北海道廳長官之ヲ定ム
書記ハ北海道廳長官之ヲ任免シ其ノ他ノ附屬員ハ區長之ヲ任免ス

第九條　區ニ收入役一名ヲ置キ書記ノ中ニ就キ北海道廳長官之ヲ命ス
收入役ハ身元保證ノ爲金圓若クハ物件ヲ差出スヘシ
第十條第三項
部長及其ノ代理者ハ選擧權ヲ有スル區公民ノ中ニ就キ區長之ヲ任免ス
第十一條第三項第六項第七項
委員ハ區會議員若クハ區公民中選擧權ヲ有スル者ヲ以テ之ニ充テ又ハ區會議員及區公民中選擧權ヲ有スル者ヲ以テ之ニ充ツ其ノ合議體ニ組織シタル場合ニ於テハ區長若クハ其ノ委任ヲ受ケタル書記ヲ以テ委員長トス
委員ニ關シテハ第四十六條ノ例ヲ適用ス
委員ニシテ公權剝奪者クハ停止ヲ附加ス（キ重罪輕罪ノ爲豫審ニ付セラレタルトキハ北海道廳長官ハ其ノ職ヲ停止スルコトヲ得

第二款　區長及區吏員ノ職務權限

第十二條第二項
區長ノ擔任スル事務ノ概目左ノ如シ
五　區吏員ヲ監督シ書記委員ヲ除ク外其ノ他ニ對シ懲戒處分ヲ行フ事其ノ懲戒處分ハ罰賞及十圓以下ノ過怠金トス
第十七條　書記ハ區長ノ命令ヲ承ケ國ノ行政及區ノ行政ニ係ル庶務ニ從事ス
區長故障アルトキハ上席書記國ノ行政及區ノ行政ニ付其ノ職務ヲ代理ス
區長ハ書記ヲシテ國ノ行政若クハ區ノ行政事務ノ一部ヲ臨時代理セシムルコトヲ得
第十八條　收入役ハ區ノ收入ヲ受領シ其ノ費用ノ支拂ヲ爲シ其ノ會計事務ヲ掌ル
第二十三條　書記ノ給料額旅費額及其ノ支給方法ハ北海道廳長官之ヲ定メ其ノ他有給吏員ノ給料額旅費額及其ノ支給方法ハ區規則ヲ以テ之ヲ定ムヘシ
第二十四條例ヲ以テ書記其ノ他有給吏員ノ退職料及遺族扶助料ヲ設クルコトヲ得
第三十二條第二項第五項
左ニ掲クル者ハ被選擧權ヲ有セス
二　區長及有給ノ區吏員
三　檢事及警察官吏
區長トノ間父子兄弟タル關係アル者ハ之ト同時ニ區會議員タルコトヲ得ス若議員トノ間ニ其ノ關係アル者區長ノ任命ヲ受ケタルトキハ其ノ職ヲ失フモノトス
第三十三條第一項
區會議員中缺員アルトキハ毎三年定期改選ノ時ニ至リ同時ニ補闕選擧ヲ行フヘシ若定員三分ノ一以上缺員アルトキ又ハ

區長若クハ區會ニ於テ臨時補闕ヲ必要ト認ムルトキハ定期前ト雖補闕選擧ヲ行フヘシ
第四十七條　區會ノ議決ヲ經ヘキ事件左ノ如シ
五　區有不動產ノ賣買交換讓受讓渡竝賃入書入ヲ爲ス事
第八十條第四項
區債ノ總額ハ毎年ノ利子額其ノ區經常支出既往三年（超過ノ部度其ノ他年度ヨリ超算ス）平均額ノ二分ノ一ヲ超過セサルヲ限度トス
第九十六條　左ニ掲クル事件ハ北海道廳長官ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス
四　學藝美術ニ關シ又ハ歷史上貴重ナル物件ノ賣却交換讓渡竝賃入書入若クハ大ナル變更ヲ爲ス事
五　區有不動產ノ賣却交換讓渡竝賃入書入ヲ爲ス事
第九十七條第一項
北海道廳長官ハ書記部長委員其ノ他區吏員ニ對シ懲戒處分ヲ行フ其懲戒處分ハ罰賞、二十五圓以下ノ過怠金及解職トス
第百條　此ノ勅令ニ依リ初メテ議員ヲ選擧スルニ付區會ノ職務ハ區長之ヲ行フヘシ

○

朕陸軍乘馬飼養條例中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十二年八月十七日

陸軍大臣子爵桂太郎

勅令第三百七十九號（官報　八月十八日）

陸軍乘馬飼養條例中左ノ通改正ス

第一條中第七項ノ次ニ左ノ一項ヲ加ヘ以下各項順次繰下ク

八　陸軍省軍務局出仕タル各兵科士官

（參照）

勅令第三百三十五號陸軍乘馬飼養條例（明治二十九年十月十五日官報）抄錄

第一條　陸軍現役校將同相當官中左ノ者ハ乘馬本分トス（所）

○朕武官所有ノ軍用銃賣買取扱規則廢止ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十二年九月十一日

陸軍大臣子爵桂　太郎
海軍大臣　山本權兵衛

勅令第三百八十號（官報　九月十二日）

明治十三年太政官達第二十二號武官所有ノ軍用銃賣買取扱規則ハ廢止ス

本令ハ發布ノ日ヨリ施行ス

○朕憲兵條例中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十二年九月十一日

內務大臣侯爵西鄕從道
陸軍大臣子爵桂　太郎
海軍大臣　山本權兵衛
司法大臣　清浦奎吾

勅令第三百八十一號（官報　九月十二日）

憲兵條例中左ノ通改正ス

第十條中「憲兵大、中佐」ヲ「憲兵中、少佐」ニ「伍」ヲ「班」ニ「憲兵伍長」ヲ「憲兵班長」ニ改メ左ノ一項ヲ加フ

憲兵隊長ハ第一第五第十二乃至第十五憲兵隊ヲ通シテ二名ヲ限リ憲兵大佐ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得

第十一條中「伍」ヲ「班」ニ改ム

第十三條第二項ヲ左ノ如ク改ム

前項地域外ト雖臨時緊急ノ場合ニ在テハ憲兵隊長ハ其ノ管區內、憲兵分隊長ハ其ノ警察區內ニ憲兵ヲ使用スルコトヲ得

第十九條中「憲兵伍長」ヲ「憲兵班長」ニ改ム

別表中「近衞師管」ヲ削リ「第四師管」ノ下ニ「第十一師管（德島縣板野郡鳴門村、撫養町、里浦村、大津村、北灘村）」ヲ「第五師管」ノ下ニ「第十一師管」ノ下ニ「（愛媛縣越智郡西伯方村、盛口村、瀬戸崎村、大山村、宮窪村、津倉村、鏡山村、鏡村、宮浦村、岡山村、宮田村、櫻井村、下朝倉村、清水村、鴨部村、九和村、日高村、乃万村、大井村、小西村、今治町、日吉村、立花村、近見村、波止浜村、波方村、瀬戸村、撫養町、里浦村、大津村、北灘村、鴨部村、瀬戸村、盛口村、瀬戸崎村、大山村、宮窪村、津倉村、鏡山村、鏡村、宮浦村、岡山村、櫻井村、下朝倉村、清水村、宮田村、今治町、日吉村、立花村、近見村、波止浜村、波方村、大井村、小西村ヲ除ク）」ヲ加フ

〔參照〕

勅令第三百三十七號憲兵條例（明治三十一年十一月三十日官報）抄錄

第十條　憲兵ノ職員左ノ如シ

第十三乃至第十五憲兵隊

本部

憲兵隊長　憲兵大、中佐

第十三條　憲兵司令官ハ各憲兵警察區內（盛岡ヲ除ク）ニ於テ憲兵ノ常時巡察スヘキ地域ヲ定ムヘシ

臨時急要ノ場合ニ際シテハ憲兵隊長ハ憲兵ヲ前項地域外ニ使用スルコトヲ得但シ其ノ警察區域外ニ使用スルコトヲ得ス

○

朕陸軍野戰砲兵射擊學校臨時學生入校ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十二年九月十一日

陸軍大臣子爵桂太郎

勅令第三百八十二號（官報　九月十二日）

陸軍野戰砲兵射擊學校學生ハ明治三十三年ニ限リ定期外臨時入校セシメ其修學期ヲ約四週日間ニ短縮スルコトヲ得

○

朕關稅法及保稅倉庫法ニ依ル通路ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十二年九月十二日

大藏大臣伯爵松方正義

勅令第三百八十三號（官報　九月十三日）

關稅法第三十五條及保稅倉庫法第四條ニ依ル通路左ノ如シ

橫濱新潟間　官設鐵道、日本鐵道及北越鐵道

橫濱大阪間　官設鐵道

四日市大阪間　關西鐵道

大阪敦賀間　官設鐵道
大阪神戸間　官設鐵道
小樽室蘭間　北海道炭礦鐵道
門司博多間　九州鐵道
博多長崎間　九州鐵道

○

朕國有林野及産物賣拂代金延納ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十二年九月十二日

大藏大臣伯爵松方正義
農商務大臣　曾禰荒助

勅令第三百八十四號（官報　九月十三日）

國有林野又ハ其ノ産物ノ賣拂代金一口五百圓以上ナル場合ニ限リ國債證券及地方債證券ヲ擔保トシテ提供セシメ一箇年以内ノ延納ヲ許可スルコトヲ得但シ公共團體若ハ社寺ニ對シテハ二箇年以内ノ延納ヲ許可スルコトヲ得

○

朕明治三十年勅令第三百九十五號中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十二年九月十五日

内務大臣侯爵西鄕從道

勅令第三百八十五號（官報　九月十六日）

明治三十年勅令第三百九十五號中左ノ通改正ス

北海道廳札幌支廳ノ部管轄區域ノ欄「札幌區」ヲ削ル

北海道廳函館支廳ノ全欄ヲ削ル

「北海道廳龜田支廳」ヲ「北海道廳函館支廳」ニ改メ位置ノ欄「渡島國龜田郡七飯村」ヲ「渡島國函館區元町」ニ改ム

附則

本令ハ明治三十二年十月一日ヨリ施行ス

○

朕海軍主計官練習所條例中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十二年九月十五日

海軍大臣山本權兵衛

勅令第三百八十六號（官報　九月十六日）

海軍主計官練習所條例別表末尾ニ左ノ備考ノ欄ヲ加フ

備考　本表定員ノ外本職アル者ニ雜務ヲ命スルコトヲ得

○

朕臺灣關稅及出港稅訴願審査委員會規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十二年九月十六日

内閣總理大臣侯爵山縣有朋
内務大臣侯爵西鄕從道

勅令第三百八十七號（官報　九月十八日）

臺灣關稅及出港稅訴願審査委員會規則

第一條　關稅法第六十九條ニ依ル委員會ハ臺灣關稅及出港稅訴願審査委員會ト稱シ會長一人委員五人ヲ以テ組織ス

第二條　會長ハ臺灣總督府民政長官委員ハ臺灣總督府高等官三人臺灣總督府法院判官二人ヲ以テ之ニ充ツ

第三條　特別ノ必要アル場合ニ於テハ前條定員ノ外臨時委員ヲ命スルコトヲ得

第四條　委員ハ臺灣總督ノ奏請ニ依リ内閣ニ於テ之ヲ命ス

第五條　會長事故アルトキハ其ノ指名シタル委員ヲシテ事務ヲ代理セシム

第六條　關稅及出港稅訴願審査委員會ニ幹事一人ヲ置キ臺灣總督府高等官ヲ以テ之ニ充ツ

幹事ハ會長ノ指揮ヲ承ケ庶務ヲ整理ス

第七條　關稅及出港稅訴願審査委員會ニ書記二人ヲ置キ臺灣總督府屬ヲ以テ之ニ充ツ

書記ハ會長及幹事ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第八條　書記ニハ事務ノ繁閑ニ應シ相當ノ手當ヲ給スルコトヲ得

○

朕海軍兵學校條例中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十二年九月十八日

海軍大臣山本權兵衛

勅令第三百八十八號（官報　九月十九日）

海軍兵學校條例中左ノ通改正ス

別表中「一等兵曹十六」以下「二等廚宰一」ニ至ル十五行及「一等水兵三十一」以下「三等主廚一」ニ至ル十四行ヲ削除シ小計ノ欄「百九十八人」ヲ「十六人」ニ合計ノ欄「二百七十四人内雜務二十一人」ヲ「九十二人内雜務二十一人」ニ改ム

○

朕臨時緯度觀測所官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十二年九月二十一日

内閣總理大臣侯爵山縣有朋
文部大臣伯爵樺山資紀

勅令第三百八十九號（官報　九月二十二日）

臨時緯度觀測所官制

第一條　臨時緯度觀測所ハ文部大臣ノ管理ニ屬シ帝國政府ト萬國測地學協會トノ條約ニ依リ緯度變化ノ觀測ニ關スル事務ヲ掌ル

第二條　臨時緯度觀測所ハ之ヲ岐手縣膽澤郡水澤町ニ置ク

第三條　臨時緯度觀測所ニ左ノ職員ヲ置ク

所長　一人　奏任
技師　專任二人
技手　專任二人
書記　專任一人　判任

第四條　所長ハ技師ヲ以テ之ニ充ツ文部大臣ノ指揮監督ヲ承ケ所務ヲ掌理シ部下ヲ監督ス

所長ハ觀測ニ關シテハ測地學委員會委員長ノ指揮ヲ承ク

第五條　技師ハ所長ノ指揮ヲ承ケ觀測ヲ掌ル

第六條　技手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ觀測ニ從事ス

第七條　書記ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

○

朕巡査看守俸給令中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十二年九月二十一日

內閣總理大臣侯爵山縣有朋
內務大臣侯爵西鄕從道

勅令第三百九十號（官報　九月二十二日）

巡査看守俸給令中左ノ通改正ス

第二條　巡査看守ニ任命セラルル者ノ月俸ハ五級以下トス

判任官以上ノ官職ニ在リタル者及巡査又ハ看守ノ職ニ在リタル者ニシテ巡査看守ニ任命セラルルトキハ四級俸マテヲ給スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ其ノ前職ノ月俸額四級俸以上ニ相當スルトキハ第一條ノ範圍ニ於テ前職ノ月俸額ニ相當スル月俸マテヲ給スルコトヲ得

第三條　巡査看守ニシテ四級以上ノ月俸ヲ受クル者ハ滿六箇月ヲ經過スルニアラサレハ昇級スルコトヲ得ス但シ巡査部長看守部長ニ拔擢セラレ又ハ巡査部長看守部長ノ昇級スルハ此ノ限ニ在ラス

第四條ニ左ノ一項ヲ加フ

前項ニ該當スル巡査看守ニハ月俸ノ外一箇月十圓ヲ超エサル特別手當ヲ給スルコトヲ得

第五條　教習中ノ巡査看守ノ月俸ハ六圓乃至九圓トス

〔參照〕

勅令第百四十九號巡査看守俸給令（明治三十年五月二十一日官報）抄錄

第一條　巡査看守ノ月俸左ノ如シ

一級　十五圓
二級　十四圓
三級　十三圓
四級　十二圓
五級　十一圓

六級　十圓
七級　九圓

第二條　巡査看守ニ任命セラルル者ノ月俸ハ六級以下トス
判任官以上ノ官職ニ在リタル者及巡査又ハ看守ノ精勤證書ヲ有スル者ニシテ巡査看守ニ任命セラルルトキハ前項ヲ適用セス但シ前職ノ月俸ヲ超ユルコトヲ得ス

第三條　巡査看守ニシテ五級以上ノ月俸ヲ受グル者ハ滿一年ヲ經過スルニアラサレハ昇級スルコトヲ得ス但シ巡査部長看守部長ニ拔擢セラルル者ハ此ノ限ニアラス

第四條　刑事事務又ハ通辯其ノ他特別ノ技能ヲ有スル者ハ第二條第三條ヲ適用セス

第五條　教習中ノ巡査看守ノ月俸ハ六圓乃至八圓トス

○

朕河川法第四十四條ニ依リ河川敗地ノ公用ヲ廢シタル土地ノ處分ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十二年九月二十八日

内務大臣侯爵西鄕從道

勅令第三百九十一號（官報　九月二十九日）

第一條　本令ニ於テ廢川敗地ト稱スルハ河川敗地ノ公用ヲ廢シタルモノヲ謂フ

第二條　廢川敗地ハ府縣知事之ヲ告示スヘシ

第三條　廢川敗地ノ處分ハ府縣知事之ヲ行フ

第四條　廢川敗地ニシテ御料地又ハ國有地ト爲スノ必要アルモノハ之ヲ御料地又ハ國有地ニ編入スヘシ

第五條　府縣以外ノ公共團體又ハ私人ニ於テ河川ニ關スル工事ヲ爲シタルニ因リ生シタル廢川敗地ハ之ヲ其ノ公共團體又ハ私人若ハ其ノ相續人ニ下付スルコトヲ得

第六條　府縣以外ノ公共團體ニ於テ維持又ハ修繕ノ費用ヲ負擔シタル河川ノ廢川敗地ハ之ヲ其ノ公共團體ニ下付スルコトヲ得

第七條　河流ノ變更ニ因リ生シタル廢川敗地ハ之ヲ其ノ沿岸若ハ沿堤ノ土地所有者又ハ河川ノ區域ヲ其ノ所有地ニ移サレタル公共團體又ハ私人若ハ其ノ相續人ニ下付スルコトヲ得

第八條　廢川敗地ニシテ公共團體又ハ私人ノ寄付ニ係ルモノハ之ヲ其ノ公共團體又ハ私人若ハ其ノ相續人ニ下付スルコトヲ得

第九條　河川ニ關スル工事ノ爲土地ヲ寄付シタル公共團體又ハ私人アルトキハ其ノ工事ニ因リ生シタル廢川敗地ヲ其ノ公共團體又ハ私人若ハ其ノ相續人ニ下付スルコトヲ得

第十條　河川ニ關スル工事ノ爲土地ヲ賣渡シ又ハ收用セラレタル公共團體又ハ私人アルトキハ其ノ工事ニ因リ生シタル廢川敗地ヲ其ノ公共團體又ハ私人若ハ其ノ相續人ニ有償ニテ下付スルコトヲ得

第十一條　廢川敗地ニシテ御料地又ハ國有地ト爲スノ必要アルトキハ宮内大臣又ハ主務大臣ハ第二條告示ノ日ヨリ三箇月以内ニ内務大臣ニ通知シ内務大臣ハ府縣知事ヲシテ之ヲ編入セシムヘシ

河川法第四十四條但書又ハ本令ニ依リ廢川敗地ノ下付ヲ受ケントスル者ハ前項ノ期間内ニ府縣知事ニ申請スヘシ

第十二條　府縣知事ニ於テ第五條乃至第十條ニ依リ受ケタル申請ニ對シテハ内務大臣ノ認可ヲ受ケ之ヲ處分スヘシ

第十三條　廢川敷地ニシテ編入又ハ下付ヲ爲ササルモノ及廢川敷地ノ償金ハ府縣ニ歸屬ス

第十四條　廢川敷地ニシテ現ニ他ノ公用ニ供スルモノハ內務大臣ノ認可ヲ經テ第四條乃至第十條及第十三條ノ規定ニ拘ハラス其ノ處分ヲ爲スコトヲ得

第十五條　廢川敷地ヲ取得シタル者ハ公用ヲ廢シタル日ヨリ其ノ土地ノ所有權ヲ取得ス

○

朕海軍軍人俸給令中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

內閣總理大臣侯爵山縣有朋

海軍大臣　山本權兵衛

御名御璽

明治三十二年九月二十九日

勅令第三百九十二號（官報、九月三十日）

海軍軍人俸給令中左ノ通改正ス

第十條　下士卒ニシテ左ノ各號ノ一ニ該ル者ニハ各其ノ有效期間一日六錢以內ノ加俸ヲ給ス但シ第三號及第六號ニ該ル者同技術ノ證書證狀ヲ併有スルトキハ多額ニ就キ之ヲ給ス

一　善行章ヲ有スル者

二　教員ノ職ヲ奉スル者

三　軍樂教員適任證書若ハ軍樂高等科卒業證書ヲ有スル者

四　信號適任證書ヲ有スル者

五　優等測手證狀若ハ優等射手證狀ヲ有スル者

六　勅命ヲ以テ定メタル特殊ノ技術證書若ハ證狀ヲ有スル者

前項ノ加俸細別ハ海軍大臣之ヲ定ム

第十七條　下士卒ニシテ入院若ハ陸地療養ヲ爲ス者及陸上勤務外宿中又ハ公務出張中傷痍ヲ受ケ若ハ疾病ニ罹リ一週日以上缺勤スル者ニハ其ノ間俸給十分ノ八ヲ給ス但シ其ノ原因公務ナルトキハ全額ヲ給シ自己ノ不攝生ナルトキハ十分ノ四ヲ給シ故意ナルトキハ十分ノ二ヲ給ス

外國出張中ニ在テハ前項故意ノ場合ヲ除ク外總テ俸給全額ヲ給ス

第十八條　下士卒ニシテ留置、收禁、處刑、處罰中若ハ被告事件ノ爲護送中ハ其ノ間俸給十分ノ二ヲ給ス但シ被告事件無罪若ハ免訴ニ歸シタルトキ及事件繫屬中死亡シタルトキハ其ノ不給額ヲ追給シ戴罪服務中ハ俸給全額ヲ給ス

第二十條　准士官以上候補生及下士卒ニシテ請願休暇、依願歸鄉、陸地療養若ハ入院其ノ他留置、收禁、處刑、處罰中若ハ被告事件ノ爲護送中又ハ擅ニ職役ヲ離レ若ハ他方ニ赴キ歸著ノ期ニ後レタルトキハ其ノ間航海加俸ヲ停止ス

下士卒ニシテ入院若ハ陸地療養ヲ爲ス者及陸上勤務外宿中又ハ公務出張中傷痍ヲ受ケ若ハ疾病ニ罹リ一週日以上缺勤スル者ニシテ其ノ原因自己ノ不攝生若ハ故意ナルトキ及留置、收禁、處刑、處罰中若ハ被告事件ノ爲護送中又ハ擅ニ職役ヲ離レ若ハ他方ニ赴キ歸著ノ期ニ後レタルトキハ其ノ間第十條ノ加俸ヲ停止ス

公務ニ原因シ傷痍ヲ受ケ若ハ疾病ニ罹リ又ハ外國出張中陸地療養若ハ入院スルトキ及准士官以上候補生ニシテ處罰中勤務ニ服スルトキ又ハ下士卒ニシテ戴罪服務中ハ前二項ノ例ヲ適用セス

又被告事件無罪若ハ免訴ニ歸シタルトキハ其ノ不給額ヲ追給ス

第四表中艦隊祕書ヲ艦隊副官ニ大將、中將、少將及相當官、大佐及相當官、中佐及相當官ノ各欄ヲ別表ノ如ク改メ少佐及相當官ノ欄中「艦隊航海長」大尉及相當官ノ欄中「艦隊司令長官ニ屬スル者」ヲ削リ大尉及相當官ノ欄中「艦長」ノ次ニ「副長」ヲ「水雷長」ノ次ニ「分隊長」ヲ加フ

同表末欄中第三項ヲ削リ左ノ二項ヲ加フ

本表ノ各職ニシテ定員表中ノ下級者ヲ以テ補シタルトキハ上級者ノ加俸額ヲ給ス

本表中ノ噸數ハ計畫噸數ヲ云フ

第六表末欄ニ左ノ如ク加フ

司令若ハ艦長ニシテ定員表中ノ下級者ヲ以テ補シタルトキハ上級者ノ加俸額ヲ給ス

附　則

本令ハ明治三十二年十月一日ヨリ施行ス

（別表）

大將	艦隊司令長官	二圓五十錢	一圓二十五錢
中將	艦隊司令長官	二圓二十錢	一圓十錢
少將	艦隊司令長官	二圓	一圓
	艦隊司令官	四圓	四圓
	艦隊參謀長	一圓八十錢	九十錢
大佐及相當官	艦隊參謀長	一圓七十錢	八十五錢
	艦長	一萬噸以上	七千噸以上
		七千噸未滿	一萬噸以上
	艦隊航海長	一圓二十錢	一圓四十五錢
	艦隊機關長	一圓	七十五錢
	艦隊軍醫長	五十錢	三圓
	艦隊主計長	二圓	二圓四十錢
	艦隊副長	七千噸以上	一萬噸以上
		七千噸未滿	七千噸以上
中佐及相當官	艦隊參謀長	八十五錢	四十三錢
	艦隊航海長	六十五錢	三十三錢
	艦隊機關長		一圓七十錢
	艦隊軍醫長		一圓三十錢
	艦隊主計長		一圓九十五錢
	艦隊航海長		二圓五十五錢
	艦隊軍醫長		二圓六十錢
	艦隊主計長		二圓四十錢

（參照）

勅令第四百一號海軍軍人俸給令（明治三十年十一月五日官報）抄錄

第十條　下士卒ニシテ左ニ掲クル事項ノ一ニ該ルトキハ各其ノ有效期間一日五錢以內ノ加俸ヲ給ス但シ同技術ノ證書證狀ヲ併有スル者ニハ多額ニ就キ之ヲ給ス

一　達行章ヲ有スル者

二　教員ノ職ヲ奉スル者

三　信號適任證書ヲ有スル者

四　勅命ヲ以テ定メタル特殊ノ技術證書若ハ證狀ヲ有スル者

前項ノ加俸細別ハ海軍大臣之ヲ定ム

第十七條　下士卒ニシテ入院若ハ陸地療養ノ者若ハ陸上勤務外宿中又ハ公務出張中傷痍ヲ受ケ若ハ疾病ニ罹リ一週日以上缺勤スル者ハ其ノ間俸給十分ノ四ヲ給ス但シ公務ニ原因シ傷痍ヲ受ケ若ハ疾病ニ罹リタルトキ若ハ外國出張中ニ在ルトキハ其ノ全額ヲ給ス

第十八條　下士卒ニシテ依願歸鄉、留置、收禁、處刑、處罰中若ハ被告事件ノ爲メ護送中ハ其ノ不給額ヲ追給ス未決中死亡スルトキ亦同シ

若ハ免訴ニ歸スルトキハ其ノ不給額ヲ追給ス

下士卒ニシテ戰鬪服務中ノ者ハ俸給全額ヲ給ス

第二十條　准士官以上候補生及下士卒ニシテ請願休暇、依願歸鄉、陸地療養若ハ入院其ノ他留置、收禁、處刑、處罰中若ハ被告事件ノ爲メ護送中若ハ擅ニ職役ヲ離レ若ハ他方ニ赴キ歸著ノ期ニ後レタルトキハ其ノ間加俸ヲ停止ス但シ無理若ハ免訴ニ歸スルトキハ其ノ不給額ヲ追給ス

公務ニ原因シ傷痍ヲ受ケ若ハ疾病ニ罹リ又ハ外國出張中陸地療養若ハ入院スルトキ及准士官以上候補生ニシテ處罰中勤務ニ服スルトキ若ハ下士卒ニシテ戒罪服務中ハ前項ノ例ニアラス

○

朕陸軍教導團條例廢止ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十二年十月二日

陸軍大臣子爵桂　太郎

勅令第三百九十三號（官報十月三日）

明治二十九年勅令第二百十六號陸軍教導團條例ハ明治三十二年十一月三十日限リ廢止ス

○

朕教育總監部條例中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十二年十月二日

陸軍大臣子爵桂　太郎

勅令第三百九十四號（官報十月三日）

教育總監部條例中左ノ通改正ス

第二條中「陸軍教導團」ヲ削ル

第七條中「及教導團騎兵生徒隊」ヲ削ル

第八條中「及教導團砲兵生徒隊」ヲ削ル

第十條中「及教導團工兵生徒隊」ヲ削ル

第十一條中「及教導團輜重兵生徒隊」ヲ削ル

附　則

本令ハ明治三十二年十二月一日ヨリ施行ス

○

朕陸軍要塞砲兵射撃學校條例中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

陸軍大臣子爵桂　太郎

御　名　御　璽

明治三十二年十月二日

勅令第三百九十五號（官報　十月三日）

陸軍要塞砲兵射撃學校條例中左ノ通改正ス

第一條中「ヒ又生徒ニ要塞砲兵下士タルニ必要ナル教育ヲ爲ス」ヲ「フ」ニ改ム

第二條中第二項ヲ削ル

第七條職員中「生徒隊長大尉、生徒隊附中尉」ヲ削ル

第三十二條中「及生徒隊附士官」ヲ削ル

第四條、第五條、第十一條、第十二條及第二十一條乃至第二十九條ヲ削リ第六條ヲ第四條ニ改メ以下順次繰上ク

附　則

本令ハ明治三十二年十二月一日ヨリ施行ス

〔參照〕

勅令第二百三十二號陸軍要塞砲兵射撃學校條例（明治三十一年十月一日）抄錄

第一條　陸軍要塞砲兵射撃學校ハ學生ニ要塞砲兵ノ射撃及戰術ノ訓練ヲ爲シ以テ各隊教育ノ進歩ヲ圖リ常ニ射撃及戰術ノ調査研究ヲ爲シ且要塞砲兵材料ノ研究竝試驗ヲ行ヒ又生徒ニ要塞砲兵下士タルニ必要ナル教育ヲ爲ス所トス

第二條　學生ハ要塞砲兵大中尉及下士ヲ以テ之ニ充ツ但時トシテ少尉ヲ以テ學生ト爲スコトアルヘシ

生徒ハ要塞砲兵下士ニ出身志願ノ者ヲ選拔シテ採用ス

（第四條以下削除ニ係ル條項ハ孰モ生徒ニ關スル件ナリ）

○

朕水路部條例中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

海軍大臣山本權兵衛

御　名　御　璽

明治三十二年十月四日

勅令第三百九十六號（官報　十月五日）

水路部條例中左ノ通改正ス

別表末尾ニ左ノ如ク加フ

備考	本表定員ノ外本職アル者ニ兼務ヲ命スルコトヲ得

○

朕北海道鐵道部鐵道事務官任用ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十二年十月五日

勅令第三百九十七號（官報十月六日）

北海道鐵道部鐵道事務官ハ鐵道ニ關スル技師又ハ三箇年以上鐵道ニ關スル事務ニ從事シ現ニ判任官四級俸以上ノ俸給ヲ受クル者ニ限リ試驗ヲ要セス文官高等試驗委員ノ銓衡ヲ經テ任用スルコトヲ得

内閣總理大臣侯爵山縣有朋
内務大臣侯爵西鄕從道

◎

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ陸軍召集條例ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十二年十月七日

陸軍大臣子爵桂太郎

勅令第三百九十八號（官報十月九日）

陸軍召集條例

第一章　總則

第一條　召集及簡閲點呼ハ在鄕軍人及國民兵本籍地所管ノ師團長之ヲ掌ル

將官同相當官ノ召集ハ本條例ノ規定ニ依ラス師團長直ニ之ヲ行フ

第二條　戒嚴ヲ宣告シ得ル權アル司令官時機切迫シテ命ヲ請フ途無キトキハ獨斷シテ充員召集補充召集及國民兵召集ヲ行フコトヲ得此ノ場合ニ於テ該司令官ハ召集ニ關シ師團長ト同一ノ職權ヲ有ス

第三條　召集事務ニ關シ師團長ノ定メタル規定ハ警視總監地方長官憲兵隊長及其ノ各所部ノ官吏公吏之ヲ遵行スヘシ

師團長ノ定メタル規定ニシテ公示ヲ要スルモノハ明治二十六年勅令第百九十九號ノ規定ヲ準用ス

第四條　師團長ハ定期又ハ臨時ニ地方官廳及公署ニ於ケル召集事務ノ整否ヲ檢閲シ又ハ部下將校ヲシテ之ヲ檢閲セシムヘシ

警視總監地方長官憲兵司令官及憲兵隊長ハ其ノ所部召集事務ノ整否ヲ檢閲シ又ハ部下官吏ヲシテ之ヲ檢閲セシムヘシ

第五條　在鄕軍人ノ召集ニハ召集令狀ヲ用ヰ召集部隊到著地及到著日時ヲ指定シ簡閲點呼ニハ點呼令狀ヲ用ヰ點呼場及到著日時ヲ指定ス

國民兵ノ召集ニハ召集令狀ヲ用ヰスシテ召集令ヲ達ス

第六條　應召員ノ到著スル地ニハ召集事務所ヲ設ク

第七條　召集ニ應スル爲旅行ヲ爲ス者ニハ其ノ出發前ニ於テ旅費ヲ給ス但シ一日行程以内ヲ旅行シタル後之ヲ給スルコトヲ得國民兵ニ在テハ到著地ニ到著シタル後之ヲ給スルコトヲ得

簡閲點呼ニ參會スル者ニハ旅費ヲ給セス

第八條　町村長ハ在鄕軍人名簿及第一國民兵名簿ヲ調製シ常ニ其ノ異動ヲ訂正スヘシ（雜卒職工ヲ包含ス以下同シ歸）

第九條　本條例中在鄕軍人トアルハ豫備役後備役ノ將校同相當官准士官下士兵卒

休兵及補充兵ヲ謂フ

第十條　本條例中到著地トアルハ召集部隊ノ所在地及應召員ノ召集部隊ニ到ル途中ニ於テ集合場ヲ設ケタル地ヲ謂フ

應召員トアルハ召集ニ應スヘキ者ヲ謂フ

第十一條　本條例中聯隊區司令部トアルハ警備隊司令部又ハ警備隊區司令部、聯隊區トアルハ警備隊區、郡トアルハ島司ヲ置キタル島嶼、島司又ハ郡長ヲ置カサル島嶼ニ在テハ島司又ハ郡長ニ準スヘキ者（島司又ハ郡長ニ準スヘキ者無キ島嶼ニ在テハ町村長ニ準スヘキ者ル地方ニ在テハ支廳長ノ管轄區ニ該當ス）

第十二條　本條例中聯隊區司令官ノ職務ハ警備隊區ニ在テハ警備隊司令官又ハ警備隊區司令官、郡長ノ職務ハ島司ヲ置キタル島嶼ニ在テハ島司、島司又ハ郡長ヲ置カサル島嶼ニ在テハ島司又ハ郡長ニ準スヘキ者、北海道ノ區制ヲ施行セサル地方ニ在テハ支廳長、郡長及町村長ノ職務ハ市（東京市京都市大阪市及北海道沖繩縣ノ市ニ在テハ區長）ニ在テハ市長、北海道及沖繩縣ノ區ニ在テハ區長、島司郡長又ハ之ニ準スヘキ者ヲ置カサル島嶼ニ在テハ町村長ニ準スヘキ者、町村長ノ職務ハ町村制ヲ施行セサル地方ニ在テハ町村長ニ準スヘキ者之ヲ行フ

第十三條　島嶼ニ於テ本條例中ノ規定ヲ實施スルコト能ハサルトキハ師團長適宜ノ方法ヲ設クルコトヲ得

第十四條　動員ニ方リ休職停職ノ將校同相當官准士官ヲ就職セシメ及十二月一日以後ニ於テ未タ入營セサル現役兵ヲ徵集スルニハ充員召集ノ方法ニ依ル

第二章　充員召集

第一款　通則

第十五條　充員召集トハ動員ニ方リ諸部隊ノ要員ヲ充足スル爲在鄉軍人ヲ召集スルヲ謂フ

第十六條　充員召集事務ニ關シ職責アル者ハ平時之ニ關スル諸件ヲ計畫準備シ召集實施ニ方リ其ノ事務ニ關シ訓示ヲ請フコトヲ許サス

第二款　充員召集準備

第十七條　師團長ハ召集要員ヲ定メテ各聯隊區ニ配當ス聯隊區司令官ハ之ニ基キ各郡ノ充員召集名簿待命員名簿及充員召集令狀ヲ作リ之ヲ郡長ニ送付スヘシ

第十八條　地方長官（東京府ニ在テハ警視總監）ハ召集實施ニ方リ應召員ノ宿泊ニ供スル爲軍用旅舍ヲ定メ其ノ他召集ヲ容易ナラシムル措置ヲ爲スヘシ

第三款　充員召集實施

第十九條　充員召集ハ動員令ニ依リ之ヲ實施ス

第二十條　師團長ハ動員令ヲ聯隊區司令官ニ達シ警視總監地方長官及憲兵隊長ニ通知スヘシ

第二十一條　聯隊區司令官ハ動員令ノ達ヲ受ケタルトキハ之ヲ郡長ニ達スヘシ

第二十二條　地方長官（東京府ニ在テハ警視總監）ハ動員令ノ通知ヲ受ケタルトキハ之ヲ警察署長（警察分署長ヲ包含ス以下同シ）ニ達シ東京市京都市及大阪市ニ在テハ地方長官之ヲ市長ニ達スヘシ

憲兵隊長ハ動員令ノ通知ヲ受ケタルトキハ之ヲ憲兵分隊長ニ達スヘシ

第二十三條　郡長ハ動員令ノ達ヲ受ケタルトキハ充員召集令狀ヲ町村長ニ送付スヘシ但シ演習召集教育召集中ノ者ノ令狀ハ之ヲ送付セサルモノトス

第二十四條　町村長ハ令狀ヲ受ケタルトキハ之ヲ應召員又ハ召集通報人（休職停職者ニ軍衙ノ命令ヲ通報スヘキ者ヲ包含ス）

以下同シ ニ交付シ召集通報人ヲ設ケサル不在者ニ在テハ其ノ戸主ニ交付シ受領證ヲ受取ルヘシ

前項ノ場合ニ於テ戸主不在ナルトキハ其ノ家族中家事ヲ擔當スル者ニ令狀ヲ交付シ受領證ヲ受取ルヘシ

召集通報人不在ナルトキハ前二項ニ依ル

第二十五條　應召員ニ代リ令狀ヲ受ケタル者ハ直ニ確實迅速ナル方法ヲ以テ召集部隊到著地及到著日時ヲ本人ニ通報本人ノ所在地ト到著地ト遠隔スル爲到著ヲ遲延スルノ虞アル場合其ノ他必要ノ場合ニ於テハ電信ヲ以テシ其ノ令狀ヲ速ニ交付スルノ處置ヲ爲スヘシ

第二十六條　應召員ハ令狀又ハ召集ノ通報ヲ受ケタルトキハ令狀ヲ携ヘ指定ノ日時ニ到著地ニ到著シ召集事務所ニ屆出ツヘシ但シ通報ヲ受ケタル者ニシテ令狀ノ交付ヲ受クル爲到著ヲ遲延スルノ虞アル場合ニ於テハ令狀ヲ携フルヲ要セス

召集ノ通報ヲ受ケタル應召員ニシテ指定ノ日時ニ到著スルコト能ハサル者ハ所在地ノ憲兵又ハ警察官吏ニ就キ其ノ通報ヲ受ケタル日時及出發日時ノ證明書ヲ受ケ到著ノ上召集事務所ニ屆出ツヘシ

前項ノ場合ニ於テ集合場ニ到著スヘキ者ハ直ニ召集部隊ニ到著スヘシ

第二十七條　應召員ニシテ動員ニ方リ演習召集又ハ教育召集中ノ者アルトキハ部隊長其ノ召集ヲ解除シ其ノ部隊ノ充員召集ニ應スヘキ者ハ直ニ之ヲ當該部隊ニ編入シ他ノ部隊ノ充員召集ニ應スヘキ者ニハ聯隊區司令官ヨリ受ケタル令狀ヲ交付スヘシ

第二十八條　應召員中令狀又ハ通報受領ノ際傷痍疾病ノ爲應召スルコト能ハサル者ハ令狀又ハ通報受領後二十四時間以內ニ聯隊區司令官ニ宛タル屆書ニ醫師ノ診斷證書及令狀ヲ添ヘ之ヲ本籍地町村長ニ差出スヘシ但シ寄留又ハ旅行先ヨリ屆出ツル者ハ本籍地町村長ニ宛發送スヘシ

令狀又ハ通報受領後出發迄ノ間ニ於テ傷痍疾病ノ爲應召スルコト能ハサルニ至リタル者ハ直ニ前項ノ手續ヲ爲スヘシ

犯罪所在不明等ノ爲應召スルコト能ハサル者アルトキ又ハ其ノ虞アルトキハ令狀ヲ受領シタル者ヨリ令狀受領後二十四時間以內ニ聯隊區司令官ニ宛タル屆書ニ憲兵又ハ警察官吏ノ證明書及令狀ヲ添ヘ之ヲ本籍地町村長ニ差出スヘシ

第一項第二項ノ手續ヲ爲スニ方リ未タ令狀ヲ受領セサル者ハ受領後別ニ之ヲ差出スヘシ

第二十九條　前條ノ場合ニ於テ應召スルコト能ハサル者其ノ事故止ミタルトキハ直ニ本籍地町村長ニ屆出テ指揮ヲ受クヘシ

町村長ハ前項ノ屆出ヲ受ケタルトキハ聯隊區司令官ノ指定ニ基キ本人ニ出發ヲ命シ又ハ出發ヲ差止ムヘシ

前項ニ依リ出發スル者集合場ニ到著スヘキ者ナルトキハ直ニ召集部隊ニ到著スヘシ

第三十條　應召員ハ途中ニ於テ傷痍疾病ニ罹リ到著ヲ遲延スルノ虞アルトキハ直ニ醫師ノ診斷證書ヲ添ヘ召集部隊長ニ屆出テ出發スルコトヲ得ルニ至リタルトキハ速ニ到著ノ上召集事務所ニ屆出ツヘシ

傷痍疾病ノ外止ムヲ得サル事故ニ因リ到著ヲ遲延スルノ虞アルトキハ其ノ地ノ郡長町村長憲兵警察官吏船長又ハ驛長ノ證明書ヲ受ケ到著ノ上召集事務所ニ屆出ツヘシ

前二項ノ場合ニ於テ集合場ニ到著スヘキ者ハ直ニ召集部隊ニ到著スヘシ

第三十一條　應召員ハ非常事變ニ因リ交通斷絕シタル爲到著地ニ到著スルコト能ハサル場合ニ於

テハ其ノ旨ヲ最寄諸部團隊（諸部團隊無キ地ニ在テハ郡長町村長警察官吏又ハ警察官吏）ニ屆出ツヘシ

前項ノ屆出ヲ受ケタル者ハ適宜ノ處置ヲ爲シ本人ヲシテ到著地ニ到著セシメ得ルニ至レハ證明書ヲ與ヘ出發セシムヘシ但シ集合場ニ到著スヘキ者ニ在テハ直ニ召集部隊ニ到著セシムヘシ

第三十二條　應召員中事故ニ因リ歸鄉ヲ命セラレタル者ハ陸軍服役條例第八條第二十九條第八十條第百十八條第百三十七條ノ例ニ依リ屆出ツヘシ補充兵ニ在テハ同條例第百三十七條ノ例ニ依リ屆出ツヘシ其ノ召集ニ應スル以前ノ寄留地ニ歸ル者ノ本籍地聯隊區司令官ニ差出スヘキ屆書ニハ寄留地町村長ノ證明ヲ受クヘシ

第四款　充員召集ノ解除

第三十三條　充員召集ノ解除ハ復員令ニ依リ之ヲ實施ス

第三十四條　復員令ノ達及通知ニハ第二十條乃至第二十二條ヲ準用ス

第三十五條　郡長ハ復員令ノ達ヲ受ケタルトキハ之ヲ町村長ニ達スヘシ

第三十六條　召集解除ヲ命セラレタル者ニハ第三十二條ヲ準用ス

第三章　補充召集

第三十七條　補充召集トハ充員召集實施後帙員ヲ補充スル爲在鄉軍人ヲ召集スルヲ謂フ

第三十八條　師團長ハ補充召集令ヲ聯隊區司令官ニ達シ警視總監地方長官及憲兵隊長ニ通知スヘシ

第三十九條　聯隊區司令官ハ前條ノ達ヲ受ケタルトキハ直ニ補充召集令狀ヲ作リ之ヲ郡長ニ送付スヘシ

第四十條　郡長ハ令狀ヲ受ケタルトキハ之ヲ町村長ニ送付スヘシ

第四十一條　補充召集ニ關シテハ第十六條第二十四條乃至第三十一條及第三十三條ヲ準用ス

應召員中事故ニ因リ歸鄉ヲ命セラレタル者及召集解除ヲ命セラレタル者ニハ第三十二條ヲ準用ス

第四章　國民兵召集

第四十二條　國民兵召集トハ國民軍ヲ動員スル爲國民兵ヲ召集スルヲ謂フ

國民兵召集ヲ分テ第一國民兵召集第二國民兵召集ノ二種トス

第四十三條　町村長ハ其ノ管內ニ在籍スル國民兵ノ人員表及退役將校同相當官准士官ノ名簿ヲ作リ之ヲ郡長ニ差出スヘシ

第四十四條　郡長ハ前條ノ人員表及名簿ヲ受ケタルトキハ其ノ管內ニ在籍スル國民兵ノ人員表及退役將校同相當官准士官ノ名簿ヲ作リ之ヲ警視總監地方長官及聯隊區司令官ニ差出スヘシ

第四十五條　師團長ハ國民兵ヲ召集スルニハ召集スヘキ國民兵ノ種類年齡集合場其ノ他必要ノ事項ヲ聯隊區司令官ニ達シ其ノ種類年齡及集合場ヲ警視總監地方長官及憲兵隊長ニ通知スヘシ

第四十六條　聯隊區司令官ハ國民兵召集令ノ達ヲ受ケタルトキハ召集スヘキ國民兵ノ種類年齡集合場及集合場到著日時ヲ郡長ニ達スヘシ

第四十七條　國民兵召集ニ關シテハ第二十二條ヲ準用ス

第四十八條　郡長ハ國民兵召集令ノ達ヲ受ケタルトキハ之ヲ町村長ニ達シ應召員到著日時前ニ吏員ヲ集合場ニ派遣スヘシ

第四十九條　町村長ハ國民兵召集令ノ達ヲ受ケタルトキハ直ニ應召員ニ其ノ官ヲ達シ指定ノ日時迄ニ之ヲ集合場ニ引率シ聯隊區司令官又ハ聯隊區司令部ノ職員ニ交付スヘシ但シ將校同相當官

准士官ハ直ニ集合場ニ到著スヘシ

第五十條　聯隊區司令官又ハ聯隊區司令部ノ職員ハ集合場ニ於テ應召員ノ身體檢査ヲ行ヒ召集ニ適セサル者ハ歸鄉セシムヘシ

集合場ニ在ル郡ノ吏員ハ聯隊區司令官又ハ聯隊區司令部ノ職員ノ要求ニ應シ其ノ事務ヲ補助スヘシ

第五章　演習召集

第五十一條　演習召集トハ演習ノ爲在鄉軍人（第二補充兵ヲ除ク）ヲ召集スルヲ謂フ

演習召集ヲ分テ定期演習召集臨時演習召集ノ二種トス

第五十二條　臨時演習召集ハ本章ノ規定ニ依ラス臨時規定スルモノヲ除ク外第二章第三款及第四款ヲ準用ス

第五十三條　演習召集ハ本籍所在ノ師管ニ於テス但シ其ノ師管ニ於テ演習ヲ爲スヘキ部隊無キ者ハ他ノ師管ニ於テス

近衞師團ニハ第一師管外ニ在籍スル者ヲ召集スルコトアルヘシ

第五十四條　寄留地ニ於テ演習召集ニ應スヘキ許可ヲ受ケタル者ハ寄留地所管ノ師團長之ヲ召集ス

第五十五條　一年志願兵終末試驗及第證書ヲ所持スル者ヲ士官ニ任スル爲行フ演習召集ニ關シテハ陸軍補充條例ニ依ルノ外仍本章ノ規定ニ依ル

第五十六條　師團長ハ演習召集ノ日時人員日數及部隊ヲ定メ之ヲ聯隊區司令官ニ達シ警視總監地方長官及憲兵隊長ニ通知スヘシ

前項ノ召集日數ハ演習ノ成績ニ依リ之ヲ增加スルコトアルヘシ

第五十七條　聯隊區司令官ハ前條ノ達ヲ受ケタルトキハ演習召集令狀ヲ作リ之ヲ郡長ニ送付スヘシ

第五十八條　應召員中傷痍疾病犯罪所在不明等ノ爲應召スルコト能ハサル者ハ應召員又ハ之ニ代リ令狀ヲ受ケタル者ヨリ到著日時迄ニ聯隊區司令官ニ宛タル屆書及其ノ令狀ヲ本籍地町村長（寄留地ニ於テ召集ニ應スヘキ許可ヲ受ケタル者ニ在テハ寄留地町村長）ニ差出スヘシ但シ傷痍疾病ニ係ルトキハ醫師ノ診斷證書犯罪所在不明等ニ係ルトキハ憲兵又ハ警察官吏ノ證明書ヲ添フヘシ

前項ノ手續ヲ爲スニ方リ未タ令狀ヲ受領セサル者ハ受領後別ニ之ヲ差出スヘシ

第五十九條　應召員中父母ノ疾病危篤又ハ死亡ノ爲召集ノ延期ヲ願ハントスル者ハ將校同相當官准士官ニ在テハ師團長下士兵卒及補充兵ニ在テハ聯隊區司令官ニ宛タル願書ヲ本籍地町村長（寄留地ニ於テ召集ニ應スヘキ許可ヲ受ケタル者ニ在テハ寄留地町村長）ニ差出スヘシ但シ父母ノ疾病危篤ノ者ハ醫師ノ診斷證書ヲ添フヘシ

第六十條　第五十八條ノ場合ニ於テ應召スルコト能ハサル者其ノ事故止ミタルトキハ直ニ本籍地町村長（寄留地ニ於テ召集ニ應スヘキ者ニ在テハ寄留地町村長）ニ屆出テ指揮ヲ受クヘシ

町村長ハ前項ノ屆出ヲ受ケタルトキハ聯隊區司令官ノ指定ニ基キ本人ニ出發ヲ命シ又ハ出發ヲ差止ムヘシ

第六十一條　演習召集ニ關シテハ第二十四條第二十五條第二十六條第一項第二項第三十條第一項第二項及第四十條ヲ準用ス

應召員中事故ニ因リ歸鄉ヲ命セラレタル者及召集解除ヲ命セラレタル者ニハ第三十二條ヲ準用

ス

第六章　教育召集

第六十二條　教育召集トハ教育ノ爲第一補充兵ヲ召集スルヲ謂フ

第六十三條　聯隊區司令官ハ教育召集ノ達ヲ受ケタルトキハ教育召集令狀ヲ作リ之ヲ郡長ニ送付スヘシ

第六十四條　教育召集ニ關シテハ第二十四條第二十五條第二十六條第一項第二項第三十條第一項第二項第四十條第五十三條第五十四條第五十六條及第五十八條乃至第六十條ヲ準用ス

應召員中事故ニ因リ歸鄉ヲ命セラレタル者又ハ召集解除ヲ命セラレタル者ニハ第三十二條ヲ準用ス

第七章　補缺召集

第六十五條　補缺召集トハ平時ニ於テ臨時ニ兵員ノ補缺ヲ要スルトキ歸休兵ヲ召集スルヲ謂フ

第六十六條　補缺召集ハ陸軍大臣ノ認可ヲ得テ師團長之ヲ行フ

第六十七條　聯隊區司令官ハ補缺召集ノ達ヲ受ケタルトキハ補缺召集令狀ヲ作リ之ヲ郡長ニ送付スヘシ

第六十八條　補缺召集ニ關シテハ第二十四條第二十五條第二十六條第一項第二項第三十條第一項第二項第四十條第五十六條第一項第五十八條乃至第六十條ヲ準用ス

第八章　簡閲點呼

第六十九條　簡閲點呼トハ豫備役後備役下士兵卒歸休兵及第一補充兵ヲ集合シテ之ヲ點檢査閲スルヲ謂フ

第七十條　師團長ハ簡閲點呼ノ時期ヲ定メ之ヲ聯隊區司令官ニ達スヘシ

第七十一條　師團長ハ部下ノ佐官又ハ尉官ニ簡閲點呼執行官ヲ命シ之ニ必要ナル訓示ヲ授クヘシ

簡閲點呼ハ參會スヘキ者僅少ナル僻陬ノ地ニ在テハ之ヲ省略スルコトヲ得

第七十二條　聯隊區司令官ハ第七十條ノ達ヲ受ケタルトキハ點呼場點呼區域及點呼日割ヲ定メ之ヲ師團長ニ差出シ警視總監地方長官憲兵隊長簡閲點呼執行官及郡長ニ通知スヘシ

第七十三條　地方長官（東京府ニ在テハ警視總監）及郡長ハ前條ノ通知ヲ受ケタルトキハ地方長官（東京府ニ在テハ警視總監）ハ之ヲ警察署長郡長ハ之ヲ町村長ニ達スヘシ

憲兵隊長ハ前條ノ通知ヲ受ケタルトキハ之ヲ憲兵分隊長ニ達スヘシ

第七十四條　聯隊區司令官ハ點呼令狀ヲ作リ之ヲ郡長ニ送付スヘシ

第七十五條　簡閲點呼ニ關シテハ第二十四條第二十五條及第四十條ヲ準用ス

第七十六條　令狀又ハ參會ノ通報ヲ受ケタル者ハ指定ノ日時ニ點呼場ニ到著シ簡閲點呼執行官ニ居出ツヘシ

第七十七條　町村長ハ簡閲點呼ニ參列シ簡閲點呼執行官ノ要求ニ應シ其ノ事務ヲ補助スヘシ又必要アルトキハ點呼參會者ニ訓示ヲ與フルコトヲ得

第七十八條　令狀又ハ參會ノ通報ヲ受ケタル者ニシテ傷痍疾病犯罪所在不明等ノ爲參會スルコトヲ能ハサル者ハ本人又ハ本人ニ代リ令狀ヲ受ケタル者ヨリ參會日時迄ニ簡閲點呼執行官ニ宛タル居書及其ノ令狀ヲ本籍地町村長（寄留地ニ於テ簡閲點呼ニ參會スヘキ許可ヲ受ケタル者ニ在テハ寄留地町村長）ニ差出スヘシ但シ傷痍疾病ニ係ルトキハ醫師ノ診斷證書、犯罪所在不明等ニ係ルトキハ憲兵又ハ警察官吏ノ證明書ヲ添

ス

第六章　敎育召集

第六十二條　敎育召集トハ敎育ノ爲第一補充兵ヲ召集スルヲ謂フ

第六十三條　聯隊區司令官ハ敎育召集ノ達ヲ受ケタルトキハ敎育召集令狀ヲ作リ之ヲ郡長ニ送付スヘシ

第六十四條　敎育召集ニ關シテハ第二十四條第二十五條第二十六條第一項第二項第三十條第一項第二項第四十條第五十三條第五十四條第五十六條及第五十八條乃至第六十條ヲ準用ス

應召員中事故ニ因リ歸鄉ヲ命セラレタル者又ハ召集解除ヲ命セラレタル者ニハ第三十二條ヲ準用ス

第七章　補缺召集

第六十五條　補缺召集トハ平時ニ於テ臨時ニ兵員ノ補缺ヲ要スルトキ歸休兵ヲ召集スルヲ謂フ

第六十六條　補缺召集ハ陸軍大臣ノ認可ヲ得テ師團長之ヲ行フ

第六十七條　聯隊區司令官ハ補缺召集ノ達ヲ受ケタルトキハ補缺召集令狀ヲ作リ之ヲ郡長ニ送付スヘシ

第六十八條　補缺召集ニ關シテハ第二十四條第二十五條第二十六條第一項第二項第三十條第一項第二項第四十條第五十六條第一項第五十八條乃至第六十條ヲ準用ス

第八章　簡閲點呼

第六十九條　簡閲點呼トハ豫備役後備役下士兵卒歸休兵及第一補充兵ヲ集合シテ之ヲ點檢査閲スルヲ謂フ

第七十條　師團長ハ簡閲點呼ノ時期ヲ定メ之ヲ聯隊區司令官ニ達スヘシ

第七十一條　師團長ハ部下ノ佐官又ハ尉官ニ簡閲點呼執行官ヲ命シ之ニ必要ナル訓示ヲ授クヘシ

簡閲點呼ハ參會スヘキ者僅少ナル僻陬ノ地ニ在テハ之ヲ省略スルコトヲ得

第七十二條　聯隊區司令官ハ第七十條ノ達ヲ受ケタルトキハ點呼場點呼區域及點呼日割ヲ定メ之ヲ師團長ニ差出シ警視總監地方長官憲兵隊長簡閲點呼執行官及郡長ニ通知スヘシ

第七十三條　地方長官（東京府ニ在テハ警視總監）及郡長ハ前條ノ通知ヲ受ケタルトキハ地方長官（東京府ニ在テハ警視總監）ハ之ヲ警察署長、郡長ハ之ヲ町村長ニ達スヘシ

憲兵隊長ハ前條ノ通知ヲ受ケタルトキハ之ヲ憲兵分隊長ニ達スヘシ

第七十四條　聯隊區司令官ハ點呼令狀ヲ作リ之ヲ郡長ニ送付スヘシ

第七十五條　簡閲點呼ニ關シテハ第二十四條第二十五條及第四十條ヲ準用ス

第七十六條　令狀又ハ參會ノ通報ヲ受ケタル者ハ指定ノ日時ニ點呼場ニ到著シ簡閲點呼執行官ニ屆出ツヘシ

第七十七條　町村長ハ簡閲點呼ニ參列シ簡閲點呼執行官ノ要求ニ應シ其ノ事務ヲ補助スヘシ又必要アルトキハ點呼參會者ニ訓示ヲ與フルコトヲ得

第七十八條　令狀又ハ參會ノ通報ヲ受ケタル者ニシテ傷痍疾病犯罪所在不明等ノ爲參會スルコトヲ能ハサル者ハ本人又ハ本人ニ代リ令狀ヲ受ケタル者ヨリ參會日時迄ニ簡閲點呼執行官ニ宛タル屆書及其ノ令狀ヲ本籍地町村長（寄留地ニ於テ簡閲點呼ニ參會スヘキ許可ヲ受ケタル者ニ在テハ寄留地町村長）ニ差出スヘシ但シ傷痍疾病ニ係ルトキハ醫師ノ診斷證書、犯罪所在不明等ニ係ルトキハ憲兵又ハ警察官吏ノ證明書ヲ添

フベシ

第七十九條　簡閲點呼執行官ハ遲參ノ爲簡閲點呼ヲ終ラサル者ニハ他ノ點呼場ヲ指定シテ參會ヲ命スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ令狀ヲ作リ之ヲ交付シ受領證ヲ受取ルヘシ

第九章　罰則

第八十條　正當ノ事由無クシテ第二十五條ノ規定及之ヲ準用シタル規定ニ違背シタル者竝簡閲點呼參會者ニシテ點呼場ニ於テ簡閲點呼執行官ノ命ニ服セス又ハ其ノ職務ノ執行ヲ妨害シタル者ハ一日以上十日以下ノ拘留ニ處ス

第八十一條　正當ノ事由無クシテ第二十六條第二項第二十八條第一項乃至第三項第二十九條第一項第三十條第一項第二項第三十一條第一項第五十八條第一項第六十條第一項第七十八條ノ規定及之ヲ準用シタル規定ニ違背シタル者竝正當ノ事由無クシテ簡閲點呼ニ參會セサル者ハ五十錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處シ又ハ五日以上十日以下ノ拘留ニ處ス

第八十二條　正當ノ事由無クシテ第三十二條ノ規定及之ヲ準用シタル規定ニ違背シタル者ハ五錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

附則

第八十三條　臺灣ニ於テ演習召集教育召集及簡閲點呼ヲ行フニ際シテハ陸軍大臣適宜其ノ方法ヲ規定スルコトヲ得

第八十四條　豫備役後備役屯田兵下士卒ノ召集事務ニ關シ郡長及町村長ノ職務ハ屯田兵村監視之ヲ行フ

第八十五條　士官適任證書所持者ヲ士官ニ任スル爲行フ演習召集ニ關シテハ第五十五條ヲ準用ス

第八十六條　當分ノ内第七師團ニ於テハ演習ノ爲他ノ師管在籍ノ者ヲ召集スルコトヲ得

第八十七條　本條例ハ明治三十二年十月二十日ヨリ施行ス但シ師團長ハ七箇月以内一部ノ施行ヲ延期シ舊令ニ依ルコトヲ得

○

朕陸軍看護卒服制ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十二年十月七日

陸軍大臣子爵桂　太郎

勅令第三百九十九號（官報十月九日）

陸軍看護卒ノ服制ハ陸軍看護手ノ服制ニ同シ但シ袖章ヲ附セス又第一種帽ヲ著用セシメス

○

朕臺灣總督府警察官及司獄官練習所ニ巡査及看守ヲ置クヲ得ルノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十二年十月九日

内閣總理大臣侯爵山縣有朋

内務大臣侯爵西鄕從道

勅令第四百號（官報十月十日）

臺灣總督府警察官及司獄官練習所練習生ニ充ツル爲臺灣總督府ニ巡査及看守ヲ置クコトヲ得

本令ハ發布ノ日ヨリ施行ス

○

朕臺灣總督府警察官及司獄官練習所練習生ノ俸給ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十二年十月九日

内閣總理大臣侯爵山縣有朋
内務大臣侯爵西鄕從道

勅令第四百一號（官報十月十日）

臺灣總督府警察官及司獄官練習所練習生ニシテ縣廳ノ巡査看守タル者ニハ明治三十年勅令第百四十九號巡査看守俸給令第五條ノ規定ニ拘ラス各其ノ本俸ヲ支給シ臺灣總督府巡査看守タル者ニハ俸給ヲ支給セス其ノ給與ハ明治三十一年勅令第百十八號ヲ準用ス

〔參照〕
明治三十一年六月二十日官報　勅令第百十八號ハ現官現職者ニアラサル臺灣總督府警察官及司獄官總習所練習生ニ手當金及旅費支給ノ件ナリ

○

朕警察賞與規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十二年十月九日

内務大臣侯爵西鄕從道

勅令第四百二號（官報十月十日）

警察賞與規則

第一條　警察賞與ハ内務大臣ノ定ムル規程ニ從ヒ警察上特ニ功勞アリト認ムル者ニ對シテ行フヘキモノトス

第二條　府縣警察費ヨリ給與ヲ受クル巡査其ノ他ノ吏員ニ行フヘキ賞與ニ要スル費用ハ其ノ府縣警察費ヲ以テ支辨シ其ノ他ノ賞與ニ要スル費用ハ國庫ノ負擔トシ賞與ヲ行フ廳府縣ニ屬スル經費ヲ以テ支辨スヘシ

第三條　本令ハ明治三十二年十月十五日ヨリ施行ス

○

朕明治三十二年六月一日希臘國雅典ニ於テ朕カ全權委員ト希臘國全權委員ノ記名調印シタル修好通商航海條約ヲ批准シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十二年十月十一日（官報十月十二日）

内閣總理大臣侯爵山縣有朋
外務大臣子爵青木周藏

日本國皇帝陛下及希臘國皇帝陛下ハ兩國間竝ニ其ノ臣民間ノ友好通商ノ關係ヲ永久堅固ノ基礎ニ置クコトヲ欲シ修好通商航海條約ヲ締結スルコトニ決シ之カ爲ニ日本國皇帝陛下ハ特命全權公使

從四位勳三等牧野伸顯ヲ希臘國皇帝陛下ハ外務大臣セイウヨール勳章ノ「ナイト」アトス、ローマノスヲ其ノ全權委員ニ任命セリ因テ各全權委員ハ互ニ其ノ委任狀ヲ示シ其ノ良好妥當ナルヲ認メ以テ左ノ諸條ヲ協議決定セリ

第一條

日本帝國ト希臘王國トノ間竝ニ兩國臣民ノ間ニ永久堅固ノ和親アルヘシ

第二條

日本國皇帝陛下ハ適宜ニ其ノ外交官ヲ希臘國ニ駐箚セシムルコトヲ得希臘國皇帝陛下モ亦適宜ニ其ノ外交官ヲ日本國ニ駐箚セシムルコトヲ得ヘシ又兩締盟國ノ一方ハ他ノ一方ノ領土及所屬地ニ於テ最惠國領事官ノ駐在ヲ許シタル各港、各地ニ總領事、領事、副領事若ハ代辨領事ヲ駐在セシムルノ權利ヲ有スヘシ但シ總領事、領事、副領事若ハ代辨領事ハ其ノ職務ヲ執行スルニ先チ常式ニ從ヒ其ノ任國政府ノ認可ヲ經ヘシ

兩締盟國ノ一方ノ外交官及領事官ハ本條約ノ規定ニ從ヒ他ノ一方ノ領土及所屬地ニ於テ最惠國ノ同格ノ外交官及領事官ニ現ニ許與シ或ハ許與セラルヘキ一切ノ權利、特典、特權及免除ヲ享有スヘシ

第三條

兩締盟國ノ領土及所屬地ノ間ニハ相互ニ通商及航海ノ自由アルヘシ兩締盟國ノ一方ノ臣民ハ他ノ一方ノ領土及所屬地內ノ各地、諸港及諸河ニシテ最惠國臣民或ハ人民ノ到來ヲ許ス場所ヘハ其ノ船舶及貨物ヲ以テ自由ニ且安全ニ到來スルノ權利ヲ有スヘシ又該臣民ハ最惠國臣民或ハ人民ノ在留、居住ヲ許ス各地、諸港ニ在留、居住シ且其ノ地ニ於テ家屋、倉庫ヲ借受ケ、使用シ、總テ正業ニ屬スル各種ノ生產物、製造品及商品ノ卸賣若ハ小賣營業ニ從事スルコトヲ得ヘシ

諸種ノ財產ヲ得有、使用及讓與スルコトニ關シ兩締盟國ノ一方ノ臣民ハ他ノ一方ノ領土及所屬地ニ於テ最惠國臣民或ハ人民ト同一ノ取扱ヲ享クヘシ

第四條

兩締盟國ハ其ノ一方ノ通商及航海ヲ他ノ一方ニ於テ總テ最惠國ノ基礎ニ置クノ主意ヲ有スルニ因リ旅行、居住、通商及航海ニ關スル一切ノ事項ニ關シ其ノ一方ヨリ別國ノ政府、船舶、臣民或ハ人民ニ現ニ許與シ或ハ將來許與スヘキ一切ノ特典、殊遇若ハ免除ハ他ノ一方ノ政府、船舶、臣民或ハ人民ニモ即時ニ且條件ヲ附セスシテ之ヲ許與スヘキコトヲ兩締盟國ニ於テ約定ス

第五條

希臘國ノ生產或ハ製造ニ係ル物品ヲ日本國ニ輸入シ又日本國ノ生產或ハ製造ニ係ル物品ヲ希臘國ニ輸入スルニモ總テ別國ノ生產或ハ製造ニ係ル同種ノ物品ニシテ同樣ノ目的ヲ以テ輸入スルモノニ對シ課スル處ノ稅ニ異ナルカ或ハ之ヨリ多額ノ稅ヲ課セラルルコトナカルヘシ

兩締盟國ノ一方ノ領土若ハ所屬地ヘ輸出スル一切ノ物品ヘハ別國ヘ輸出スル同種物品ニ對シ賦課シ若ハ賦課スヘキ所ニ異ナルカ或ハ之ヨリ多額ノ稅金又ハ雜費ヲ賦課スルコトナカルヘシ又兩締盟國ノ一方ノ領土若ハ所屬地ヘ別國ノ生產或ハ製造ニ係ル同種ノ物品ノ輸入ヲ禁止スルニ非サレハ他ノ一方ノ領土若ハ所屬地ノ生產若ハ製造ニ係ル物品ヲ輸入スルコトヲ禁止スルコトナカルヘシ

又兩締盟國ノ一方ノ領土若ハ所屬地ニ於テ總テ別國ニ向ヒ同種ノ物品ノ輸出ヲ禁止スルニ非サレハ他ノ一方ノ領土若ハ所屬地ヘ物品ヲ輸出スルコトヲモ禁止セサルヘシ

第六條

內地通過、倉入、奬勵金、便益及稅金拂戻ニ關スル一切ノ事項ニ就テハ兩締盟國ノ一方ノ臣民ハ他ノ一方ノ領土及所屬地ニ在リテ總テ最惠國ノ取扱ヲ享クヘシ

第七條

政府、官吏、公吏、一私人、會社若ハ何等施設ノ名義ヲ以テスルカ又ハ其ノ利益ノ爲ニ課セラルル所ノ噸稅、燈臺稅、港稅、水先案內料、檢疫費、難船救助料其ノ他之ト同種ノ稅金及雜費ハ其ノ性質又ハ名義ノ如何ニ拘ハラス希臘國ノ船舶ハ日本國諸港ニ於テ又日本國ノ船舶ハ希臘國諸港ニ於テ同樣ノ場合ニ同一ノ港ニ於テ最惠國船舶ニ賦課シ若ハ將來賦課スヘキモノニ異ナルカ或ハ之ヨリ多額ノモノヲ課セラルルコトナカルヘシ

第八條

兩締盟國ノ沿海貿易ハ本條約ニ於テ規定スルノ限ニ在ラス各其ノ法律、勅令及規則ヲ以テ之ヲ規定スヘキモノトス

第九條

本條約ニ於テハ日本國ノ國法ニ從ヒ日本國船舶ト看做サル可キ一切ノ船舶ハ之ヲ日本國船舶ト見認メ又希臘國ノ國法ニ從ヒ希臘國船舶ト看做サルヘキ一切ノ船舶ハ之ヲ希臘國船舶ト見認ムヘシ

第十條

兩締盟國ノ一方ノ軍艦或ハ商船ニシテ暴風又ハ其ノ他ノ危難ニ遭遇シ避難ノ爲メ已ムヲ得ス他ノ一方ノ海港ニ進入スルモノハ內國船舶ノ拂フヘキ稅金ノ外何等ノ稅金ヲ拂フコトナク其ノ港ニ於テ更ニ艤裝ヲ爲シ一切ノ需要品ヲ求メ再ヒ航行スルヲ得ヘシ但シ商船ノ船長ニシテ其ノ費用ヲ支辨スル爲メ其ノ積荷ノ一部ヲ賣却スルヲ要スル場合ニハ該船長ハ其ノ寄港地ノ規則及稅目ヲ遵守スヘキモノトス

兩締盟國ノ一方ノ軍艦或ハ商船ニシテ他ノ一方ノ沿岸ニ於テ淺瀨ニ乘上ケ或ハ難破シタルトキハ右難破若ハ乘上ケタル船舶竝ニ其ノ器具及其ノ他一切ノ附屬品及該船舶ヨリ救上ケタル貨物竝ニ商品及右等ノ諸物件ニシテ海中ニ投棄セラレタルモノ又ハ之ヲ賣却シタルトキハ其ノ收得金竝ニ該遭難船內ニ發見セラレタル一切ノ書類ハ右船舶ノ持主或ハ其ノ代理人ヨリ要求スルトキハ之ニ引渡スヘシ右持主或ハ代理人ノ現場ニ在ラサルトキハ內國法律ニ定メタル期限內ニ當該總領事、領事、副領事或ハ代辨領事ヨリ請求アレハ之ヲ引渡スヘシ而シテ右領事官、持主或ハ代理人ハ內國船舶難破ノ場合ニ於テ拂フヘキ所ノ物品保存費竝ニ難破救助費及其ノ他ノ費用ノミヲ拂フヘキモノトス

難破船ヨリ救上ケタル貨物及商品ハ消費ノ爲ニ通關手續ヲ爲スモノニ非サレハ一切ノ關稅ヲ免除スヘシ但シ消費ノ爲ニ之ヲ賣捌ク場合ニハ普通ノ關稅ヲ納ムヘキモノトス

兩締盟國ノ一方ノ臣民ニ屬スル船舶ニシテ他ノ一方ノ版圖內ニ於テ淺瀨ニ乘上ケ或ハ難破シタルトキ其ノ持主、船長若ハ持主代理人不在ノ場合ニハ當該總領事、領事、副領事若ハ代辨領事ハ其ノ自國臣民ニ必要ノ輔助ヲ與フル爲メ職權上ノ助力ヲ爲スヲ許サルヘキモノトス此ノ規定ハ持主、船長若ハ他ノ代理人現ニ其ノ場ニ在ルトキト雖モ右樣ノ輔助ヲ與フルヲ請求スル場合ニハ亦適用スヘキモノトス

第十一條

日本國若ハ其ノ領海ニ到來スル希臘國臣民及船舶ハ其ノ日本國若ハ其ノ領海ニ在ル間ハ日本國法

律及日本國ノ裁判管轄權ニ服從スヘシ又之ト均シク希臘國若ハ其ノ領海ニ到來スル日本國臣民及船舶ハ希臘國法律及其ノ裁判管轄權ニ服從スヘシ

第十二條

兩締盟國ノ一方ノ臣民ハ相互ニ他ノ一方ノ領土及所屬地ニ於テ其ノ身體及財產ニ對シ完全ナル保護ヲ享受シ、其ノ權利ヲ執行シ及防護セムカ爲メ自由ニ裁判所ニ訴出ルコトヲ得ヘク又該裁判所ニ於テ內國臣民ト同樣ニ辯護人及代理人ヲ使用スルノ自由ヲ有スヘシ

該臣民ハ其心ニ關シ完全ナル自由及現行法律、勅令及規則ニ從テ公私ノ禮拜ヲ行フノ權利竝ニ其ノ宗教上ノ慣習ニ從ヒ埋葬ノ爲メ設置保存セラルル所ノ適當便宜ノ地ニ自國人ヲ埋葬スルノ權利ヲ享有スヘシ

第十三條

兵員宿泊ノ義務、陸海軍ノ强迫兵役、軍事上ノ賦歛若ハ强募公債ニ關シテハ兩締盟國ノ一方ノ臣民ハ他ノ一方ノ領土及所屬地ニ於テ最惠國ノ臣民或ハ人民ト同樣ノ特典、免除及特權ヲ享有スヘシ

第十四條

兩締盟國ノ一方ノ臣民カ他ノ一方ノ領土及所屬地ニ於テ住居若ハ商業ノ爲ニ供スル家宅、倉庫、店舗及之ニ屬スル總テノ附屬構造物ハ侵スヘカラス

右家宅等ヘハ內國臣民ニ對シ法律、勅令及規則ヲ以テ規定セル條件及方式ニ據ルノ外一切之ニ侵入搜索シ又ハ帳簿、書類或ハ簿記帳ヲ檢査點閱スルコトナカルヘシ

第十五條

本條約ハ批准交換後直チニ實施セラルヘシ而シテ其ノ實施ノ日ヨリ十二箇年間效力ヲ有スルモノトス

兩締盟國ノ一方ハ本條約實施ノ日ヨリ十一箇年ヲ經過シタル後ハ何時タリトモ本條約ヲ終了セムト欲スル旨ヲ他ノ一方ヘ通知スルノ權利ヲ有スヘシ而シテ此ノ通知ヲ爲シタル後十二箇月ヲ經過シタルトキハ本條約ハ全ク消滅ニ歸スヘキモノトス

第十六條

本條約ハ日本文、希臘文及英吉利文各二通ニ調印スヘシ而シテ若シ日本文ト希臘文ト齟齬スル所アリタル場合ニハ英吉利文ニ依テ之ヲ決シ兩國政府ニ於テ之ニ遵依スヘキモノトス

第十七條

本條約ハ兩締盟國ニ於テ之ヲ批准シ其ノ批准ハ可成速ニ羅馬ニ於テ交換スヘシ

右證據トシテ雙方ノ全權委員ハ之ニ記名調印スルモノナリ

明治三十二年六月一日卽千八百九十九年五月二十日雅典ニ於テ六通ヲ作ル

牧野伸顯印

アローマノス印

天佑ヲ保有シ萬世一系ノ帝祚ヲ踐ミタル日本國皇帝（御名）此書ヲ見ル有衆ニ宣示ス

朕帝國ト希臘國トノ交際ヲ永久親睦ナラシメムコトヲ欲シ明治三十二年六月一日雅典ニ於テ兩國全權委員ノ記名調印シタル修好通商航海條約ノ各條目ヲ親シク閱覽點檢シタルニ善ク朕カ意ニ適シ間然スル所ナキヲ以テ右條約ヲ嘉納批准ス

神武天皇卽位紀元二千五百五十九年明治三十二年八月十六日東京宮城ニ於テ親ラ名ヲ署シ璽ヲ鈐セシム

御名國璽

○

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ開港港則中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十二年十月十三日

外務大臣子爵青木周藏　印

大藏大臣伯爵松方正義
內務大臣侯爵西鄕從道
外務大臣子爵青木周藏
遞信大臣子爵芳川顯正

勅令第四百三號（官報十月十四日）

開港港則中左ノ通改正ス

第九條ニ左ノ二項ヲ加フ

港長ハ港界內ニ於テ前項ノ場所ヲ指定シ難シト認ムルトキハ港界外ニ於テ適當ノ場所ヲ指定スルコトヲ得

前項ニ依リ指定シタル場所ハ港界內ニ在ルモノト看做ス

〔參照〕

勅令第百三十九號開港港則（明治三十一年七月八日官報）抄錄

第九條　常用ニ超過シ爆發物又ハ容易ニ燃燒スヘキ物料ヲ積載シタル一切ノ船舶ハ港界外ニ來リ其處ニテ港長ノ指揮ヲ待フヘシ斯ク指揮ヲ待ツ間右船舶ハ日出ト日沒ノ間ニハB ノ信號日沒ト日出ノ間ニハ紅燈ヲ前檣ノ頂上ニ掲クヘシ

各船舶ハ港長ノ指定シタル場所ニアラサレハ前記ノ物料ヲ積入レ又ハ荷卸スヘカラス

○

朕河川法第五條ニ依レル命令ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十二年十月十三日

內務大臣侯爵西鄕從道

勅令第四百四號（官報十月十四日）

第一條　河川法ニ規定シタル事項ヲ準用スヘキ水流若ハ水面又ハ河川ハ內務大臣ノ認可ヲ經テ府縣知事之ヲ認定ス

府縣知事前項ノ認定ヲ爲シタルトキハ之ヲ告示スヘシ

第二條　前條ノ認定ヲ受ケタル水流若ハ水面又ハ河川ニハ河川法第三條（敷地ヲ除ク）第四條第二項、第十二條、第十三條、第十六條乃至第二十三條、第三十四條、第三十八條乃至第四十三條、第四十五條乃至第四十七條、第四十九條第三項、第四項、第五十二條乃至第六十三條及之ニ基キテ發スル命令ノ規定ヲ準用ス

第三條　前條ニ掲ケタルモノノ外河川法ニ規定シタル事項ハ內務大臣又ハ府縣知事ニ於テ命令ヲ以テ第一條ノ認定ヲ受ケタル水流若ハ水面又ハ河川ニ準用スルコトヲ得但シ河川法第六條但書第八條、第二十四條第二項、第二十六條乃至第二十八條及第三十三條ノ規定ハ此ノ限ニ在ラス

府縣知事ニ於テ前項ニ依リ河川法ノ規定ヲ準用セントスルトキハ内務大臣ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス

○

朕軍衙間囚人及刑事被告人押送規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十二年十月十四日

内務大臣侯爵西郷從道
陸軍大臣子爵桂太郎
海軍大臣　山本權兵衛

勅令第四百五號（官報十月十六日）

軍衙間囚人及刑事被告人押送規則

第一條　囚人及刑事被告人ノ押送ハ陸軍ニ於テハ陸軍兵員海軍ニ於テハ海軍兵員憲兵若ハ海軍警査ヲシテ之ヲ爲サシム但シ被押送者在監人ナルトキハ陸軍監獄若ハ海軍監獄看守長看守ヲシテ押送セシムルコトヲ得

第二條　囚人及刑事被告人ヲ押送セントスルトキハ發送官衙ニ於テ押送狀ヲ作リ被押送者ニ關スル必要ナル書類ヲ添ヘ被押送者ト共ニ押送者ニ交付スヘシ

押送狀ニハ被押送者ノ本籍住所所屬身分氏名年齢、刑名刑期又ハ被告事件人相竝著用被服所持品送致貨幣物品書類ノ目錄等ヲ記載スヘシ

押送者ハ押送經路、宿泊、被押送者ノ傷痍疾病暴行其ノ他押送中ニ生シタル重要ナル事項ヲ押送狀ニ記入スヘシ

第三條　傷痍ヲ受ケ若ハ疾病ニ罹リタル者ハ醫師ニ於テ差支ナシト認ムルニ非サレハ之ヲ押送スルコトヲ得ス

第四條　被押送者ノ所持スル貨幣物品ヲ被押送者ト同時ニ送致スルトキハ左ノ手續ニ依ルヘシ

一　物品ハ押送者ニ託シテ送致ス但シ危險ノ虞アル物品及押送者ノ携帶ニ堪ヘサル物品ハ此ノ限ニ在ラス

二　貨幣ハ押送者ニ託セス保管金寄託替ノ手續ニ依リ送致ス但シ五圓未滿ノ金額若ハ押送期間一日以上ニ亙ラサル場合及刑事被告人ニ屬スル貨幣ニシテ本人ノ請求アル場合ハ押送者ニ託スルコトヲ得

前項ニ依リ送致スル貨幣物品ハ押送者ニ託スル場合ニ於テハ押送官衙ノ保管ニ屬シ押送者ニ託セサル場合ニ於テハ發送官衙ノ保管ニ屬ス

第五條　押送ハ汽車汽船ニ依ルモノ若ハ特別ノ事由アルトキノ外日出前日沒後ニ於テ之ヲ爲スコトヲ得ス

第六條　押送中宿泊ヲ要スルトキハ被押送者ヲ陸軍監獄若ハ海軍監獄ニ付託シテ宿泊セシメ陸軍監獄若ハ海軍監獄ナキ地ニ於テハ警察署若ハ警察分署ニ付託シテ宿泊セシムヘシ

前項ノ官署ナキ地ニ於テハ適宜被押送者ノ宿泊ヲ定ムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ憲兵警察官吏及市町村吏員ノ助力ヲ求ムルコトヲ得

第七條　押送中被押送者傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リタルトキハ押送者ハ速ニ相當ノ手當ヲ爲スヘ

シ此ノ場合ニ於テハ憲兵警察官吏及市町村吏員ノ助力ヲ求ムルコトヲ得

第八條　押送中被押送者逃走ヲ謀リ又ハ暴行ヲ爲サムトシ其ノ他押送ヲ全クスルコトヲ得サル虞アルトキハ押送者ハ憲兵及警察官吏ノ助力ヲ求ムルコトヲ得

第九條　押送中被押送者ノ傷痍疾病其ノ他已ムコトヲ得サル事由ニ因リ押送ノ停止ヲ要スルトキハ押送者ハ一時被押送者ヲ陸軍監獄若ハ海軍監獄ニ付託シ陸軍監獄若ハ海軍監獄ナキ地ニ於テハ警察署若ハ警察分署ニ付託スルコトヲ得

押送ヲ停止シタルトキハ其ノ旨ヲ押送官衙ニ通知シ指揮ヲ待ツヘシ

第十條　押送中被押送者死亡シタルトキハ押送者ハ速ニ其ノ旨ヲ本人所屬ノ官衙發送押送受送ノ各官衙本籍市町村長及近地所在ノ親族ニ通知シ醫師ヨリ死亡證書ヲ徵シ死亡後二十四時ヲ經死體引取人ナキトキハ其ノ地ニ於テ假埋葬ヲ爲スヘシ但シ死體引渡及埋葬ニ付本人所屬ノ官衙若ハ押送官衙ヨリ別段ノ指示アリタルトキハ其ノ指示ニ從フヘシ

前項ノ處分ヲ爲スニ付テハ憲兵警察官吏及市町村吏員ノ助力ヲ求ムルコトヲ得

死體ニ關スル處分ハ之ヲ本人所屬ノ官衙押送官衙及本籍市町村長ニ通知スヘシ此ノ通知ニハ死亡證書ヲ添附スルコトヲ要ス

第十一條　被押送者ニ屬スル食料其ノ他ノ費用ハ押送官衙ノ負擔トス

第十二條　押送中被押送者逃走シタルトキハ押送者ハ直ニ其ノ旨ヲ最寄ノ憲兵屯所憲兵分屯所警察署警察分署巡査派出所若ハ巡査駐在所ニ急報シ且速ニ發送押送受送ノ各官衙ニ通知シ第二條及第四條ニ記載シタル書類貨幣及物品ヲ押送官衙ニ返付スヘシ

第十三條　被押送者傳染病流行地ヲ經過シタルトキハ離隔消毒法ヲ行フヘシ

第十四條　本令ニ於テ押送官衙ト稱スルハ押送者ノ屬スル官衙ヲ謂フ

○

朕海軍高等武官補充條例中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十二年十月十六日

海軍大臣山本權兵衛

勅令第四百六號（官報十月十八日）

海軍高等武官補充條例中左ノ通改正ス

第十五條　候補生ニシテ左ノ諸項ノ一ニ該當スル者ハ之ヲ免ス

一　傷痍若ハ疾病ノ爲高等武官タルニ適セサル者

二　品行不正ニシテ改悛ノ目途ナキ者

三　公務ニ原因セサル事由ニ因リ生死不分明ナル者

四　實務練習ノ成績劣等ニシテ發達ノ目途ナキ者

五　高等武官タル材能ニ乏シキ者

六　候補生タル本分ニ背キタル者

〔參照〕

勅令第三百十四號海軍高等武官補充條例（明治三十年九月十七日官報）抄錄

第十五條　海軍大臣ハ候補生ノ品行不正ニシテ高等武官タルノ資格ヲ缺キ若ハ傷痍疾病ノ爲メ高等武官ニ適セスト認メタルトキハ之ヲ免ス

朕聯隊區司令部條例中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十二年十月二十日

陸軍大臣子爵桂　太郎

勅令第四百七號（官報十月二十一日）

聯隊區司令部條例中左ノ通改正ス

第一條中「軍醫軍吏」ヲ削ル

第五條　書記ハ上官ノ指揮ヲ受ケ記注計算ノ事ニ從フ

第六條　聯隊區司令部ノ位置ハ陸軍大臣之ヲ定ム

第七條以下削除

附則

本令ハ明治三十二年十二月一日ヨリ施行ス

〔參照〕

勅令第五十六號聯隊區司令部條例（明治二十九年三月二十六日官報）抄錄

第一條　各聯隊區ニ司令部ヲ置ク其ノ職員左ノ如シ

司令官　佐官　大（中）尉

副官

軍醫

軍吏

書記

司令官以下ハ現役、豫備、後備ノモノヲ以テ充クルコトヲ得其ノ豫備、後備ノモノハ召集中ノ者ニ同シ

第五條　軍醫ハ徵兵、志願兵及諸生徒志願者ノ身體檢査ニ從事シ且之ニ關スル事務ヲ管理ス

第六條　軍吏ハ會計一般ノ事務ニ服ス

第七條　書記ハ上官ノ指揮ヲ受ケ記注計算ノ事ニ從フ

第八條　各聯隊區司令部ノ位置ハ左ノ如シ

本郷　宇都宮　佐倉　水戸　麻布　横濱　高崎　長野　仙臺　福島　新發田　柏崎　名古屋

津　豐橋　靜岡　大阪　和歌山　大津　京都　廣島　尾道　山口　濱田　熊本　大村

鹿兒島　宮崎　札幌　函館　釧路　旭川　弘前　盛岡　秋田　山形　金澤　富山　蹄江

岐阜　福知山　神戸　姫路　鳥取　丸亀　徳島　松山　高知　小倉　大分　福岡　佐賀

附則

第九條　淺田、大村、弘前、蹄江各聯隊區司令部ハ當分其ノ區内ニ於ケル從前ノ大隊區司令部所在地ニ置クコトヲ得

第十條　本條例ハ明治二十九年四月一日ヨリ施行ス

第十一條　大隊區司令部條例ハ本條例施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

○

朕警備隊司令部條例中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十二年十月二十日

陸軍大臣子爵桂　太郎

勅令第四百八號（官報十月二十一日）

警備隊司令部條例中左ノ通改正ス

第七條第八條削除

第九條ヲ第七條ニ第十條ヲ第八條ニ改ム

附則

本令ハ明治三十二年十二月一日ヨリ施行ス

〔參照〕

勅令第二百三十九號警備隊司令部條例（明治三十年七月十七日官報）抄錄

第七條　軍醫ハ衛生一般ノ事務ニ服シ其ノ他徴兵、志願兵及諸生徒志願者ノ身體檢査ニ從事シ且其ノ事務ヲ管理ス

第八條　軍吏ハ經理一般ノ事務ニ服ス

○

朕沖繩警備隊區司令部條例中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

陸軍大臣子爵桂　太郎

御名御璽

明治三十二年十月二十日

勅令第四百九號（官報十月二十一日）

沖繩警備隊區司令部條例中左ノ通改正ス

第一條中「軍醫」ヲ削ル

第五條　書記ハ上官ノ指揮ヲ受ケ記注計算ノ事ニ從フ

第六條　警備隊區司令部ノ位置ハ陸軍大臣之ヲ定ム

附則

本令ハ明治三十二年十二月一日ヨリ施行ス

〔參照〕

勅令第三十六號沖繩警備隊區司令部條例（明治三十一年三月八日官報）抄錄

第一條　沖繩警備隊區ニ司令部ヲ置ク其ノ職員左ノ如シ

司令官　少佐（大尉）

副官　大尉（中尉）

軍醫

書記

司令官以下ハ現役、豫備役、後備役ノモノヲ以テ充フルコトヲ得其ノ豫備役、後備役ノ者ノ身分取扱ハ召集中ノ者ニ同シ

第五條　軍醫ハ徴兵志願兵及諸生徒志願者ノ身體檢査ニ從事シ且之ニ關スル事務ヲ管理ス

第六條　書記ハ上官ノ指揮ヲ受ケ記注計算ノ事ニ從フ

○

朕判事檢事官等俸給令中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

内閣總理大臣侯爵山縣有朋

司法大臣　清浦奎吾

御名御璽

明治三十二年十月二十五日

勅令第四百十號（官報十月二十六日）

判事檢事官等俸給令中左ノ通改正ス

第二條中「部長十五人」ヲ「部長十七人」ニ「判事八十五人」ヲ「判事九十九人」ニ「判事三百十五人」ヲ「判事三百九人」ニ「判事六百七十四人」ヲ「判事六百六十四人」ニ改ム

〔參照〕

勅令第百五十三號判事檢事官等俸給令（明治三十二年四月十八日官報）抄錄

第二條　判事檢事ノ各職ニ付人員ヲ定ムルコト左ノ如シ
控訴院ハ院長七人部長十五人判事八十五人ヲ以テ定員トス
地方裁判所ハ所長四十九人部長七十人判事三百十五人ヲ以テ定員トス
區裁判所ハ判事六百七十四人ヲ以テ定員トス

○

朕陸軍武官官等表中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十二年十月二十五日

陸軍大臣子爵桂太郎

勅令第四百十一號（官報十月二十六日）

陸軍武官官等表中軍樂部士官准士官及各兵科各部下士ノ各欄ヲ左ノ如ク改ム

准士官	各兵科下士
	陸軍憲兵曹長	陸軍憲兵伍長
陸軍歩兵特務曹長	陸軍歩兵軍曹	陸軍歩兵伍長
	陸軍屯田歩兵曹長	陸軍屯田歩兵伍長
陸軍騎兵特務曹長	陸軍騎兵軍曹	陸軍騎兵伍長
	陸軍屯田騎兵曹長	陸軍屯田騎兵伍長
陸軍砲兵特務曹長	陸軍砲兵軍曹	陸軍砲兵伍長
	陸軍屯田砲兵曹長	陸軍屯田砲兵伍長
陸軍砲兵上等工長	陸軍砲兵一等縫工長	陸軍砲兵一等縫工長
	陸軍砲兵一等木工長	陸軍砲兵一等木工長
	陸軍砲兵一等鍛工長	陸軍砲兵一等鍛工長
	陸軍砲兵二等縫工長	陸軍砲兵二等縫工長
	陸軍砲兵二等木工長	陸軍砲兵二等木工長
	陸軍砲兵二等鍛工長	陸軍砲兵二等鍛工長
	陸軍砲兵三等縫工長	陸軍砲兵三等縫工長
	陸軍砲兵三等木工長	陸軍砲兵三等木工長
	陸軍砲兵三等鍛工長	陸軍砲兵三等鍛工長
陸軍工兵特務曹長	陸軍工兵曹長	陸軍工兵伍長
陸軍工兵上等工長	陸軍屯田工兵曹長	陸軍屯田工兵伍長
陸軍輜重兵特務曹長	陸軍輜重兵軍曹	陸軍輜重兵伍長
	陸軍輜重兵一等縫工長	陸軍輜重兵一等縫工長
	陸軍輜重兵二等縫工長	陸軍輜重兵二等縫工長
	陸軍輜重兵三等縫工長	陸軍輜重兵三等縫工長
軍樂部士官	軍樂部准士官	軍樂部下士
陸軍樂長	陸軍樂長補	陸軍一等樂手	陸軍二等樂手	陸軍三等樂手
		陸軍一等計手	陸軍二等計手	陸軍三等計手
		陸軍一等縫工長	陸軍二等縫工長	陸軍三等縫工長
		陸軍一等靴工長	陸軍二等靴工長	陸軍三等靴工長
衛生部下士	陸軍一等看護長	陸軍二等看護長	陸軍三等看護長

附則

本令ハ明治三十二年十二月一日ヨリ之ヲ施行ス

○

朕文武判任官等級表中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十二年十月二十五日

内閣總理大臣侯爵山縣有朋

勅令第四百十二號（官報　十月二十六日）

文武判任官等級表中左ノ通改正ス

一等ノ欄「專賣局監視」ノ次ニ「陸軍各兵特務曹長竝相當官」ヲ加ヘ「陸軍砲工兵上等監護」ヲ「陸軍砲工兵上等工長」ニ改メ「陸軍二等軍樂長、陸軍各兵曹長（下副官教官補）」ヲ削ル

二等ノ欄「陸軍火工曹長」ヲ「陸軍各兵一等諸工長」ニ改メ「陸軍屯田火工曹長、陸軍砲工兵監護、陸軍砲蓋監守」ヲ削ル

三等ノ欄「陸軍各兵一等軍曹竝相當官」ヲ「陸軍各兵軍曹竝相當官」ニ「陸軍火工一等軍曹」ヲ「陸軍各兵二等諸工長」ニ改メ「陸軍屯田火工一等軍曹、陸軍各兵諸工長」ヲ削ル

四等ノ欄「陸軍各兵二等軍曹竝相當官」ヲ「陸軍各兵伍長竝相當官」ニ「陸軍火工二等軍曹」ヲ「陸軍各兵三等諸工長」ニ改メ「陸軍屯田火工二等軍曹、陸軍各兵諸工下長」ヲ削ル

附則

本令ハ明治三十二年十二月一日ヨリ之ヲ施行ス

○

朕政府ニ於テ施行スル造林及伐木事業ニ要スル人夫雇傭竝種苗供給ノ受負ハ隨意契約ニ依ルコトヲ得ルノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十二年十月二十六日

大蔵大臣伯爵松方正義
農商務大臣　實爾荒助

勅令第四百十三號（官報　十月二十七日）

政府ニ於テ施行スル造林及伐木事業ニ要スル人夫雇傭竝種苗供給ノ受負ハ隨意契約ニ依ルコトヲ得

○

朕旅團司令部條例中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十二年十月二十七日

陸軍大臣子爵桂　太郎

勅令第四百十四號（官報　十月二十八日）

旅團司令部條例中左ノ通改正ス

第一條中部下ノ下「ノ歩兵二」ノ四字ヲ削ル

第三條中訓練ニ任ノ下「シ又枝隊演習ヲ統監」ノ九字ヲ削ル

第四條ノ始メニ「歩兵旅團長ハ」ノ六字ヲ加フ

（參照）
勅令第五十四號旅團司令部條例（明治二十九年三月二十六日官報）抄錄